

さいたま市 生涯学習市民意識調査  
報 告 書

平成 30 年 10 月

さいたま市教育委員会



# 〔目次〕

<b>第1章 調査の概要</b> .....	1
1. 調査の目的 .....	3
2. 調査項目 .....	3
3. 調査の設計と回収状況 .....	3
4. この報告書の見方 .....	4
5. 回答者属性 .....	5
<b>第2章 調査結果の詳細</b> .....	7
1. 生涯学習の実施状況 .....	9
(1) この1年間に行った生涯学習 .....	9
(2) 生涯学習を行った場所や形態 .....	17
(3) 生涯学習を通じた人や地域とのつながり .....	21
(4) 生涯学習を行うようになったきっかけ .....	24
(5) 生涯学習を行う目的 .....	27
(6) 生涯学習を行う上での支障 .....	30
(7) 生涯学習に関する情報の入手先 .....	34
(8) 生涯学習に関して求める情報 .....	37
(9) 生涯学習の成果 .....	41
(10) 生涯学習の成果の活用先 .....	48
(11) 関心のある学習テーマ .....	51
2. 生涯学習に関連する施設 .....	54
(1) この1年間の市内生涯学習関連施設の利用状況 .....	54
(2) この1年間で最も頻繁に利用した施設 .....	57
(3) 市の生涯学習関連施設への要望 .....	60
3. 生涯学習に関する施策 .....	64
(1) 生涯学習に関する重点施策 .....	64
(2) 生涯学習を広めるための重点施策 .....	68
(3) 家庭教育に関する施策 .....	70
(4) 高齢者に対する施策 .....	73
(5) 学校と家庭及び地域住民の連携推進策 .....	76
(6) スキルアップや再チャレンジの支援策 .....	79
<b>第3章 自由回答</b> .....	83
<b>第4章 まとめ</b> .....	91
<b>付録 調査票</b> .....	95



# 第 1 章 調査の概要



## 1. 調査の目的

さいたま市民の生涯学習活動に関する実態及びニーズを調査し、「第2次さいたま市生涯学習推進計画」の次期計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査項目

### (1) 生涯学習の実施状況

- ① この1年間に行った生涯学習  
(場所や形態、生涯学習を通じた人や地域とのつながり、きっかけ、目的)
- ② 生涯学習を行う上での支障
- ③ 生涯学習に関する情報の入手先、求める情報
- ④ 生涯学習の成果、成果の活用先
- ⑤ 関心のある学習テーマ

### (2) 生涯学習に関連する施設

- ① この1年間の市内生涯学習関連施設の利用状況、最も頻繁に利用した施設
- ② 市の生涯学習関連施設への要望

### (3) 生涯学習に関する施策

- ① 生涯学習に関する重点施策
- ② 生涯学習を広めるための重点施策
- ③ 家庭教育に関する施策
- ④ 高齢者に対する施策
- ⑤ 学校と家庭及び地域住民の連携推進策
- ⑥ スキルアップや再チャレンジの支援策

## 3. 調査の設計と回収状況

- ① 調査地域 : さいたま市全域
- ② 調査対象 : さいたま市内在住の満20歳以上の男女
- ③ 調査対象数 : 2,500人
- ④ 抽出法 : 住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 : 郵送配布－郵送回収法
- ⑥ 調査期間 : 平成30年7月1日～7月17日
- ⑦ 回収状況 : 有効回収数 1,105 / 回収率 44.2%

#### 4. この報告書の見方

- (1) 図中の「n」(number of caseの略)は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100.0%を超える。
- (2) 調査結果の比率は、少数第2位を四捨五入して算出した。そのため、すべての比率を合計したときに100.0%にならない場合がある。
- (3) 図中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化してある。
- (4) クロス集計の図については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (5) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、回答者数(n)が20未満の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても本文の中ではふれていない。
- (6) 標本調査を行ったため、調査結果には統計上の誤差(標本誤差)が生じることがある。等間隔抽出法を用いた場合の標本誤差(信頼度を95%とした場合)は以下の式により求められる。

$$(\text{標本誤差}) \quad b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad \left[ \begin{array}{l} N = \text{母集団 (さいたま市全体)} \\ n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \\ p = \text{回答比率} \end{array} \right]$$

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなすことができるので、調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

表 標本誤差早見表 (信頼度 : 95%)

回答者の比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,105	±1.80%	±2.41%	±2.76%	±2.95%	±3.01%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.16%	±9.80%	±10.00%

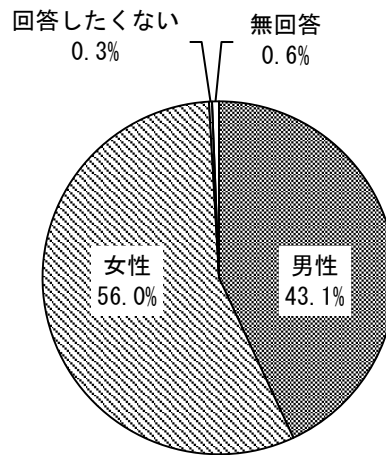
(注記) この表の見方

例えば、回答者数が1,105である質問における、ある1つの選択肢の回答の比率が30%であった場合、その回答の比率の誤差の範囲は±2.76% (27.24%~32.76%) の範囲にあることが95%の信頼度でいえることになる。



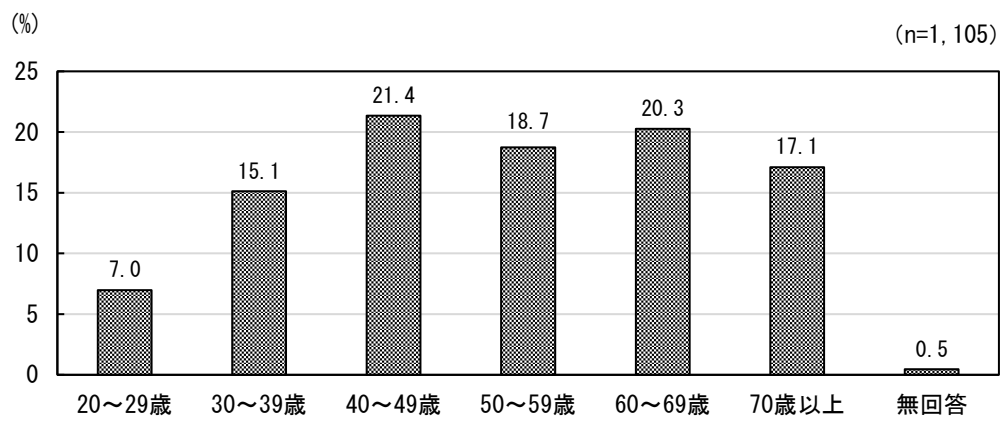
## 5. 回答者属性

### (1) 性別



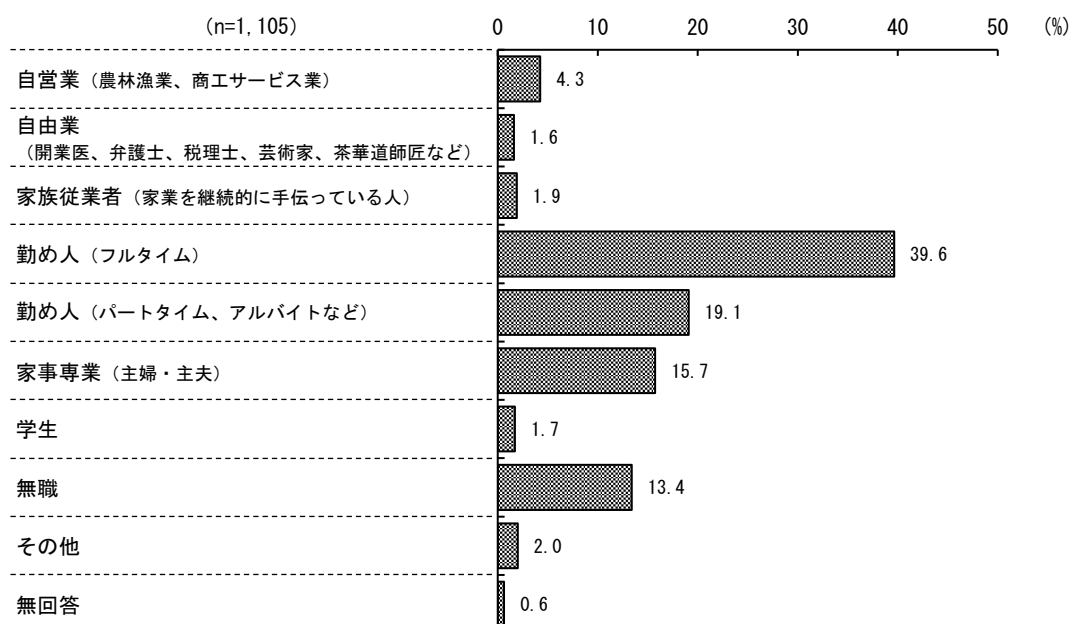
(n=1, 105)

### (2) 年齢

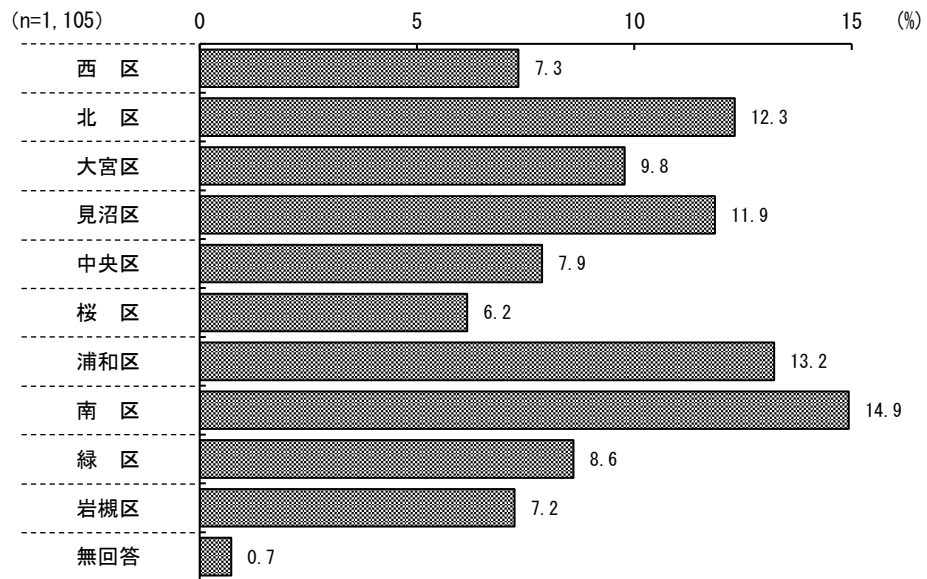


(n=1, 105)

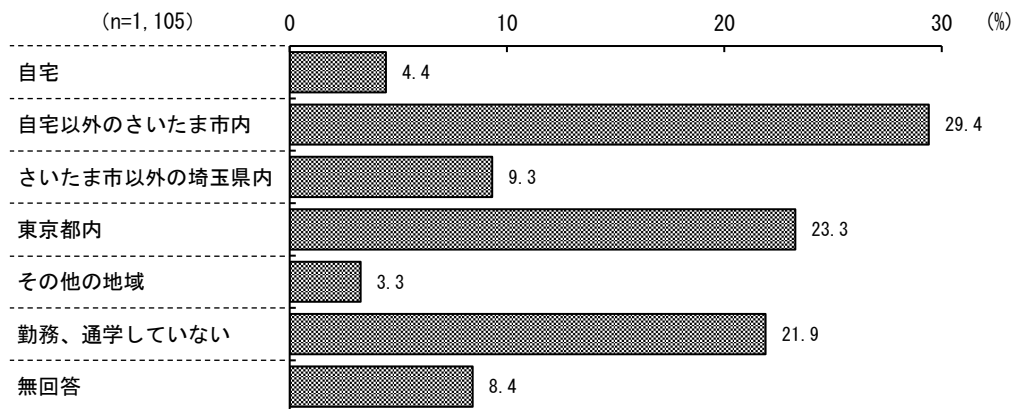
### (3) 職業



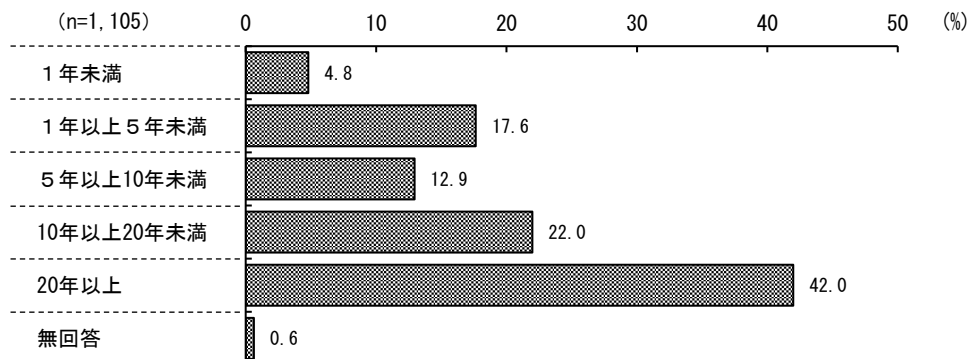
(4) 居住区



(5) 通勤・通学先



(6) 居住年数



## 第2章 調査結果の詳細

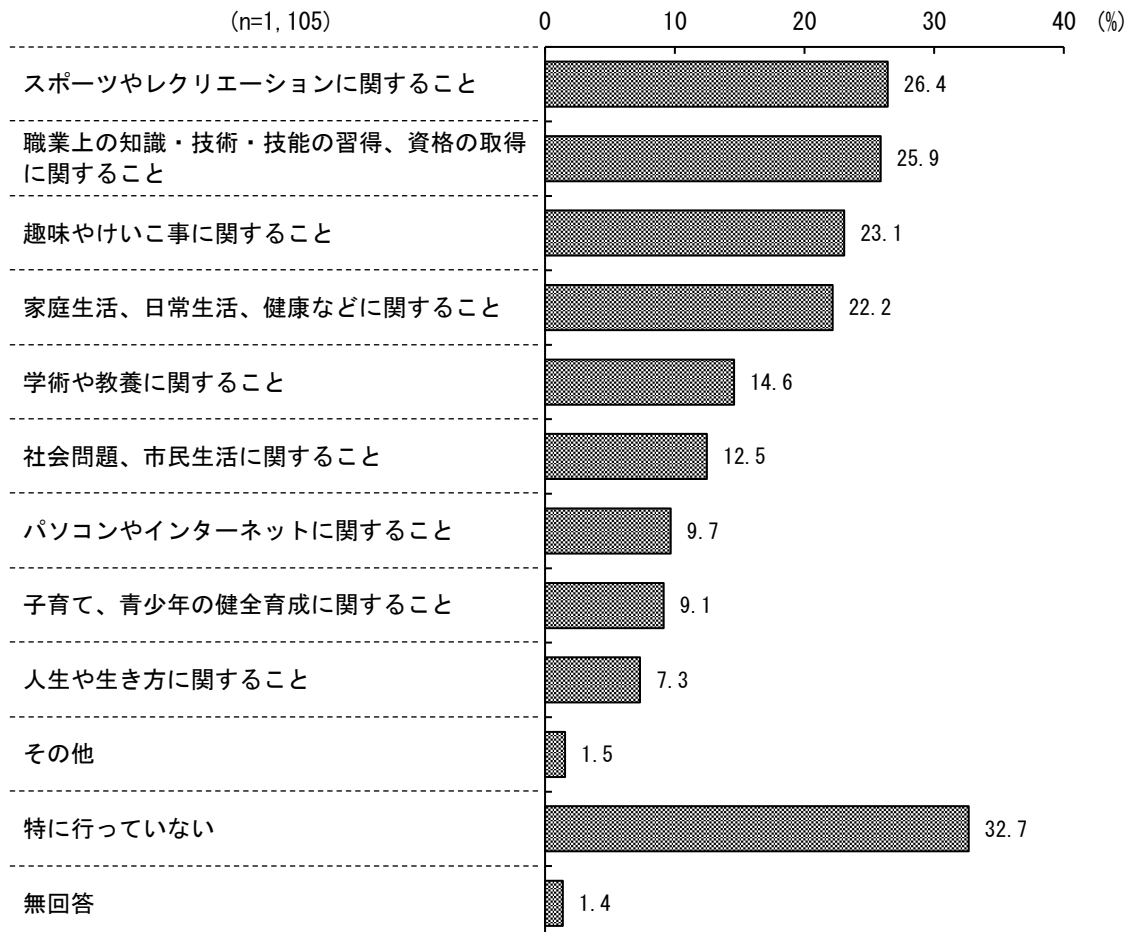


## 1. 生涯学習の実施状況

### (1) この1年間に行った生涯学習

Q1 あなたは、この1年間に、どのような生涯学習を行いましたか。

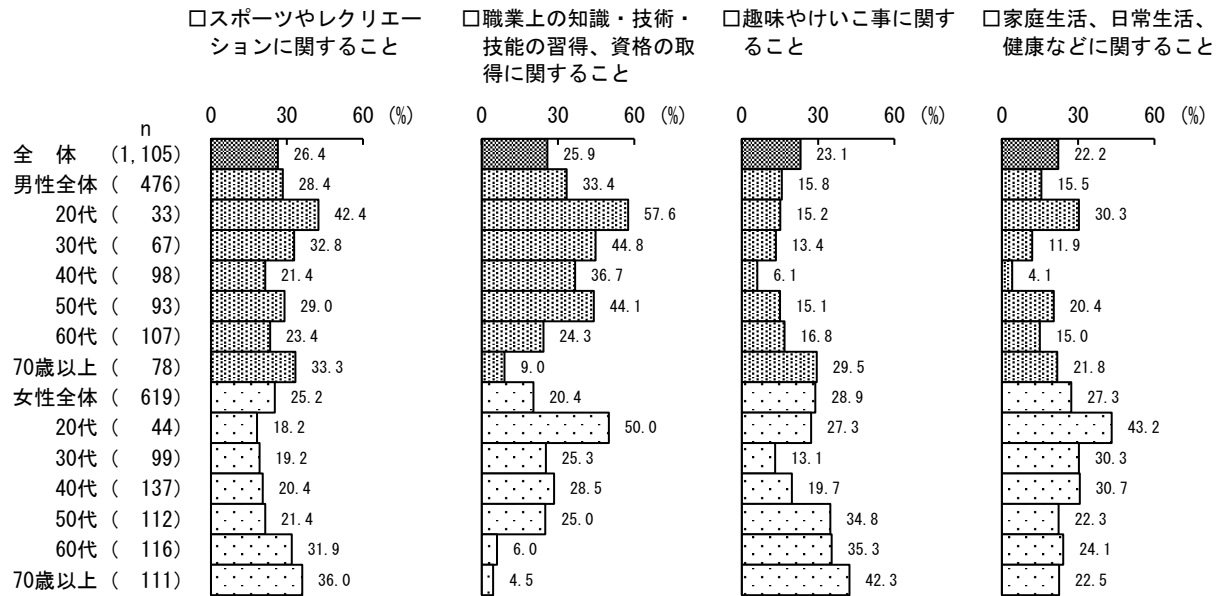
(○はあてはまるものすべて)



この1年間に行った生涯学習は、「スポーツやレクリエーションに関すること」(26.4%)が最も多く、以下「職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に関すること」(25.9%)、「趣味やけいこ事に関すること」(23.1%)、「家庭生活、日常生活、健康などに関すること」(22.2%)の4項目がいずれも2割を超え、多くなっている。

一方、「特に行っていない」(32.7%)は、3割強となっている。

〈 性別、性・年代別／この1年間に行った生涯学習／上位4項目 〉



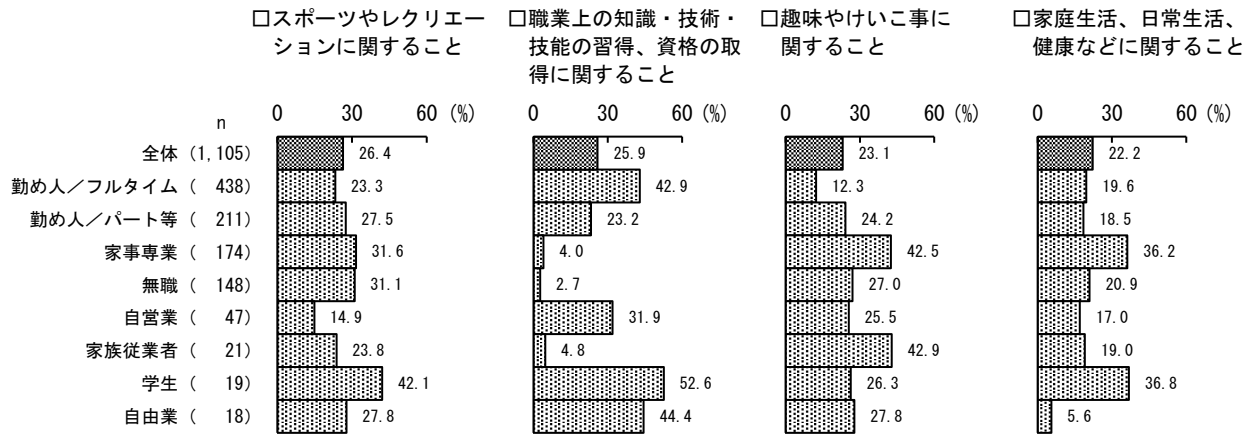
性別で見ると、男性では「職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に関すること」(33.4%)が最も多く、女性(20.4%)を1割以上上回っている。

一方、女性では「趣味やけいこ事に関すること」(28.9%)、「家庭生活、日常生活、健康などに関すること」(27.3%)が各々男性より1割以上多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、「職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に関すること」が20代で57.6%となっているほか、30代から50代でも4割前後と多くなっている。また、「スポーツやレクリエーションに関すること」は20代(42.4%)、30代(32.8%)、70歳以上(33.3%)で3割を超える一方、「趣味やけいこ事に関すること」「家庭生活、日常生活、健康などに関すること」は40代で1割未満となっている。

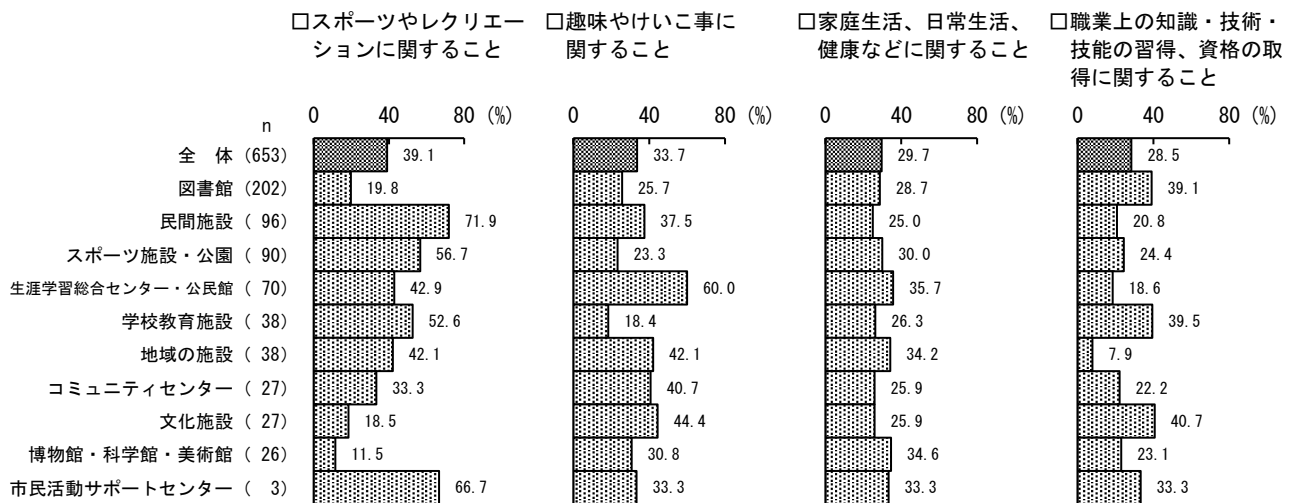
女性の場合も、「職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に関すること」が20代で半数を占めるが、30代(25.3%)ではほぼ半減し、40代以上でも男性を下回っている。また、「家庭生活、日常生活、健康などに関すること」は20~40代で3割以上と多くなっているのに対し、「スポーツやレクリエーションに関すること」「趣味やけいこ事に関すること」は概ね年代が上がるにつれ増加する傾向にある。

〈 職業別／この1年間に行った生涯学習／上位4項目 〉

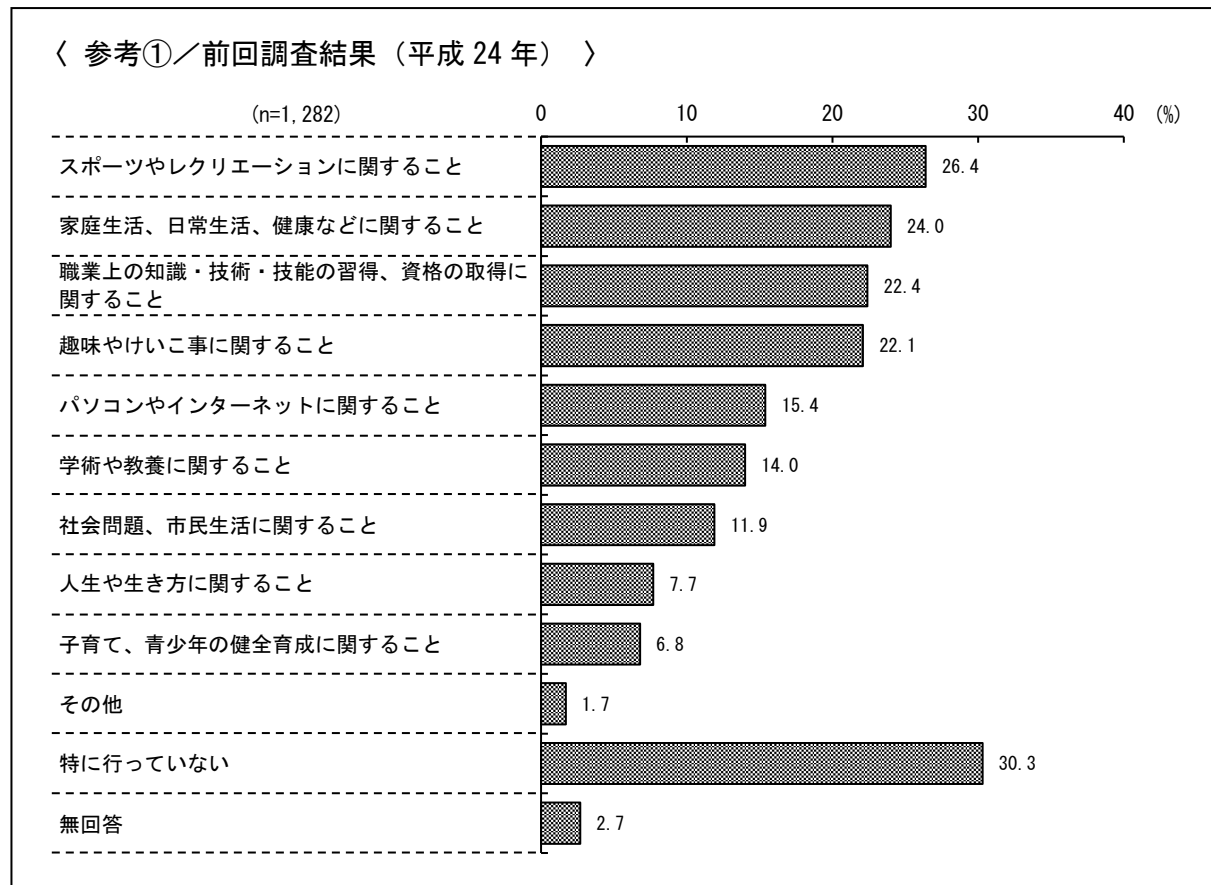


職業別でみると、「職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に関すること」は勤め人（フルタイム）（42.9%）と自営業（31.9%）、「趣味やけいこ事に関すること」は家族従業者（42.9%）と家事専業（42.5%）、「家庭生活、日常生活、健康などに関すること」は家事専業（36.2%）でそれぞれ多くなっている。また、「スポーツやレクリエーションに関すること」はどの職業においても概ね2～3割を占めているが、自営業（14.9%）は少なくなっている。

〈 この1年間で最も頻繁に利用した施設別／この1年間に行った生涯学習／上位4項目 〉

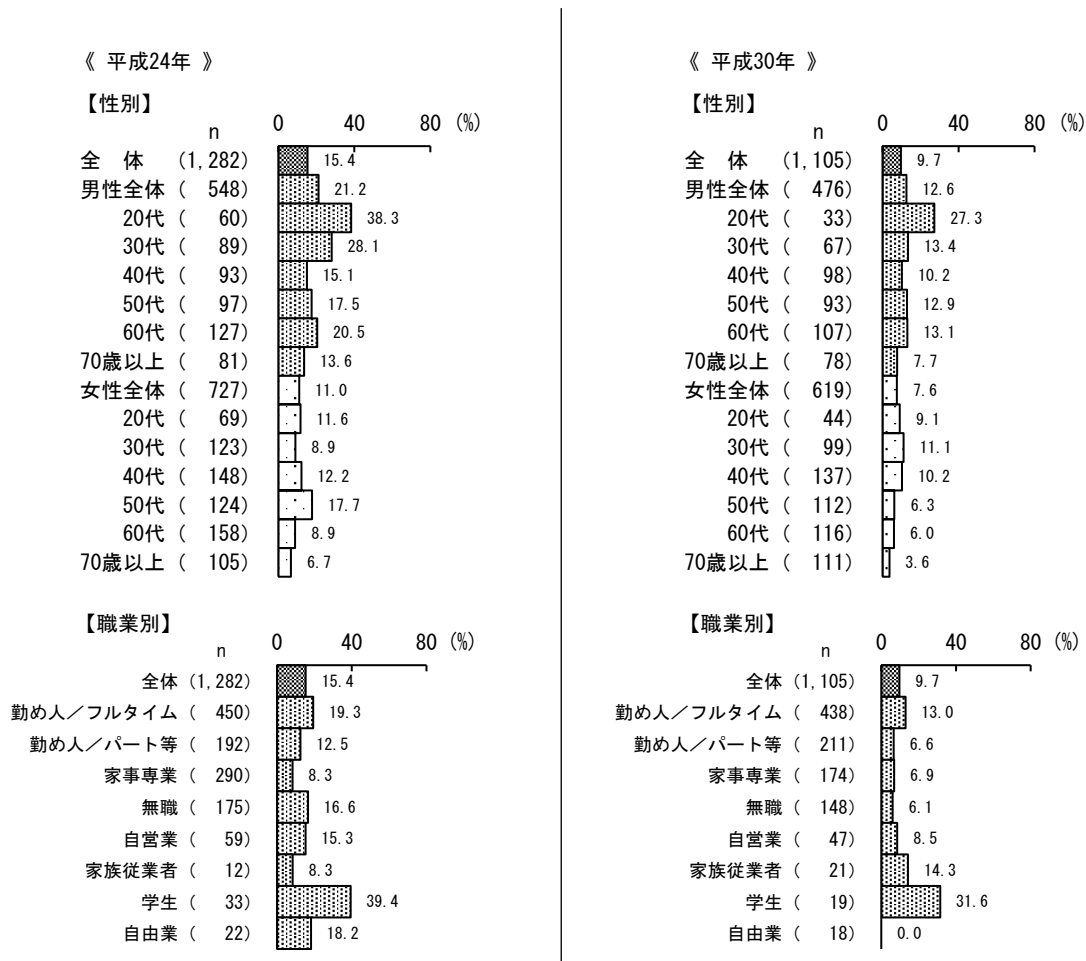


この1年間で最も頻繁に利用した施設別でみると、「スポーツやレクリエーションに関すること」はカルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設（71.9%）で7割を超え、体育館・テニスコート・プールなどの公共のスポーツ施設・公園（56.7%）や小・中・高等学校、大学などの学校教育施設（52.6%）も半数を超えている。一方、生涯学習総合センター・公民館では「趣味やけいこ事に関すること」（60.0%）が他の施設に比べ多くなっている。





・この1年間に行った生涯学習「パソコンやインターネットに関すること」の属性比較  
(平成24年と平成30年)



この1年間に行った生涯学習の中で「パソコンやインターネットに関すること」は平成24年に比べ、全体では5.7ポイント減少している。

性別でみると、男性が8.6ポイント、女性が3.4ポイント減少し、男性の減少幅は女性の2倍以上となっている。

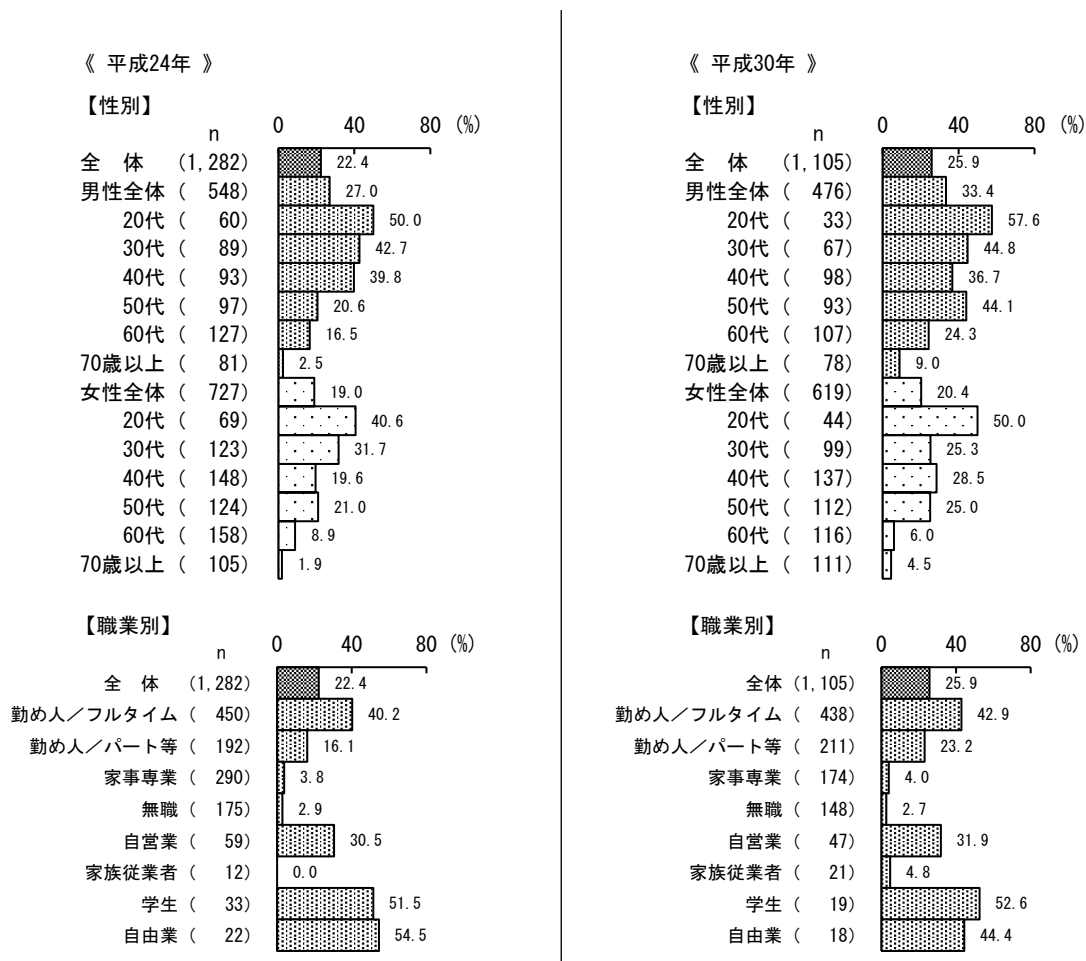
性・年代別でみると、男性の場合、すべての年代で減少しているが、特に20代(11.0ポイント減)、30代(14.7ポイント減)の若い年代では1割以上大幅に減少している。

一方、女性の場合は50代(11.4ポイント減)の中年層で減少幅が最も大きくなっている。また、20代で2.5ポイント減少するものの、30代では2.2ポイント増加しており、同じ年代でも男女の傾向に違いがみられる。

若い年代を中心とした普及に伴い、パソコンやインターネットに関する知識、技術をあらためて学習する必要性が少なくなっていると推測される。

職業別でみると、無職(10.5ポイント減)が最も大きく減少し、次いで自営業が6.8ポイント、勤め人/フルタイムが6.3ポイントの減少となっている。

- ・この1年間に行った生涯学習「職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に関すること」の属性比較（平成24年と平成30年）



この1年間に行った生涯学習の中で「職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に関すること」は平成24年に比べ、全体では3.5ポイント増加している。

性別でみると、男性が平成24年に比べ6.4ポイント増加したのに対し、女性は1.4ポイント増で、男性に比べわずかな増加にとどまっている。

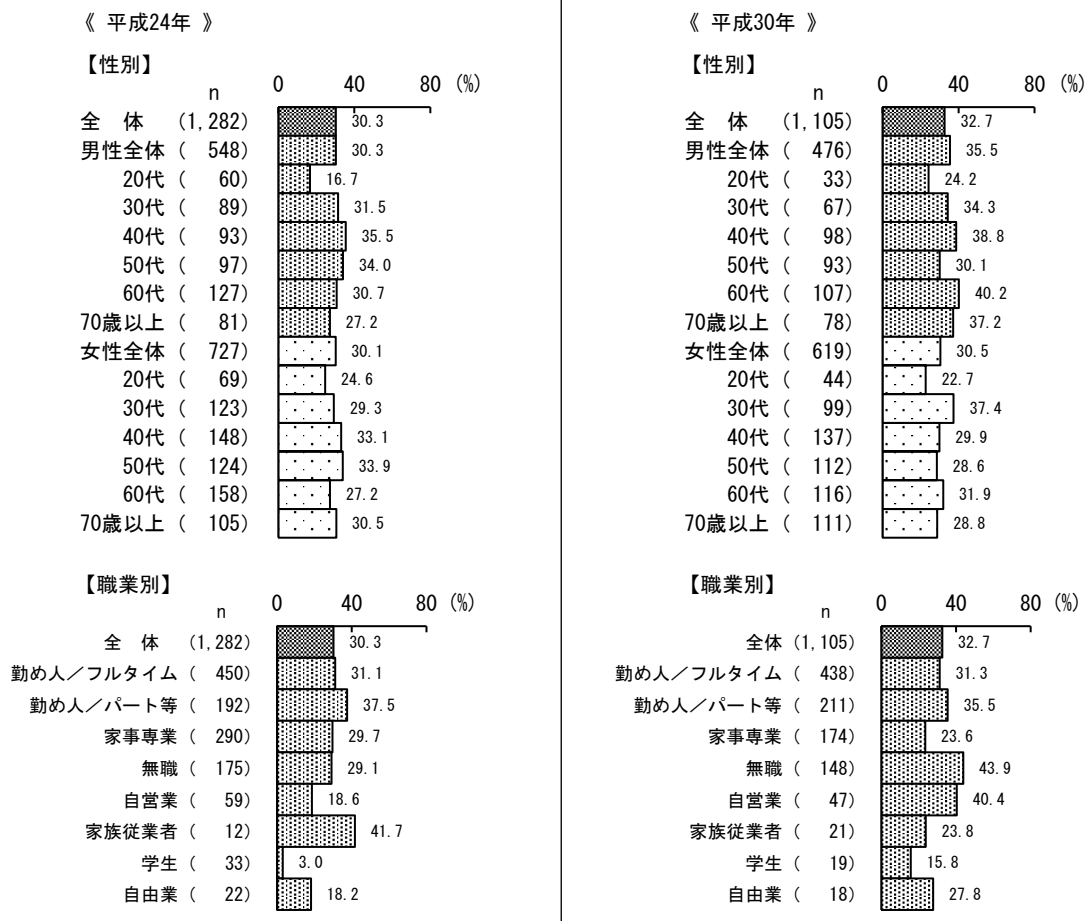
性・年代別でみると、男性の場合、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは50代（23.5ポイント増）で、60代（7.8ポイント増）や20代（7.6ポイント増）の3倍を上回っている。それに対し、40代は3.1ポイントの減少となっている。

一方、女性の場合、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは20代（9.4ポイント増）で、次点の40代（8.9ポイント増）も1割増増加している。それに対し、30代（6.4ポイント減）や60代（2.9ポイント減）は平成24年を下回っている。

その結果、依然として20代が男女とも最も割合が高いものの、男性は高齢層での増加傾向が強まり、年代による差が縮小している。一方、女性は引き続き20代が突出する傾向が継続している。

職業別でみると、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは勤め人/パート等（7.1ポイント増）で、勤め人/フルタイム（2.7ポイント増）が続く。一方、家事専業（0.2ポイント増）、無職（0.2ポイント減）はほぼ横ばいとなっている。

・この1年間に行った生涯学習「特に行っていない」の属性比較（平成24年と平成30年）



この1年間に行った生涯学習の中で「特に行っていない」は平成24年に比べ、全体では2.4ポイント増加している。

性別で見ると、男性が平成24年に比べ5.2ポイント増加したのに対し、女性は0.4ポイント増でほぼ横ばいとなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは70歳以上（10.0ポイント増）で、60代（9.5ポイント増）や20代（7.5ポイント増）が続く。それに対し、50代は3.9ポイントの減少となっている。

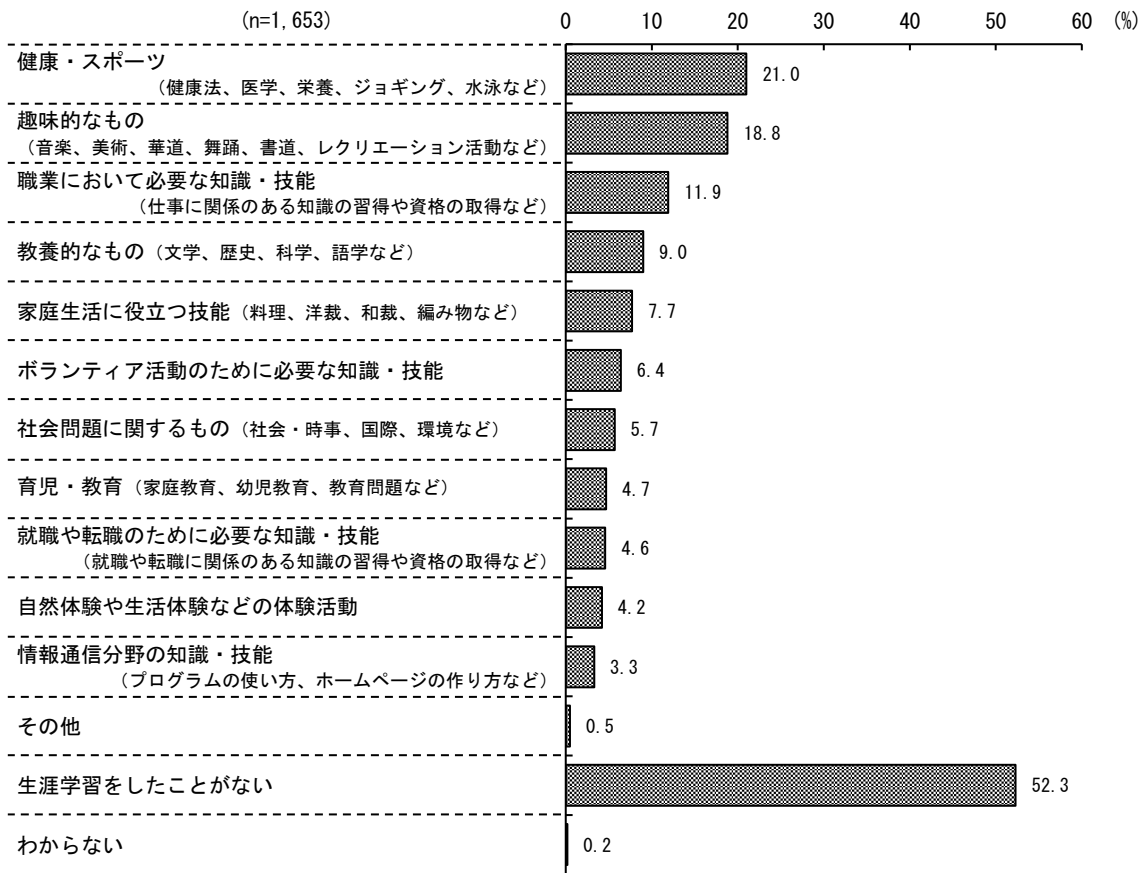
一方、女性の場合、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは30代（8.1ポイント増）で、60代（4.7ポイント増）も増加している。それ以外の年代はすべて平成24年を下回っており、50代（5.3ポイント減）や40代（3.2ポイント減）は減少幅が大きくなっている。

その結果、男女とも平成24年と同様20代が最少となっている。一方、男性は50代の減少により40代と60代の2つのピークが生じているのに対し、女性は30代が最多となり、40歳以上は年代による差が小さくなっている。

職業別で見ると、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは自営業（21.8ポイント増）で、2割を超える大幅な増加となっている。また、無職（14.8ポイント増）の伸びも大きくなっている。

一方、家事専業（6.1ポイント減）や勤め人/パート等（2.0ポイント減）は平成24年を下回っている。

〈 参考②／内閣府調査結果（平成27年） 〉

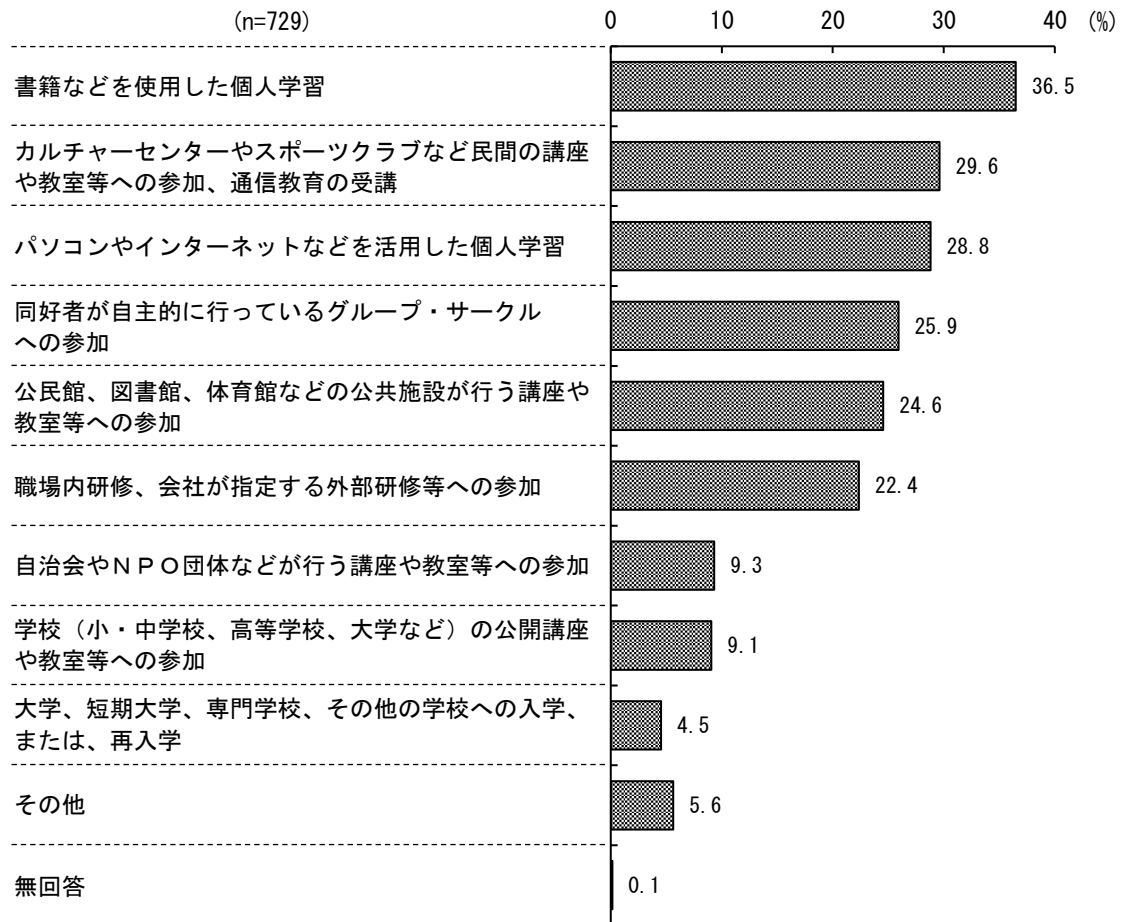


## (2) 生涯学習を行った場所や形態

(Q1で「1~10」に1つでも○を付けた方)

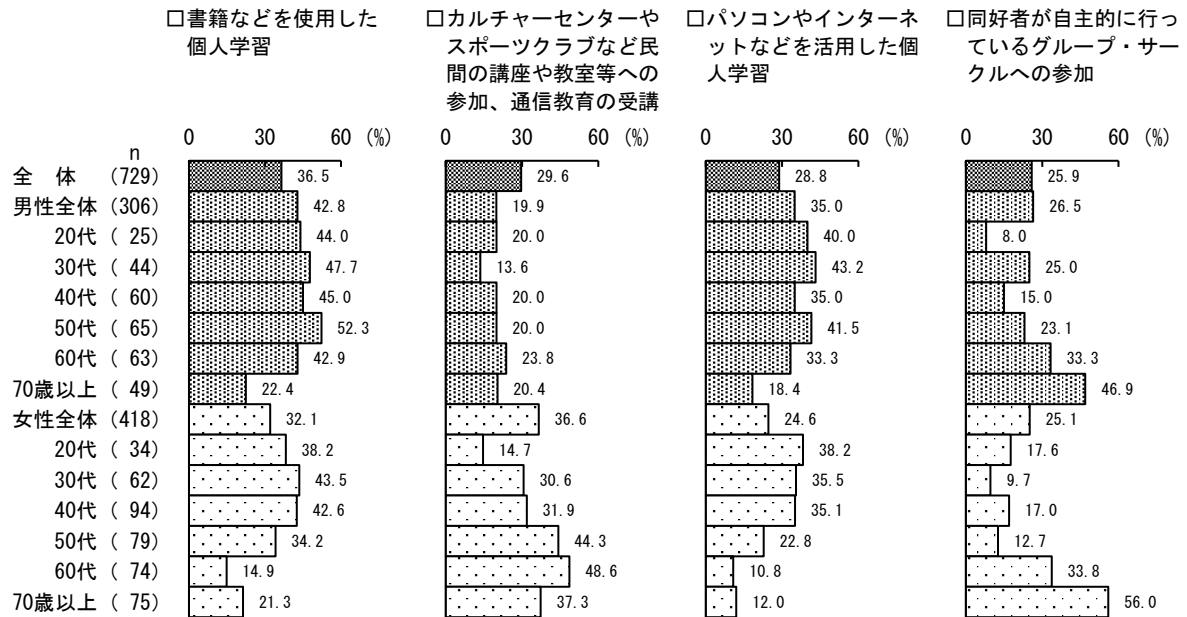
Q1-1 あなたは、どのような場所や形態でその生涯学習を行いましたか。

(○はあてはまるものすべて)



この1年間に生涯学習を行った人に、その場所や形態を聞いたところ、「書籍などを使用した個人学習」が36.5%で最も多く、以下「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室等への参加、通信教育の受講」(29.6%)、「パソコンやインターネットなどを活用した個人学習」(28.8%)、「同好者が自主的に行っているグループ・サークルへの参加」(25.9%)の順が続いている。

〈 性別、性・年代別／生涯学習を行った場所や形態／上位4項目 〉



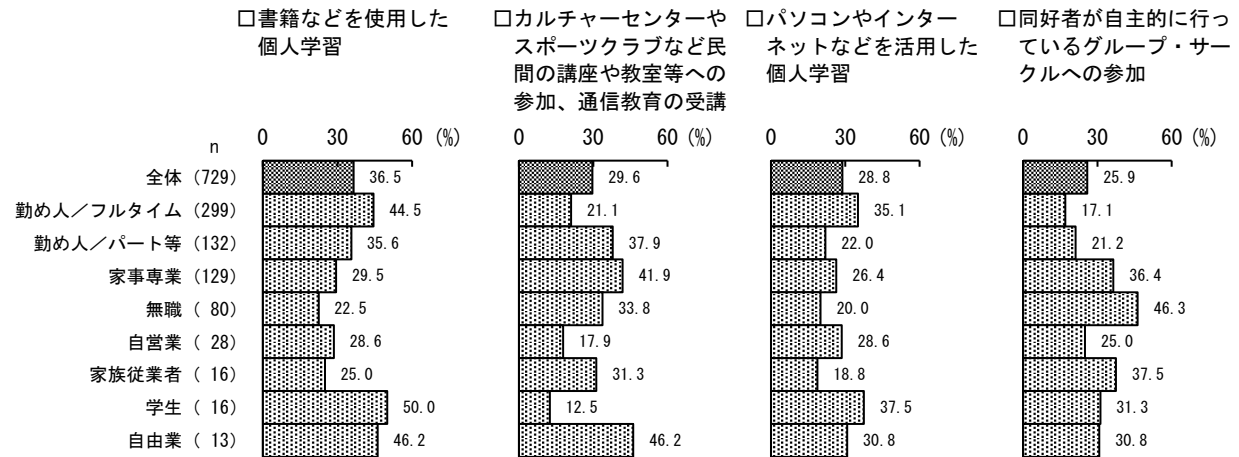
性別でみると、男性では「書籍などを使用した個人学習」(42.8%)、「パソコンやインターネットなどを活用した個人学習」(35.0%)が各々女性より1割以上多くなっている。

一方、女性では「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室等への参加、通信教育の受講」(36.6%)が最も多くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、20～60代で「書籍などを使用した個人学習」が4割以上、「パソコンやインターネットなどを活用した個人学習」が3割以上を占める。各々、特に50代以上で女性との差が大きくなっている。また、「同好者が自主的に行っているグループ・サークルへの参加」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上(46.9%)では4割を超える。

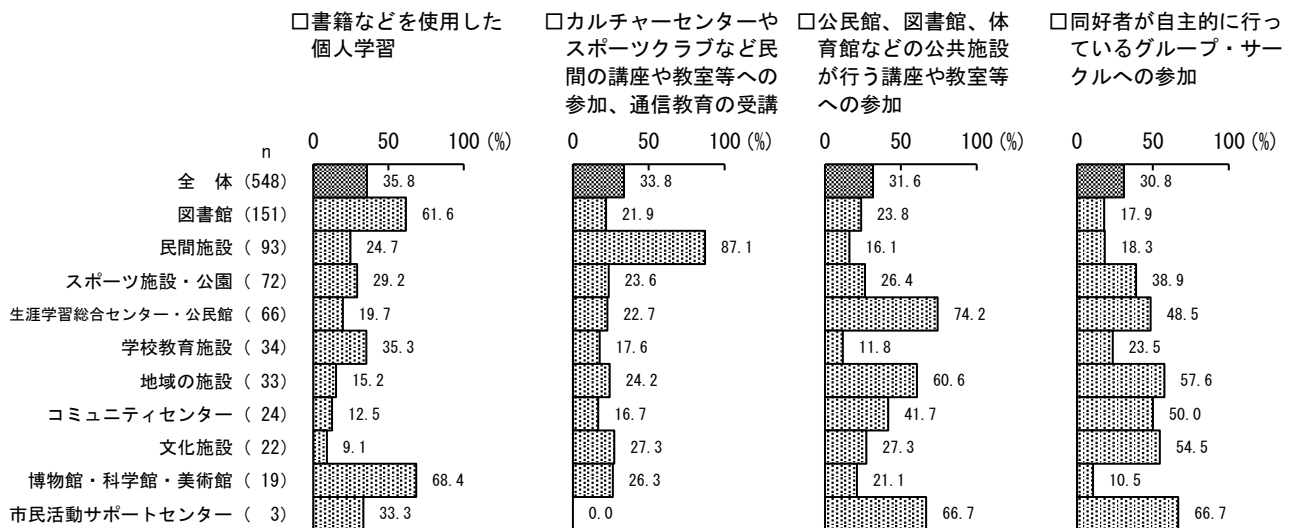
女性の場合、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室等への参加、通信教育の受講」が30代以上で3割を超え、50～60代では男性の約2倍となっている。また、男性同様「同好者が自主的に行っているグループ・サークルへの参加」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上(56.0%)では半数を超える。

〈 職業別／生涯学習を行った場所や形態／上位4項目 〉



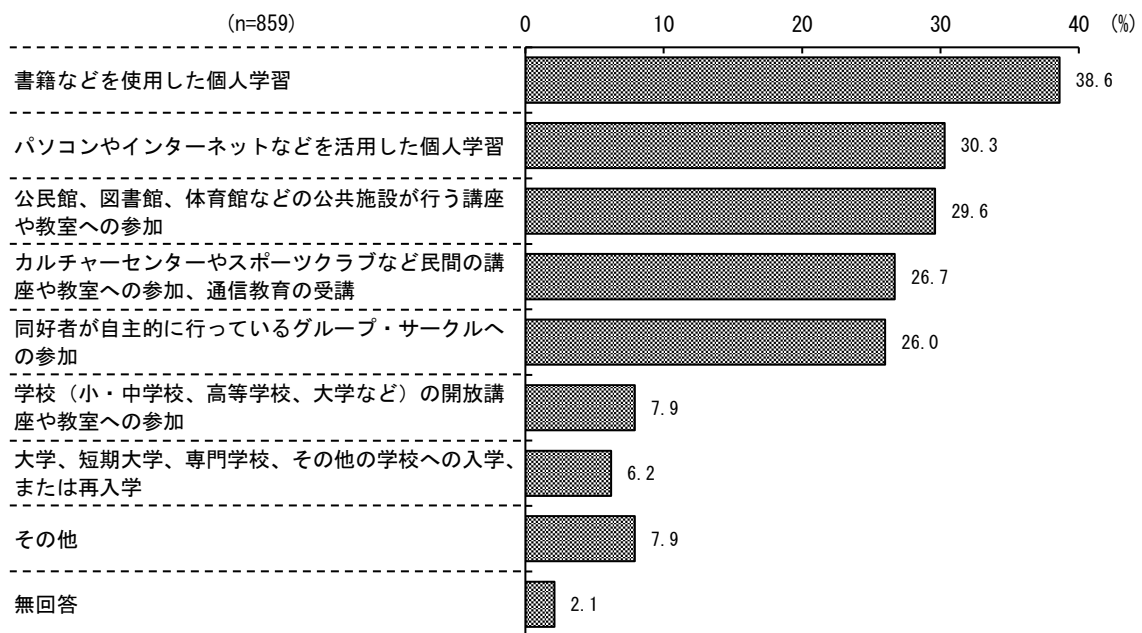
職業別でみると、勤め人（フルタイム）は「書籍などを使用した個人学習」（44.5%）、「パソコンやインターネットなどを活用した個人学習」（35.1%）が多いのに対し、勤め人（パート等）は「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室等への参加、通信教育の受講」（37.9%）や「書籍などを使用した個人学習」（35.6%）、家事専業は「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室等への参加、通信教育の受講」（41.9%）や「同好者が自主的に行っているグループ・サークルへの参加」（36.4%）が多くなっている。また、無職は「同好者が自主的に行っているグループ・サークルへの参加」（46.3%）が4割を超えている。

〈 この1年間で最も頻繁に利用した施設別／生涯学習を行った場所や形態／上位4項目 〉

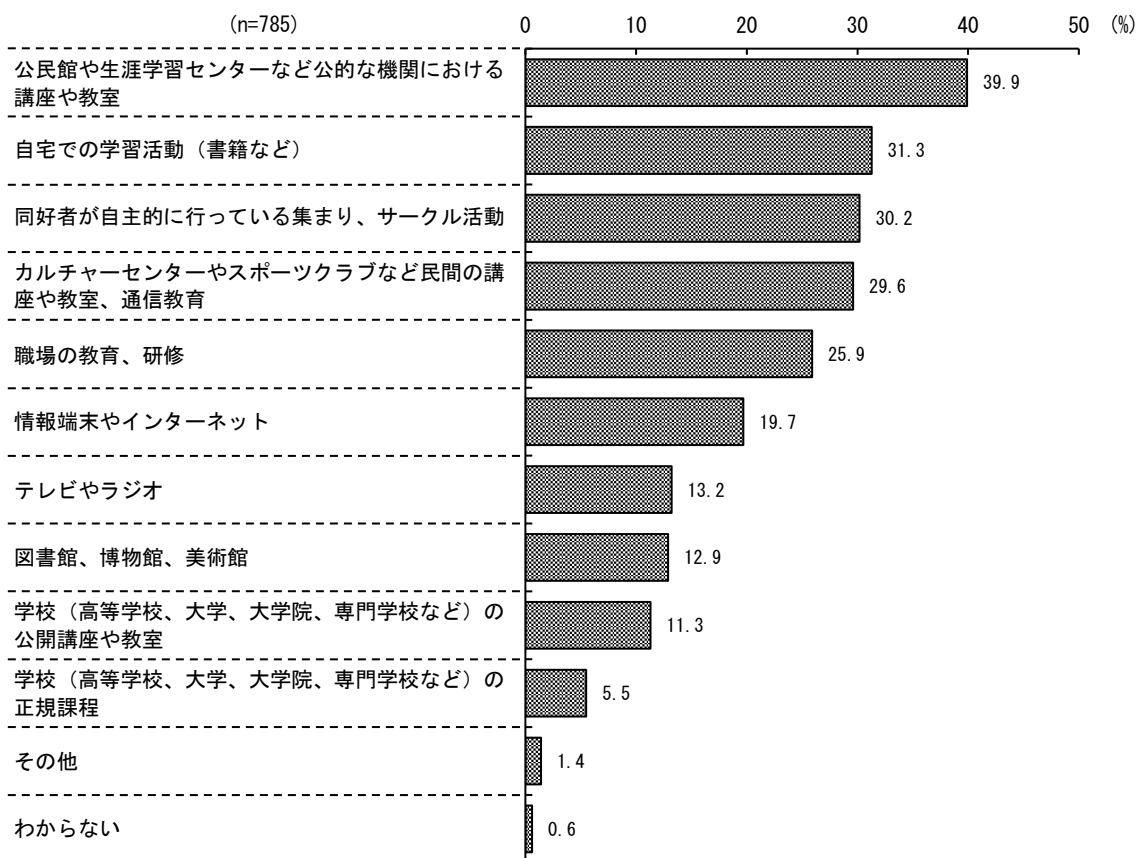


この1年間で最も頻繁に利用した施設別でみると、民間施設では「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室等への参加、通信教育の受講」（87.1%）、図書館では「書籍などを使用した個人学習」（61.6%）がそれぞれ突出している。また、生涯学習総合センター・公民館、地域の施設では「公民館、図書館、体育館などの公共施設が行う講座や教室等への参加」が、前者74.2%、後者60.6%と、他の施設より多くなっている。

〈 参考①／前回調査結果（平成24年） 〉



〈 参考②／内閣府調査結果（平成27年） 〉



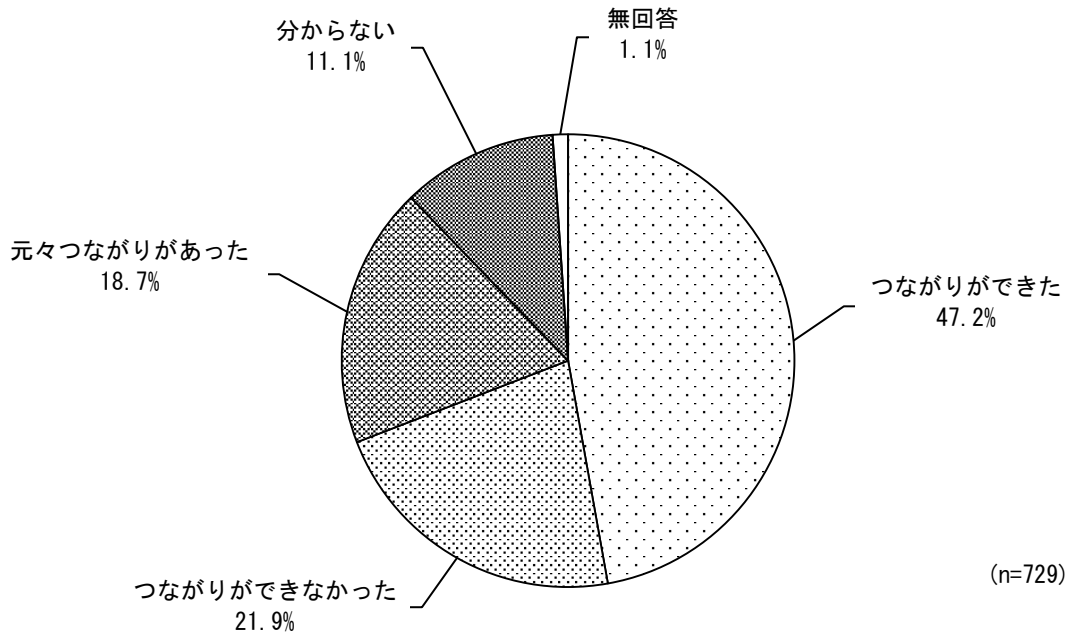


(3) 生涯学習を通じた人や地域とのつながり

(Q1で「1~10」に1つでも○を付けた方)

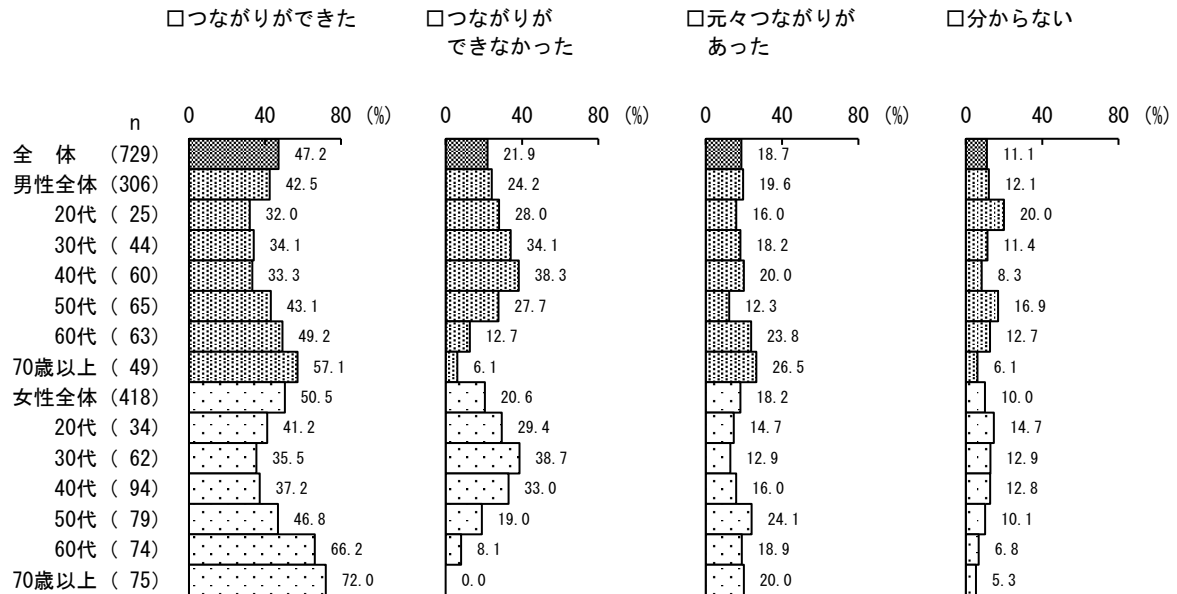
Q1-2 あなたは、その生涯学習を通じて、人や地域とのつながりができましたか。

(○は1つだけ)



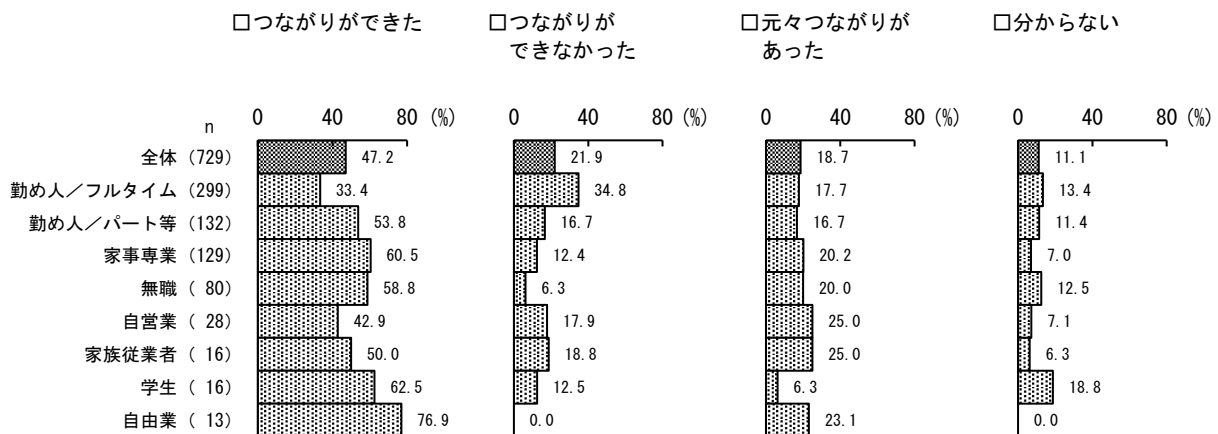
この1年間に生涯学習を行った人に、人や地域とのつながりができたか聞いたところ、「つながりができた」は47.2%、「元々つながりがあった」は18.7%となっており、全体の6割以上は人や地域とのつながりができている。一方、「つながりができなかった」は21.9%、「分からない」は11.1%となっている。

〈 性別、性・年代別／生涯学習を通じた人や地域とのつながり 〉



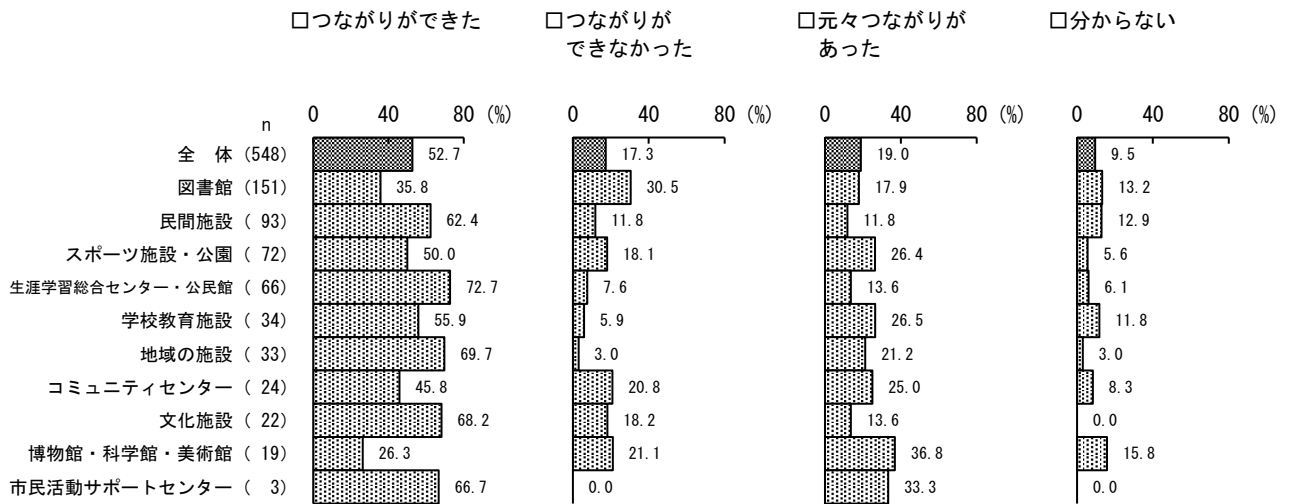
性別で見ると、「つながりができた」は女性(50.5%)の方が男性(42.5%)より多くなっている。  
 性・年代別で見ると、男女とも「つながりができた」は年代が上がるにつれて多くなる傾向にある。一方、「つながりができなかった」は男性は40代(38.3%)、女性は30代(38.7%)前後で多くなる傾向にある。

〈 職業別／生涯学習を通じた人や地域とのつながり 〉



職業別で見ると、家事専業(60.5%)、無職(58.8%)、勤め人(パート等)(53.8%)では、「つながりができた」が5割を超えている。一方、勤め人(フルタイム)では「つながりができなかった」(34.8%)が「つながりができた」(33.4%)を上回り、他の層より多くなっている。

〈 この1年間で最も頻繁に利用した施設別／生涯学習を通じた人や地域とのつながり 〉



この1年間で最も頻繁に利用した施設別でみると、生涯学習総合センター・公民館（72.7%）、自治会館・自治集会所など地域の施設（69.7%）、市民会館・文化センター、プラザウエストなどの文化施設（68.2%）では「つながりができた」が7割前後を占め、他の施設より多くなっている。

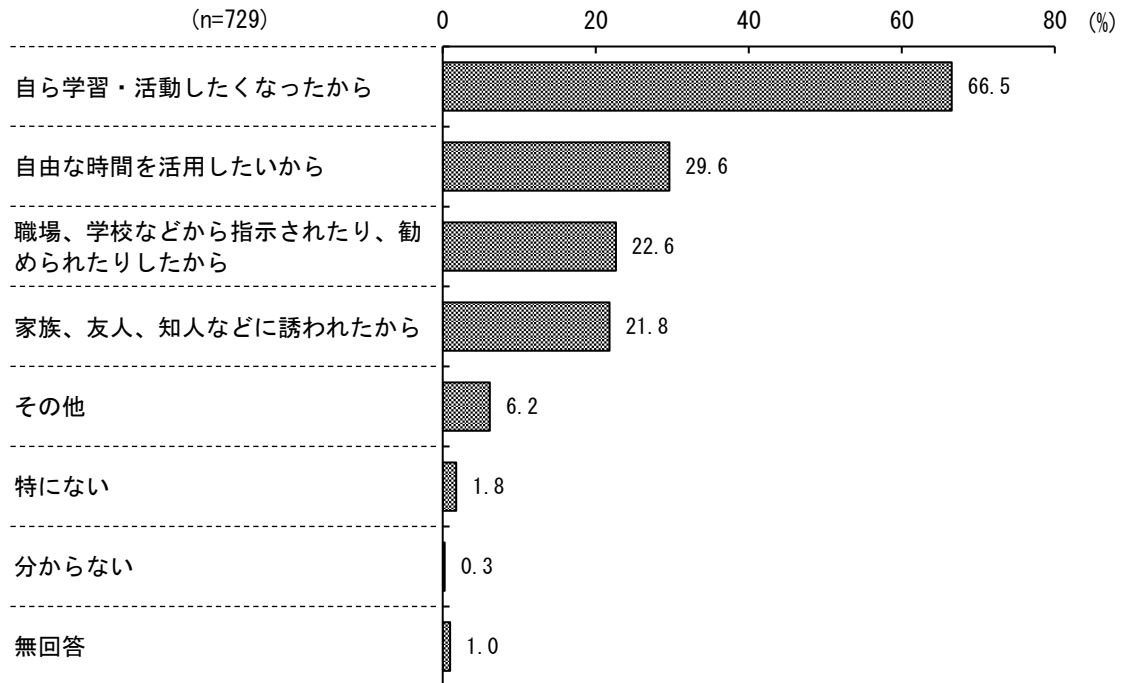
一方、図書館では「つながりができた」（35.8%）と「つながりができなかった」（30.5%）が近接しており、「つながりができなかった」割合が多くなっている。

(4) 生涯学習を行うようになったきっかけ

(Q1で「1~10」に1つでも○を付けた方)

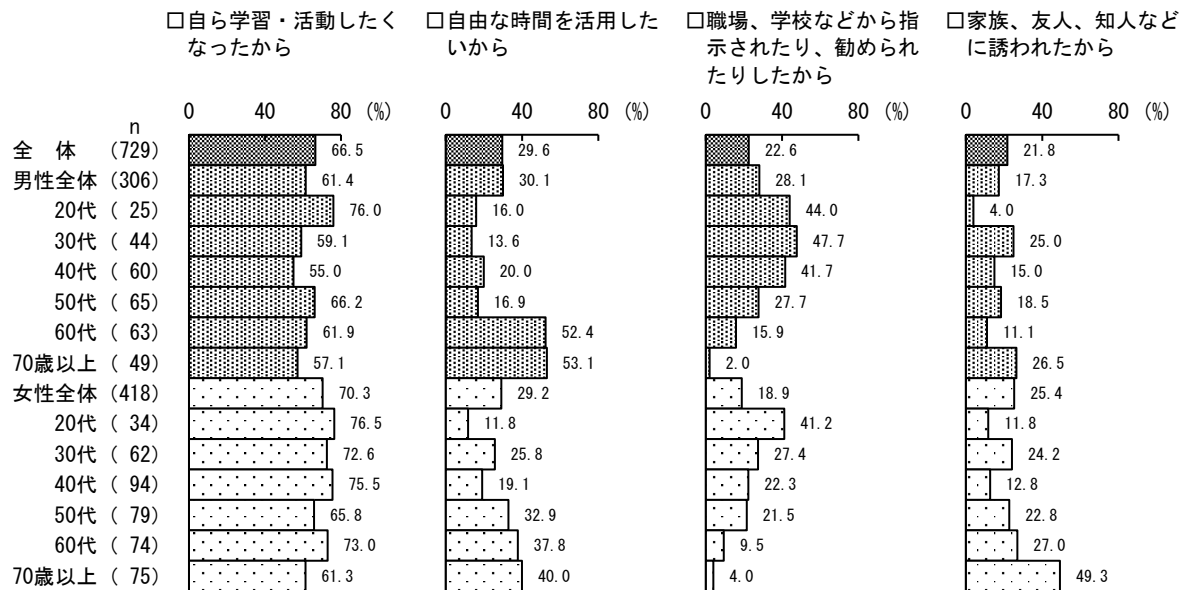
Q1-3 あなたが、その生涯学習を行うようになったきっかけは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)



この1年間に生涯学習を行った人に、そのきっかけを聞いたところ、「自ら学習・活動したくなったから」が66.5%で最も多く、以下「自由な時間を活用したいから」(29.6%)、「職場、学校などから指示されたり、勧められたりしたから」(22.6%)、「家族、友人、知人などに誘われたから」(21.8%)の順となっている。

### 〈 性別、性・年代別／生涯学習を行うようになったきっかけ／上位4項目 〉



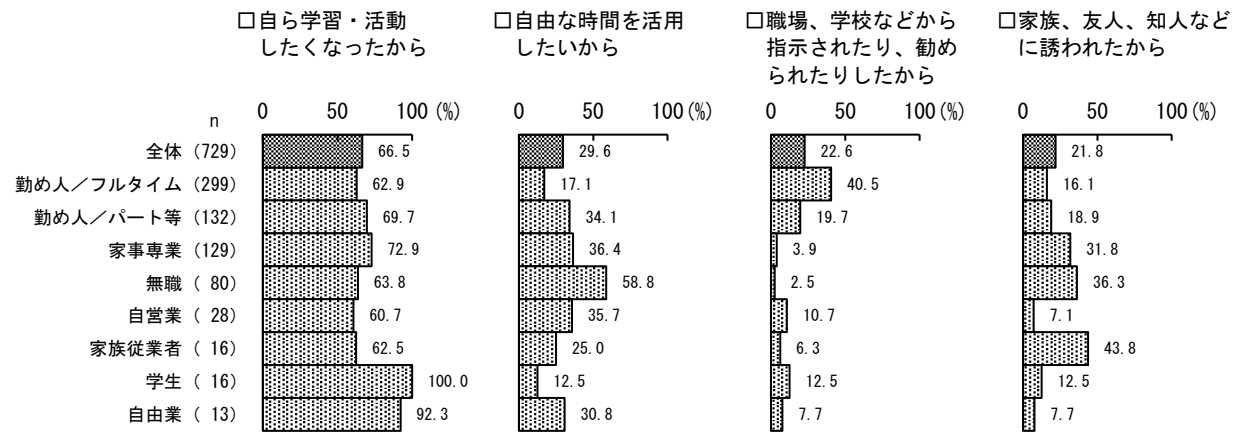
性別でみると、男性では「職場、学校などから指示されたり、勧められたりしたから」が28.1%と、女性（18.9%）よりも多くなっている。

一方、女性では「自ら学習・活動したくなったから」が70.3%、「家族、友人、知人などに誘われたから」が25.4%と、それぞれ男性よりも1割近く多くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、「職場、学校などから指示されたり、勧められたりしたから」が20～40代で4割を超える一方、60代以上では「自由な時間を活用したいから」が5割を超えている。

女性の場合、20代では「職場、学校などから指示されたり、勧められたりしたから」（41.2%）が4割を超えるが、30代以上では3割未満と男性に比べ急減している。一方、「自由な時間を活用したいから」「家族、友人、知人などに誘われたから」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上ではいずれも4割以上を占めている。

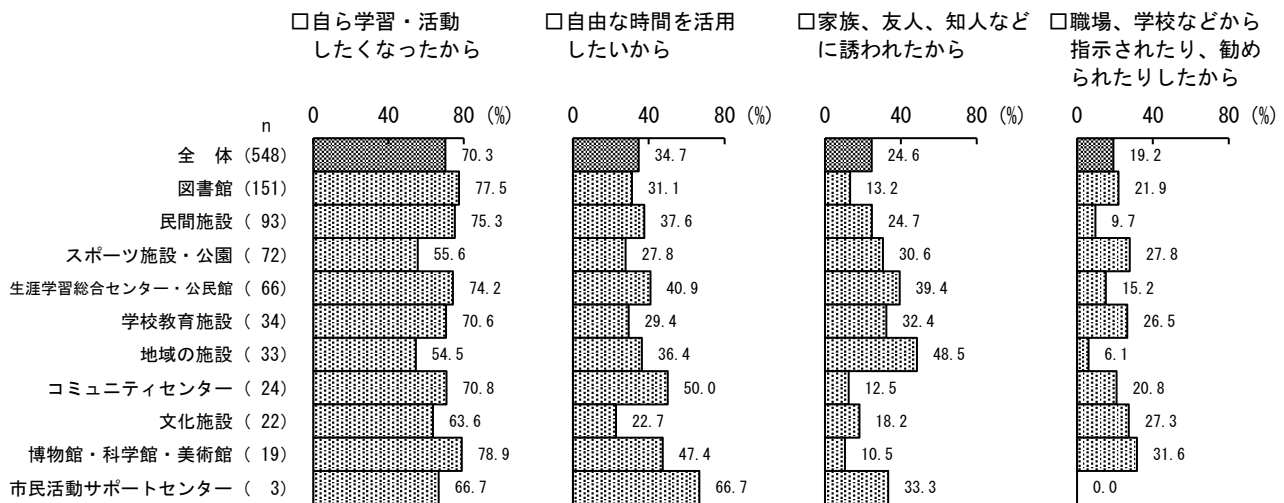
〈 職業別／生涯学習を行うようになったきっかけ／上位4項目 〉



職業別でみると、「職場、学校などから指示されたり、勧められたりしたから」は勤め人（フルタイム）（40.5%）が、勤め人（パート等）（19.7%）の倍以上多くなっている。また、無職は「自由な時間を活用したいから」（58.8%）、「家族、友人、知人などに誘われたから」（36.3%）が多い一方、勤め人（フルタイム）はいずれも2割未満となっている。

〈 この1年間で最も頻繁に利用した施設別／

生涯学習を行うようになったきっかけ／上位4項目 〉



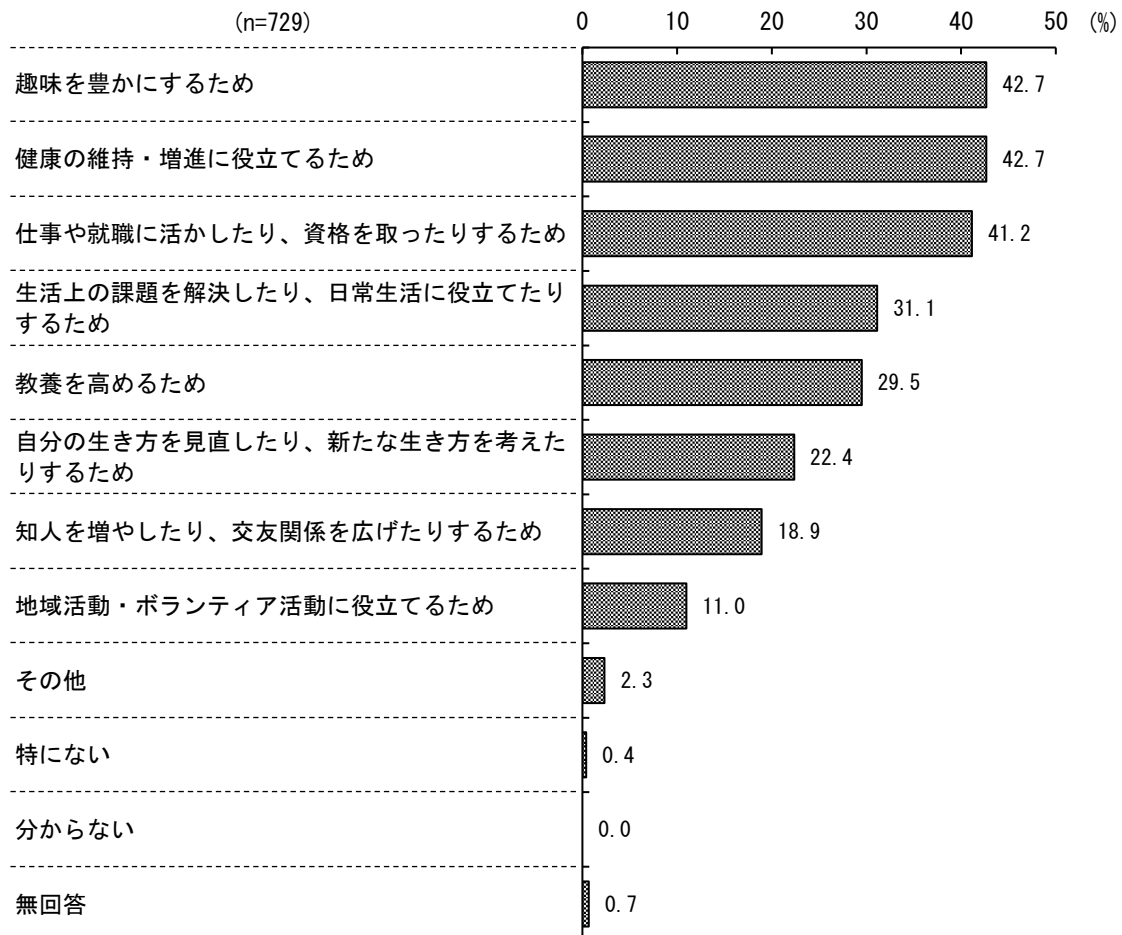
この1年間で最も頻繁に利用した施設別でみると、自治会館・自治集会所など地域の施設では「家族、友人、知人などに誘われたから」（48.5%）、コミュニティセンターでは「自由な時間を活用したいから」（50.0%）がそれぞれ約半数を占め、他の施設より多くなっている。また、図書館、カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設では「自ら学習・活動したくなったから」がそれぞれ77.5%、75.3%と多くなっている。

## (5) 生涯学習を行う目的

(Q1で「1~10」に1つでも○を付けた方)

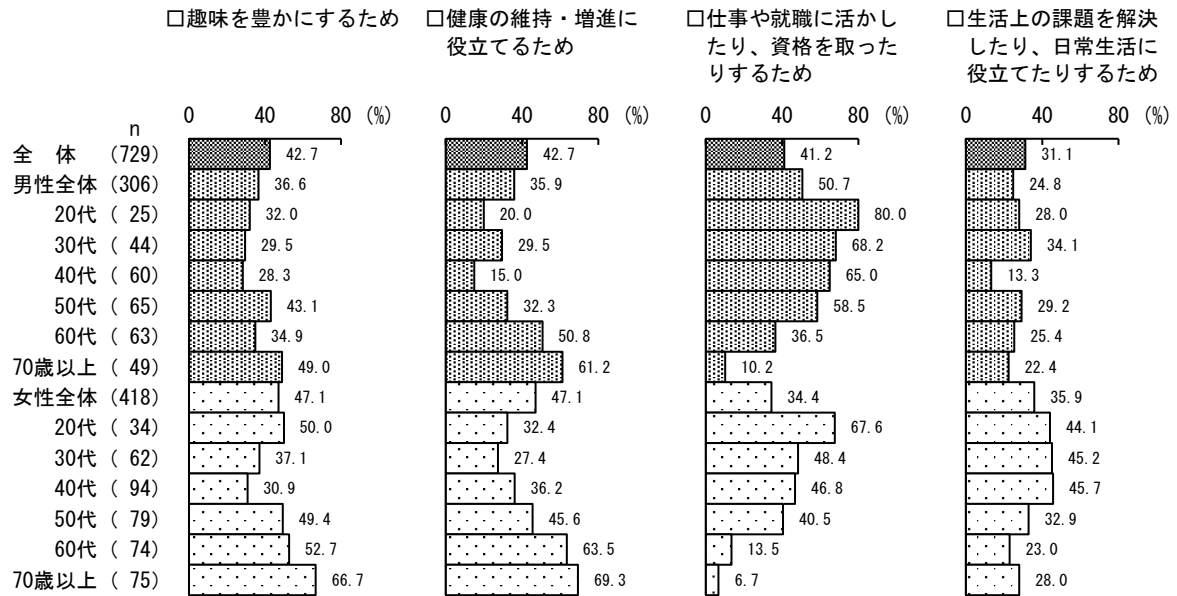
Q1-4 あなたは、どのような目的でその生涯学習を行うようになりましたか。

(○はあてはまるものすべて)



この1年間に生涯学習を行った人に、その目的を聞いたところ、「趣味を豊かにするため」「健康の維持・増進に役立てるため」が42.7%で最も多く、以下「仕事や就職に活かしたり、資格を取ったりするため」(41.2%)、「生活上の課題を解決したり、日常生活に役立てたりするため」(31.1%)、「教養を高めるため」(29.5%)の順で続いている。

〈 性別、性・年代別／生涯学習を行う目的／上位4項目 〉



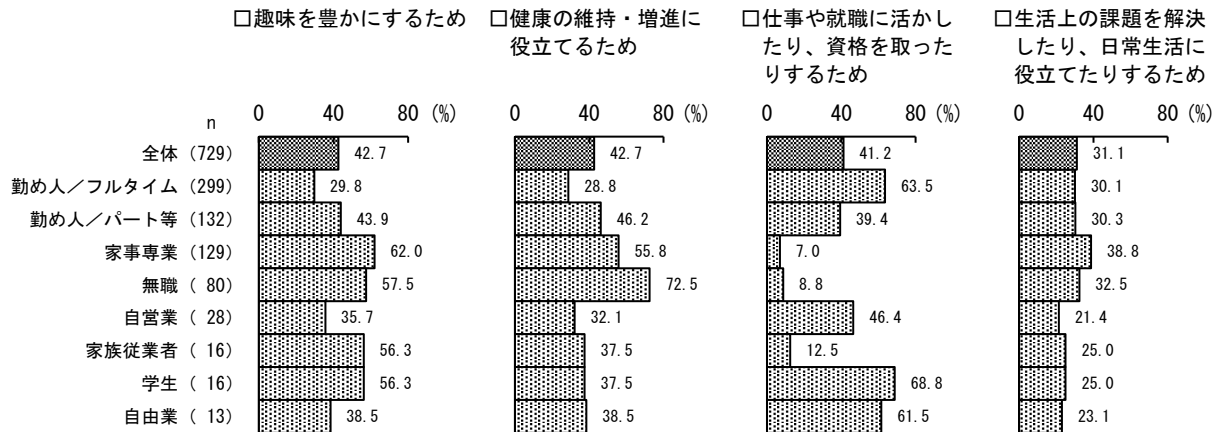
性別で見ると、男性では「仕事や就職に活かしたり、資格を取ったりするため」(50.7%)が半数を占め、女性(34.4%)より多くなっている。

一方、女性では「趣味を豊かにするため」「健康の維持・増進に役立てるため」(47.1%)が最も多く、「生活上の課題を解決したり、日常生活に役立てたりするため」(35.9%)も男性(24.8%)より1割ほど多くなっている。

性・年代別で見ると、「仕事や就職に活かしたり、資格を取ったりするため」は男女とも若い年代ほど多くなる傾向にあり、男性20代では8割に達する。一方、「趣味を豊かにするため」「健康の維持・増進に役立てるため」は年代が高くなるほど多くなる傾向にあり、女性70歳以上ではいずれも6割を超えている。

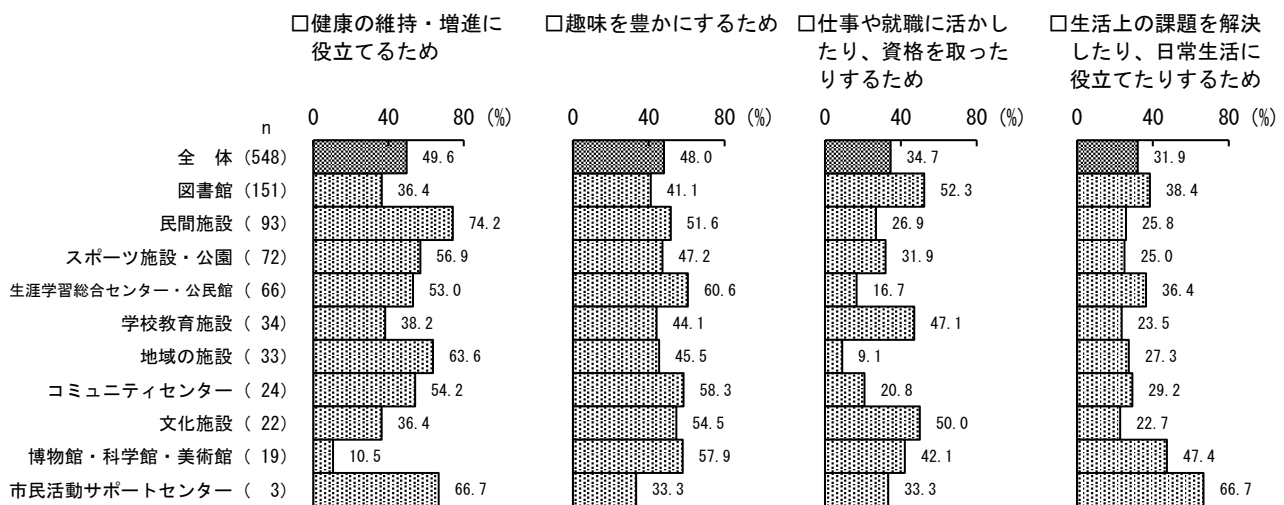


〈 職業別／生涯学習を行う目的／上位4項目 〉



職業別でみると、「仕事や就職に活かしたり、資格を取ったりするため」は勤め人（フルタイム）（63.5%）の過半数を占め、自営業（46.4%）や勤め人（パート等）（39.4%）でも多くなっている。一方、「趣味を豊かにするため」「健康の維持・増進に役立てるため」は無職（前者57.5%、後者72.5%）や家事専業（前者62.0%、後者55.8%）で半数を超えるのに対し、勤め人（フルタイム）（前者29.8%、後者28.8%）は3割を下回っている。

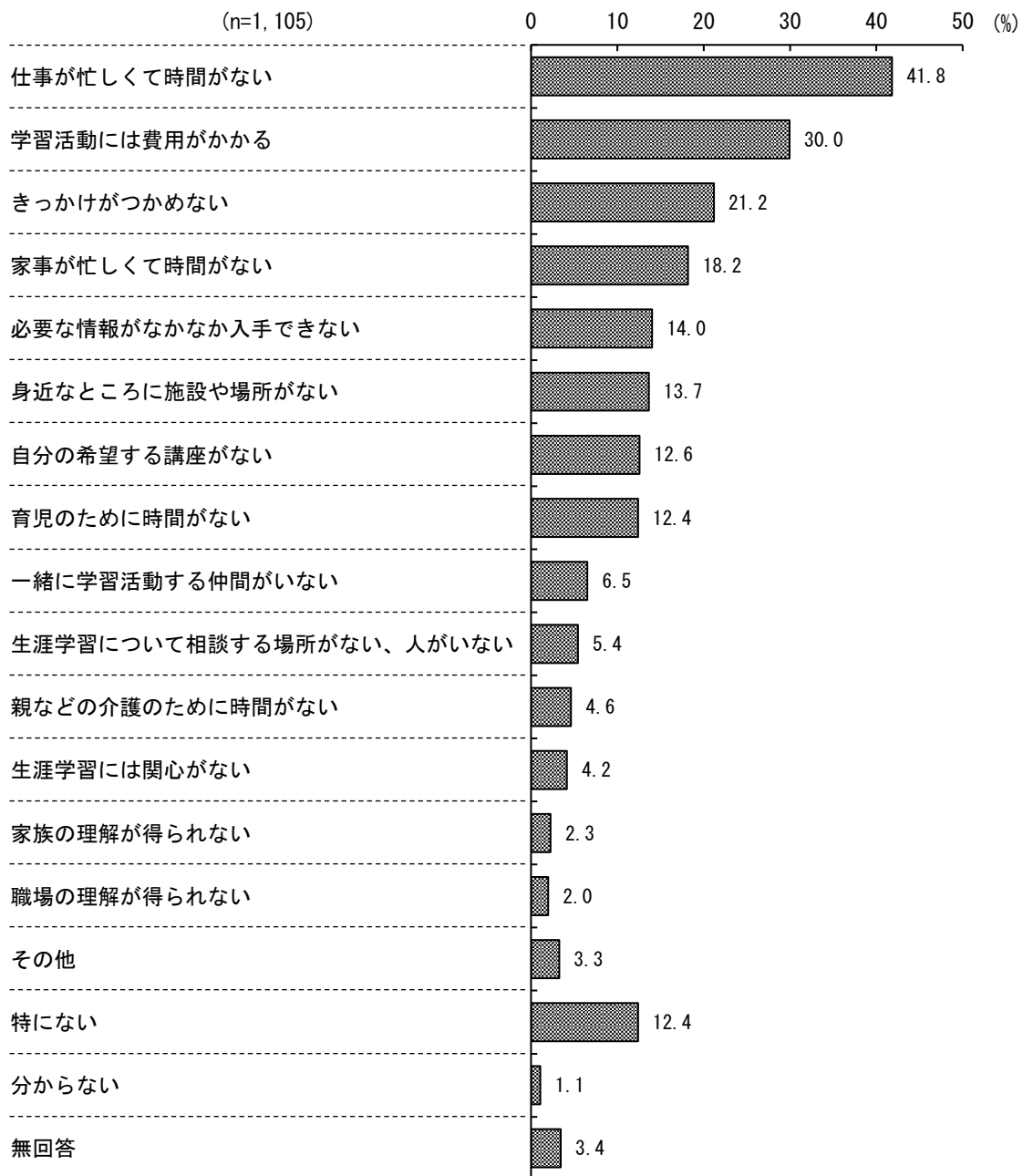
〈 この1年間で最も頻繁に利用した施設別／生涯学習を行う目的／上位4項目 〉



この1年間で最も頻繁に利用した施設別でみると、カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設（74.2%）や自治会館・自治集会所など地域の施設（63.6%）では「健康の維持・増進に役立てるため」が過半数を占めている。一方、生涯学習総合センター・公民館（60.6%）、コミュニティセンター（58.3%）では「趣味を豊かにするため」、図書館（52.3%）、文化施設（50.0%）では「仕事や就職に活かしたり、資格を取ったりするため」が他の施設より多くなっている。

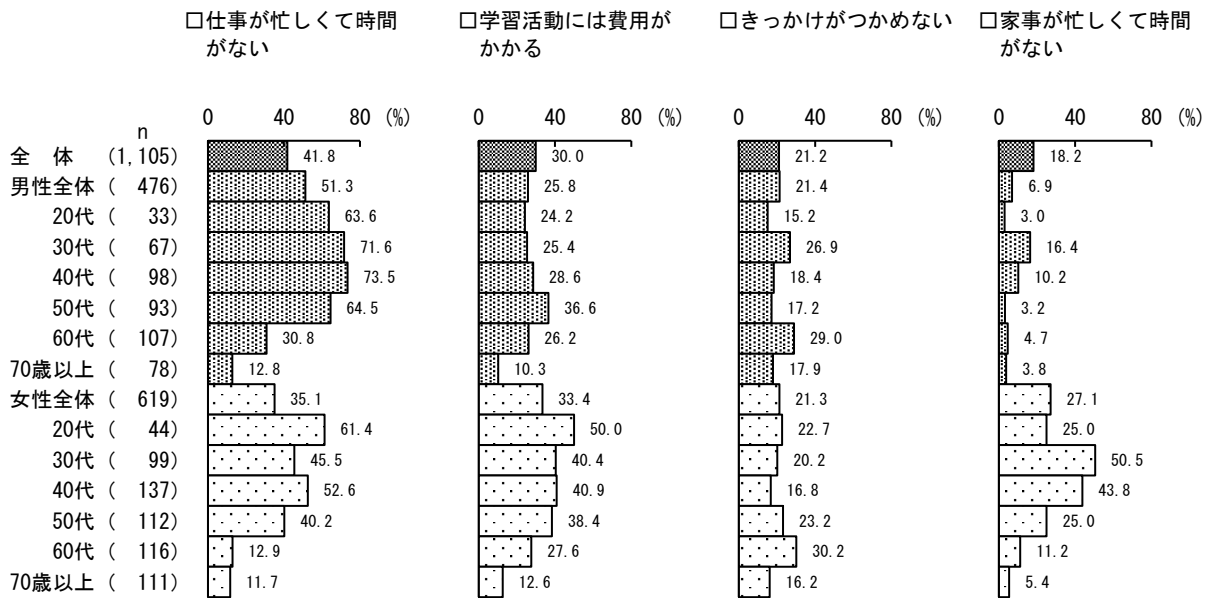
(6) 生涯学習を行う上での支障

Q2 あなたが、生涯学習活動を行おうとするとき、どのようなことが支障になりますか。  
(○はあてはまるものすべて)



生涯学習を行う上で支障になることは、「仕事で忙しくて時間がない」が41.8%で最も多く、以下「学習活動には費用がかかる」(30.0%)、「きっかけがつかめない」(21.2%)、「家事が忙しくて時間がない」(18.2%)、「必要な情報がなかなか入手できない」(14.0%)の順で続いている。

〈 性別、性・年代別／生涯学習を行う上での支障／上位4項目 〉



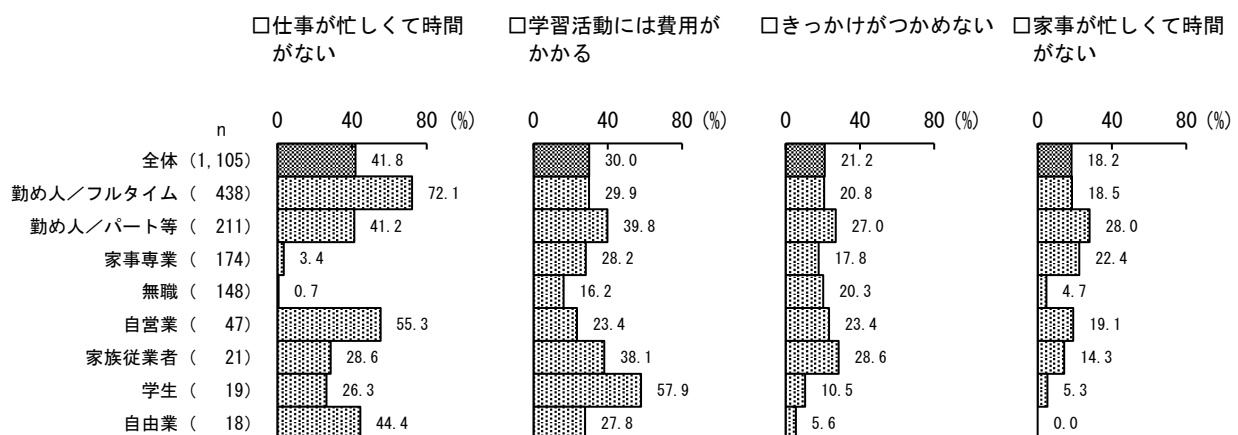
性別で見ると、男性では「仕事で忙しくて時間がない」(51.3%)が半数を超え、女性(35.1%)より多くなっている。

一方、女性では「学習活動には費用がかかる」(33.4%)が「仕事で忙しくて時間がない」に匹敵し、「家事で忙しくて時間がない」(27.1%)は男性(6.9%)を約2割上回っている。

性・年代別で見ると、男性の場合、「仕事で忙しくて時間がない」が20～50代で6割を超えるのに対し、「家事で忙しくて時間がない」は30～40代を除き1割未満となっている。

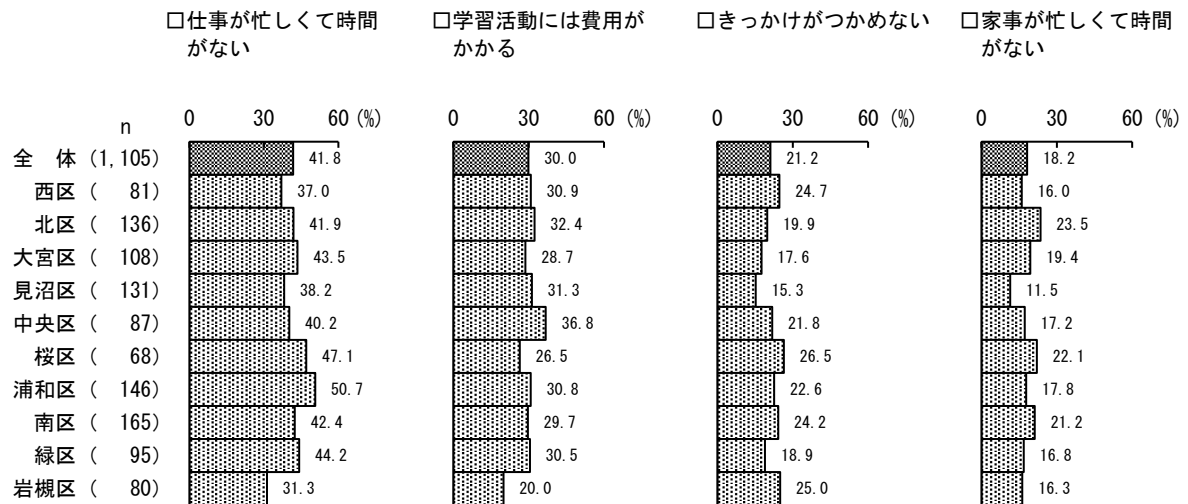
女性の場合、「家事で忙しくて時間がない」が30代(50.5%)、40代(43.8%)で半数前後を占めている。また、「仕事で忙しくて時間がない」「学習活動には費用がかかる」は若い年代ほど多くなる傾向にあり、前者は20代で6割を超えている。

〈 職業別／生涯学習を行う上での支障／上位4項目 〉



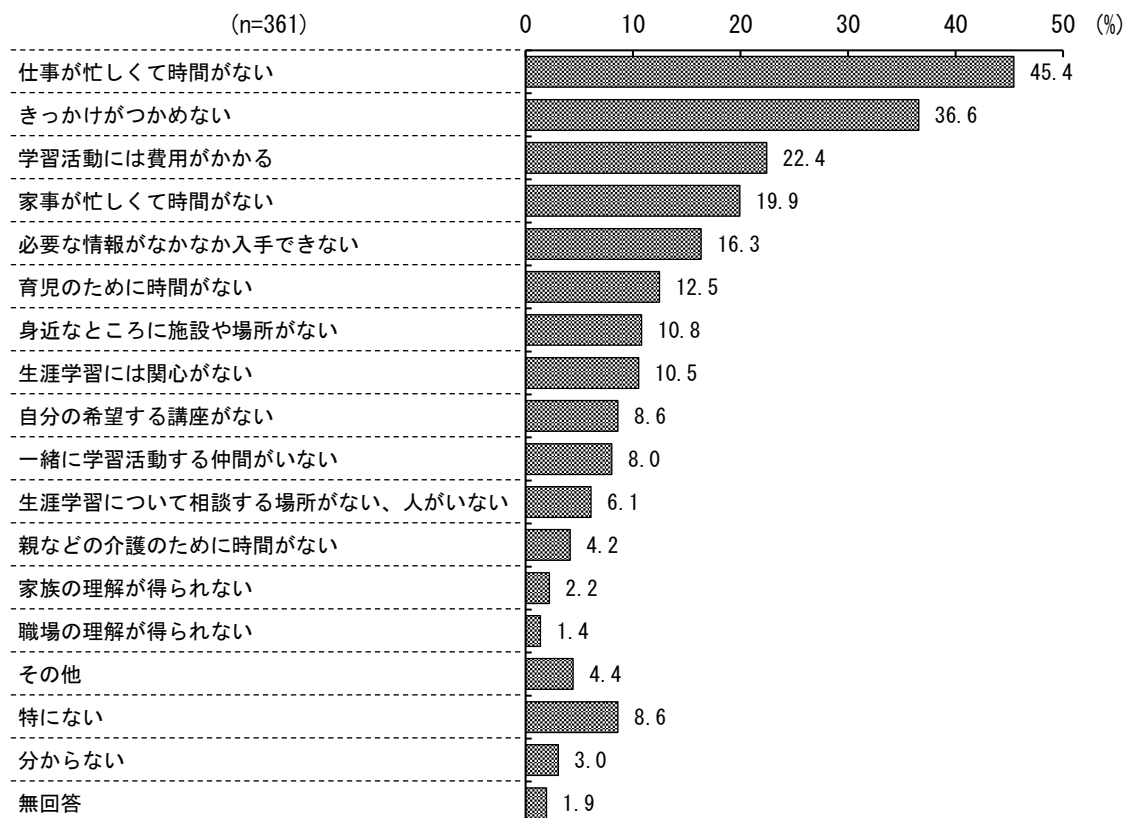
職業別で見ると、「仕事で忙しくて時間がない」は勤め人(フルタイム)(72.1%)や自営業(55.3%)の過半数を占めている。一方、勤め人(パート等)では「学習活動には費用がかかる」(39.8%)が「仕事で忙しくて時間がない」(41.2%)と同程度であり、家族従業者(38.1%)と並び多くなっている。

〈 区別／生涯学習を行う上での支障／上位4項目 〉

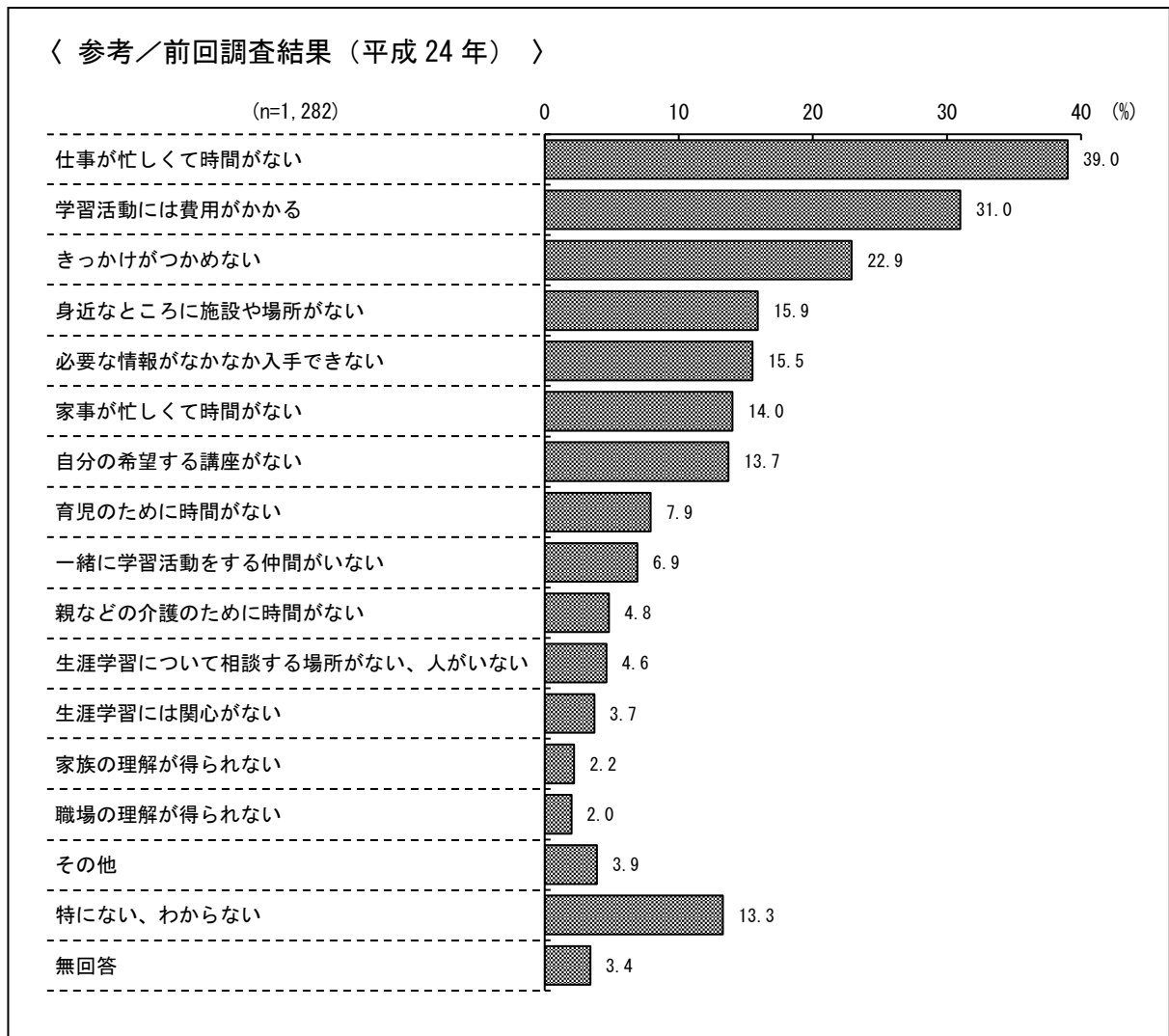


区別でみると、浦和区では「仕事で忙しくて時間がない」が50.7%で半数を占めているほか、桜区でも47.1%と多くなっている。

〈 この1年間に生涯学習を特に行っていない人の、生涯学習を行う上での支障 〉

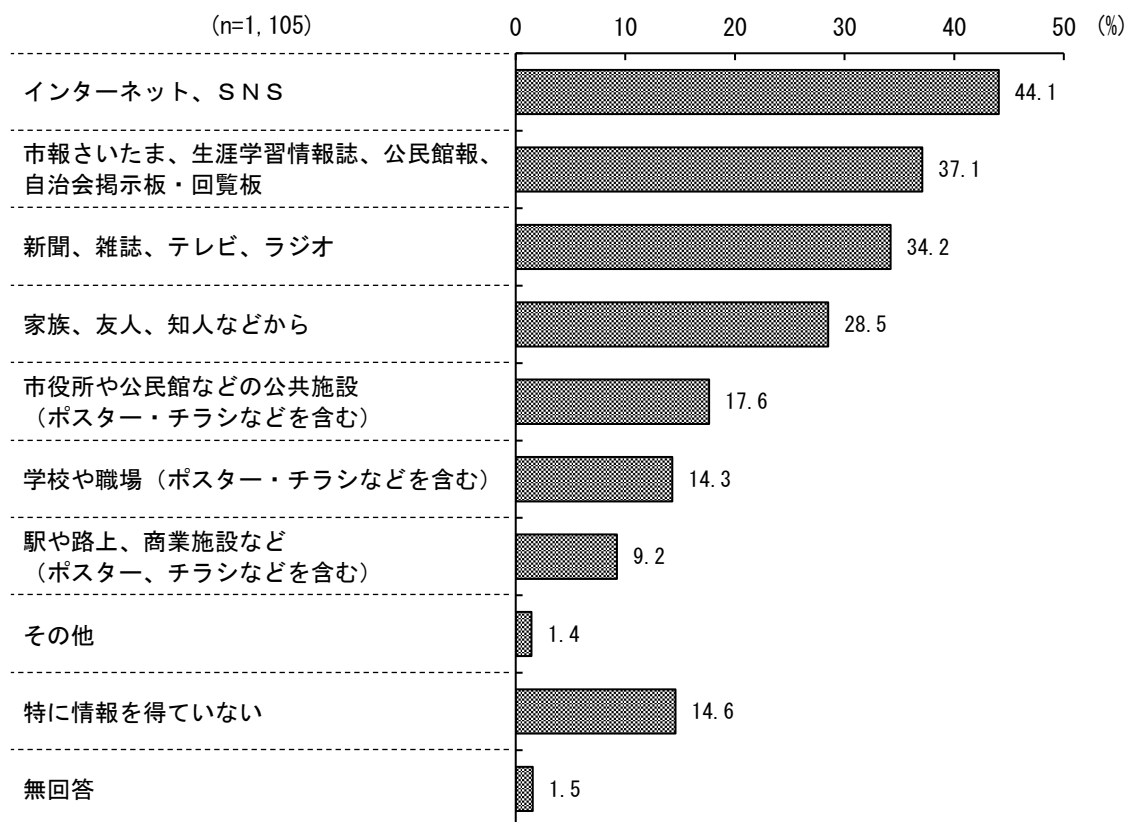


この1年間に行った生涯学習を聞いた問1で、「特に行っていない」と回答した人が生涯学習を行う上で支障となっていることは、「仕事で忙しくて時間がない」(45.4%)が最も多く、以下「きっかけがつかめない」(36.6%)、「学習活動には費用がかかる」(22.4%)、「家事が忙しくて時間がない」(19.9%)の順で続いている。



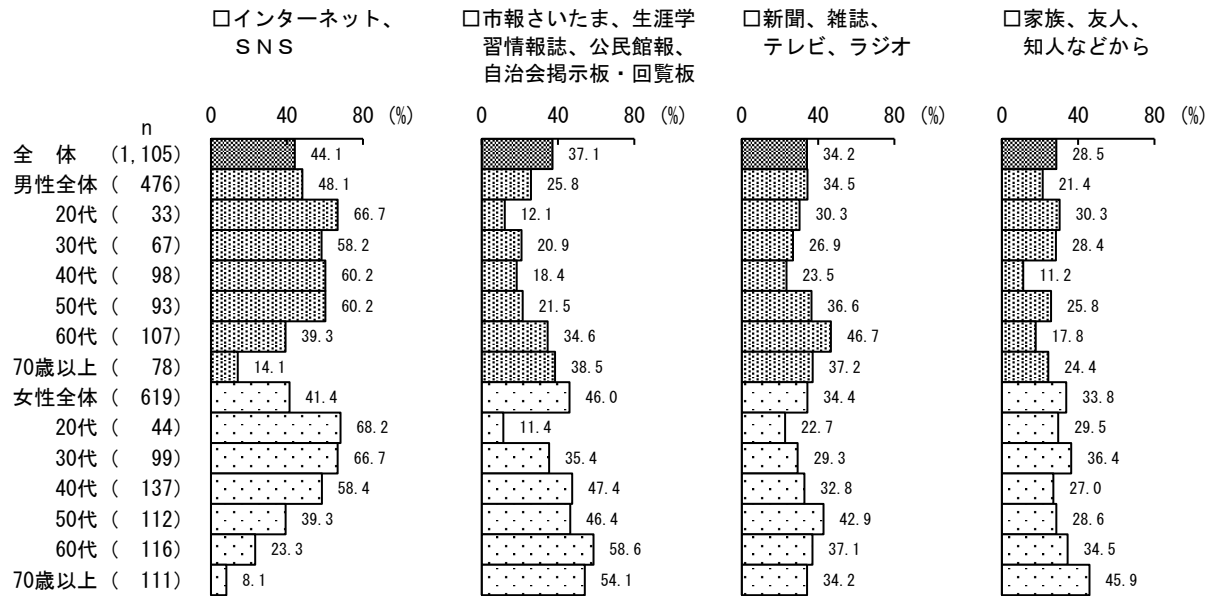
(7) 生涯学習に関する情報の入手先

Q3 あなたは、生涯学習に関する情報をどのように得ていますか。  
 (〇はあてはまるものすべて)



生涯学習に関する情報の入手先は、「インターネット、SNS」が44.1%で最も多く、以下「市報さいたま、生涯学習情報誌、公民館報、自治会掲示板・回覧板」(37.1%)、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」(34.2%)、「家族、友人、知人などから」(28.5%)の順が続いている。

〈 性別、性・年代別／生涯学習に関する情報の入手先／上位4項目 〉



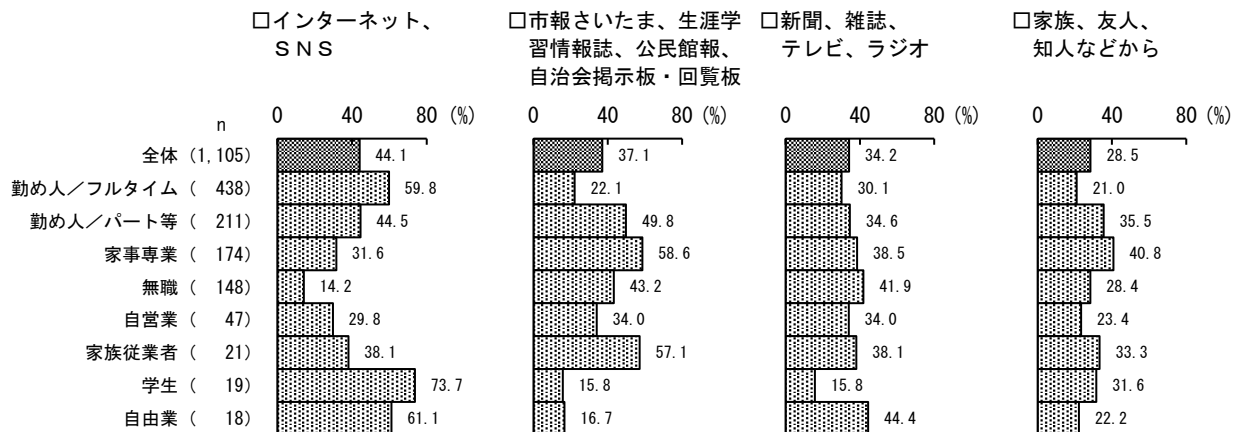
性別で見ると、男性では「インターネット、SNS」(48.1%)が約半数を占め、女性(41.4%)より多くなっている。

一方、女性では「市報さいたま、生涯学習情報誌、公民館報、自治会掲示板・回覧板」(46.0%)が最も多く、「家族、友人、知人などから」(33.8%)も男性を上回っている。

性・年代別で見ると、男性の場合、20～50代で「インターネット、SNS」が6割前後を占めている。また、「市報さいたま、生涯学習情報誌、公民館報、自治会掲示板・回覧板」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、60代では「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」(46.7%)が最も多くなっている。

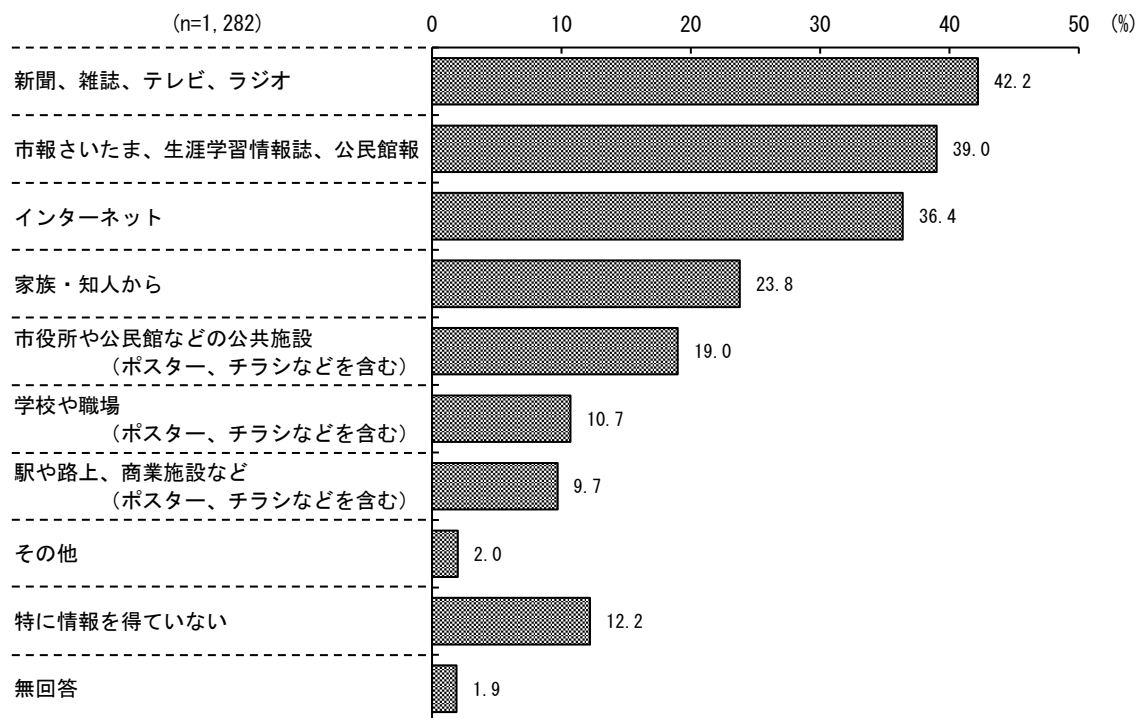
女性の場合、20～40代で「インターネット、SNS」が6割前後を占めるが、50代以上での利用率低下が男性より大きくなっている。一方、「市報さいたま、生涯学習情報誌、公民館報、自治会掲示板・回覧板」は40代以上で約半数を占め、70歳以上では「家族、友人、知人などから」(45.9%)も4割を超えている。

〈 職業別／生涯学習に関する情報の入手先／上位4項目 〉



職業別でみると、勤め人（フルタイム）は「インターネット、SNS」（59.8%）が約6割を占めている。一方、「市報さいたま、生涯学習情報誌、公民館報、自治会掲示板・回覧板」は家事専業（58.6%）、家族従業者（57.1%）で半数を超え、勤め人（パート等）（49.8%）も多くなっている。

〈 参考／前回調査結果（平成24年） 〉

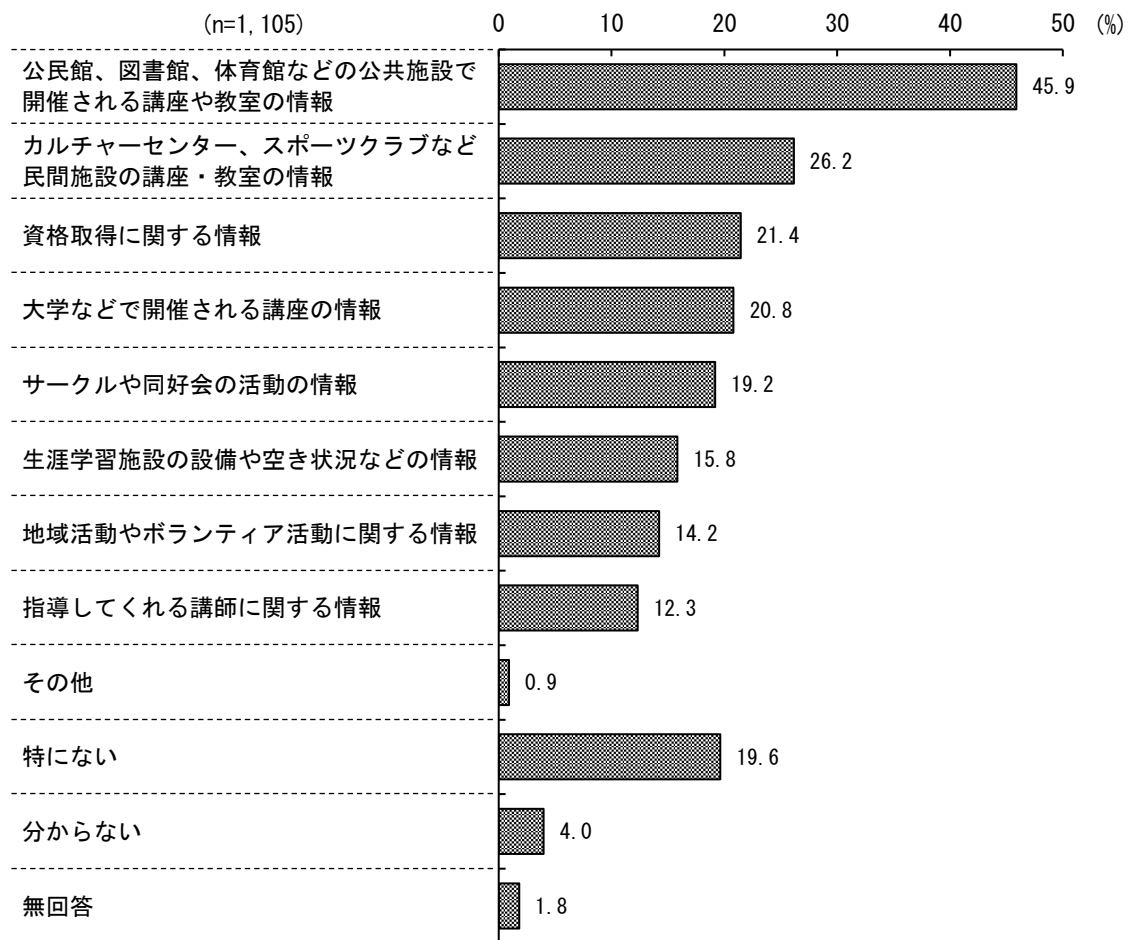




## (8) 生涯学習に関して求める情報

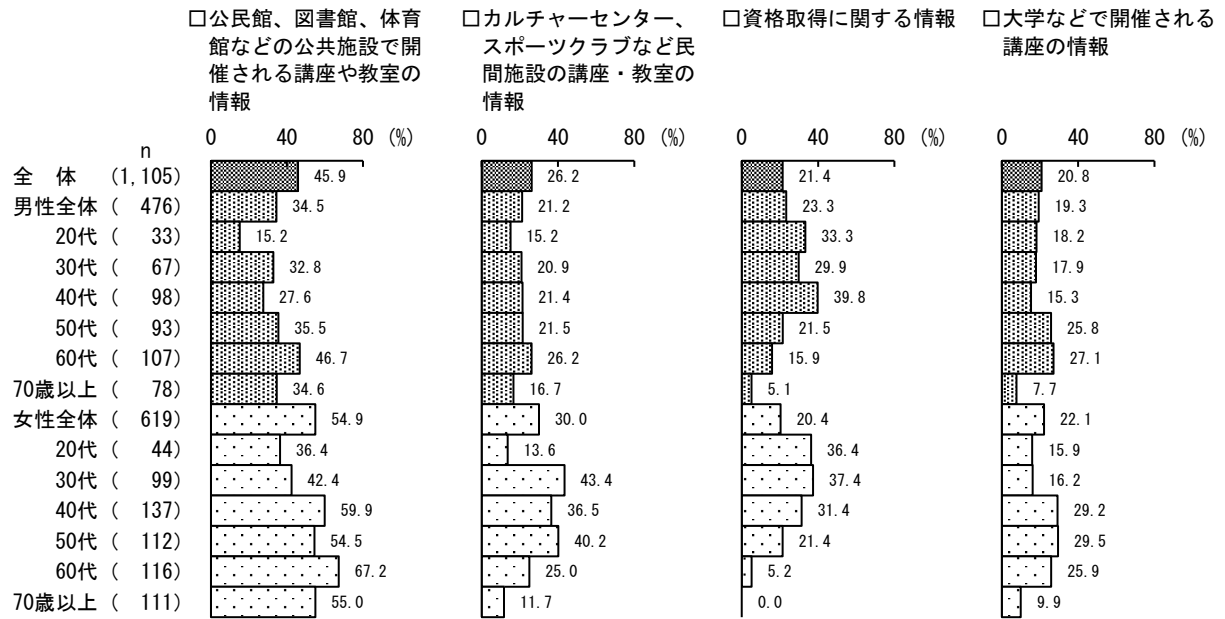
Q4 あなたは、生涯学習に関して、どのような情報を知りたいですか。

(○はあてはまるものすべて)



生涯学習に関して知りたい情報は、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室の情報」が45.9%で最も多く、以下「カルチャーセンター、スポーツクラブなど民間施設の講座・教室の情報」(26.2%)、「資格取得に関する情報」(21.4%)、「大学などで開催される講座の情報」(20.8%)、「サークルや同好会の活動の情報」(19.2%)の順で続いている。

〈 性別、性・年代別／生涯学習に関して求める情報／上位4項目 〉

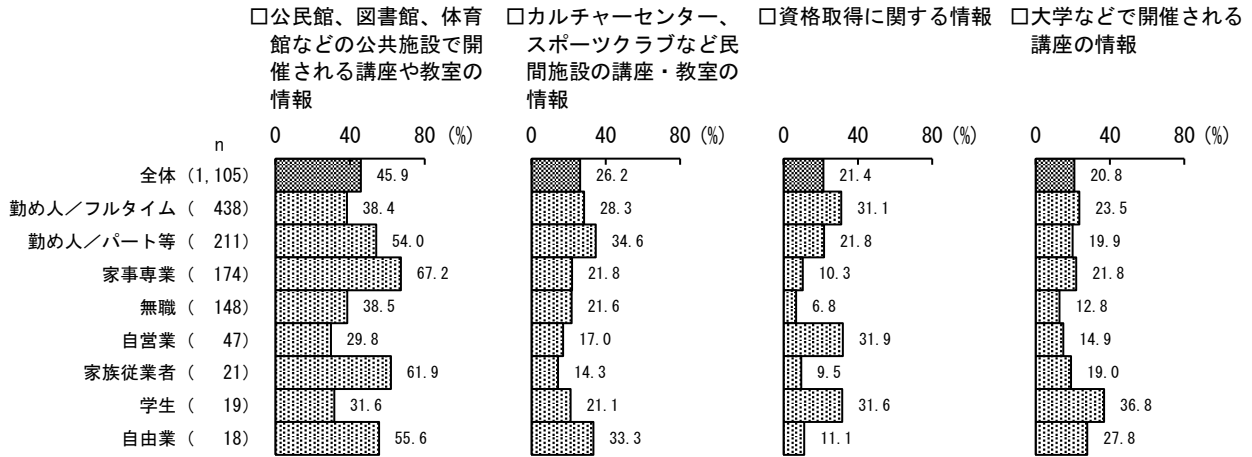


性別で見ると、女性では「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室の情報」(54.9%)が半数を超え、男性(34.5%)より2割以上多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、「資格取得に関する情報」は40代(39.8%)の約4割を占め、20～30代でも多くなっている。また、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室の情報」は60代(46.7%)が男性全体を1割以上上回っている。

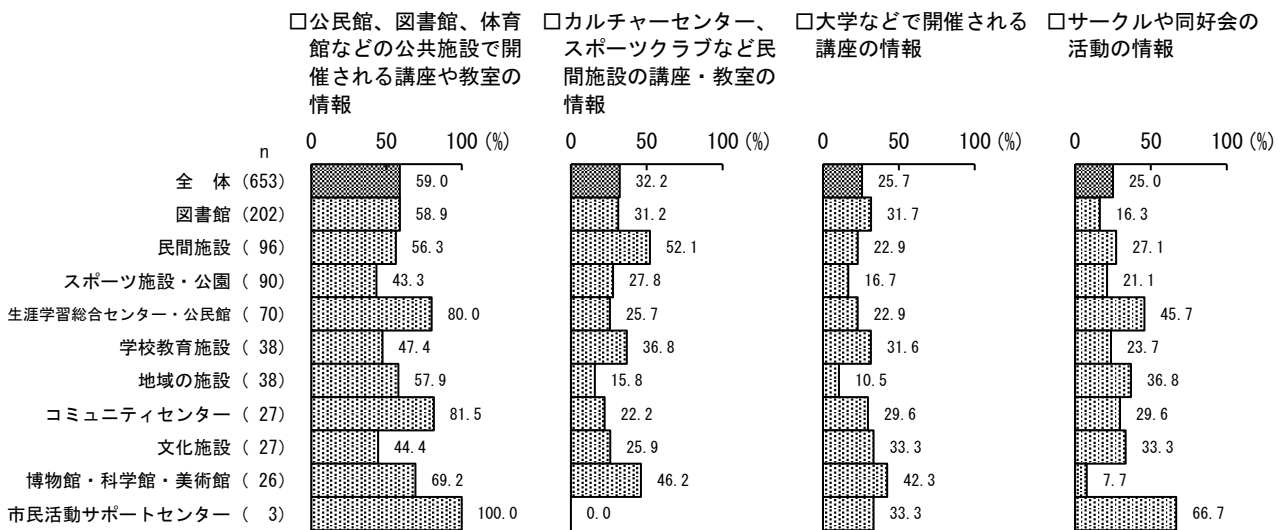
女性の場合、40代以上は「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室の情報」が半数を超え、特に60代(67.2%)で多くなっている。また、「カルチャーセンター、スポーツクラブなど民間施設の講座・教室の情報」は30～50代、「資格取得に関する情報」は20～40代、「大学などで開催される講座の情報」は40～60代が他の年代より多くなっている。

〈 職業別／生涯学習に関して求める情報／上位4項目 〉



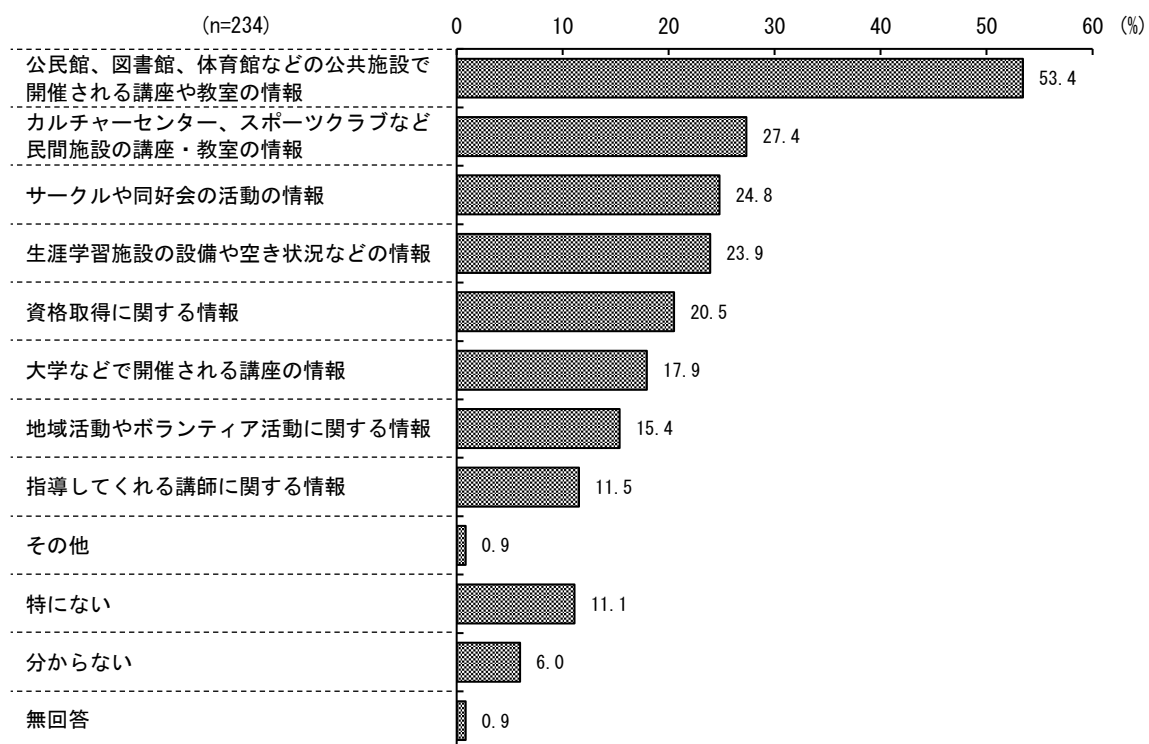
職業別でみると、家事専業、家族従業者では「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室の情報」が6割を超える。一方、勤め人（フルタイム）、自営業は「資格取得に関する情報」が約3割を占め、他の層より多くなっている。

〈 この1年間で最も頻繁に利用した施設別／生涯学習に関して求める情報／上位4項目 〉

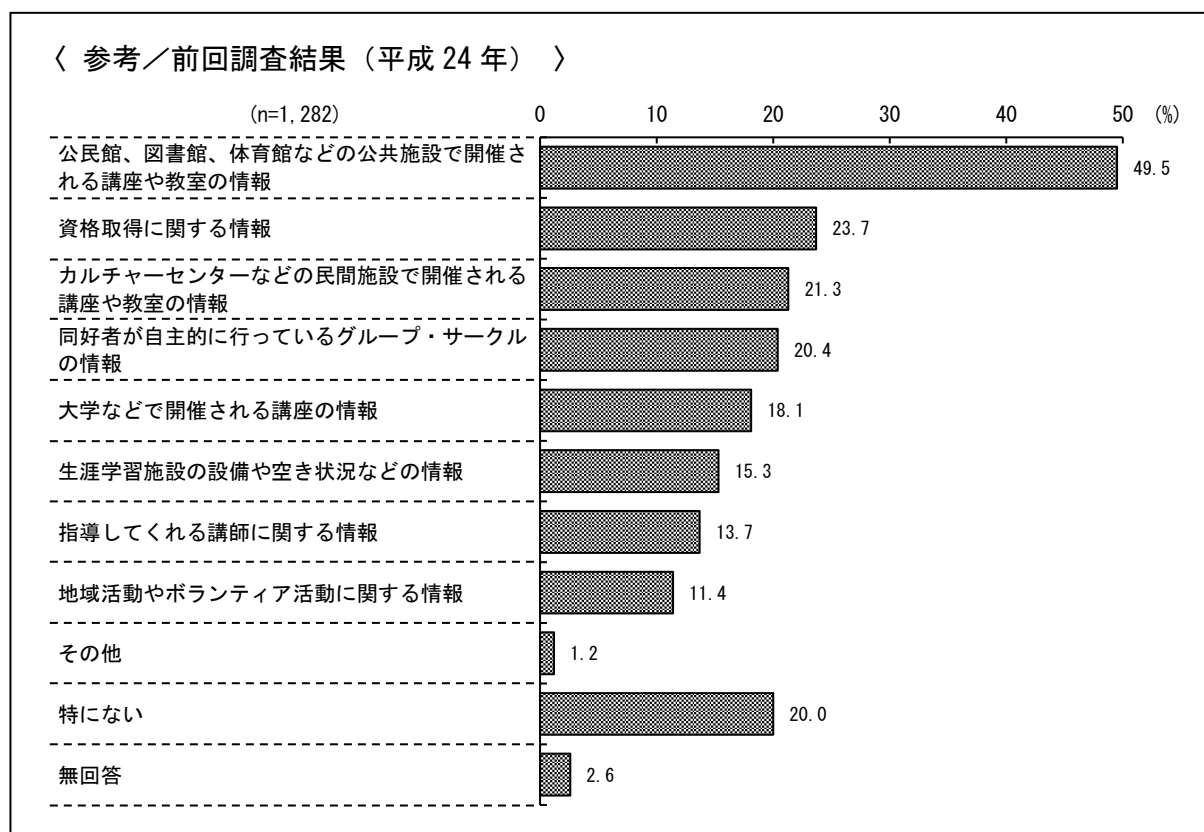


この1年間で最も頻繁に利用した施設別でみると、生涯学習総合センター・公民館、コミュニティセンターでは「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室の情報」が約8割と突出している。また、前者は「サークルや同好会の活動の情報」(45.7%)も多くなっている。一方、カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設では「カルチャーセンター、スポーツクラブなど民間施設の講座・教室の情報」(52.1%)が半数を超え、他の施設より多くなっている。

〈 生涯学習に取り組むきっかけがつかめない人の、生涯学習に関して求める情報 〉

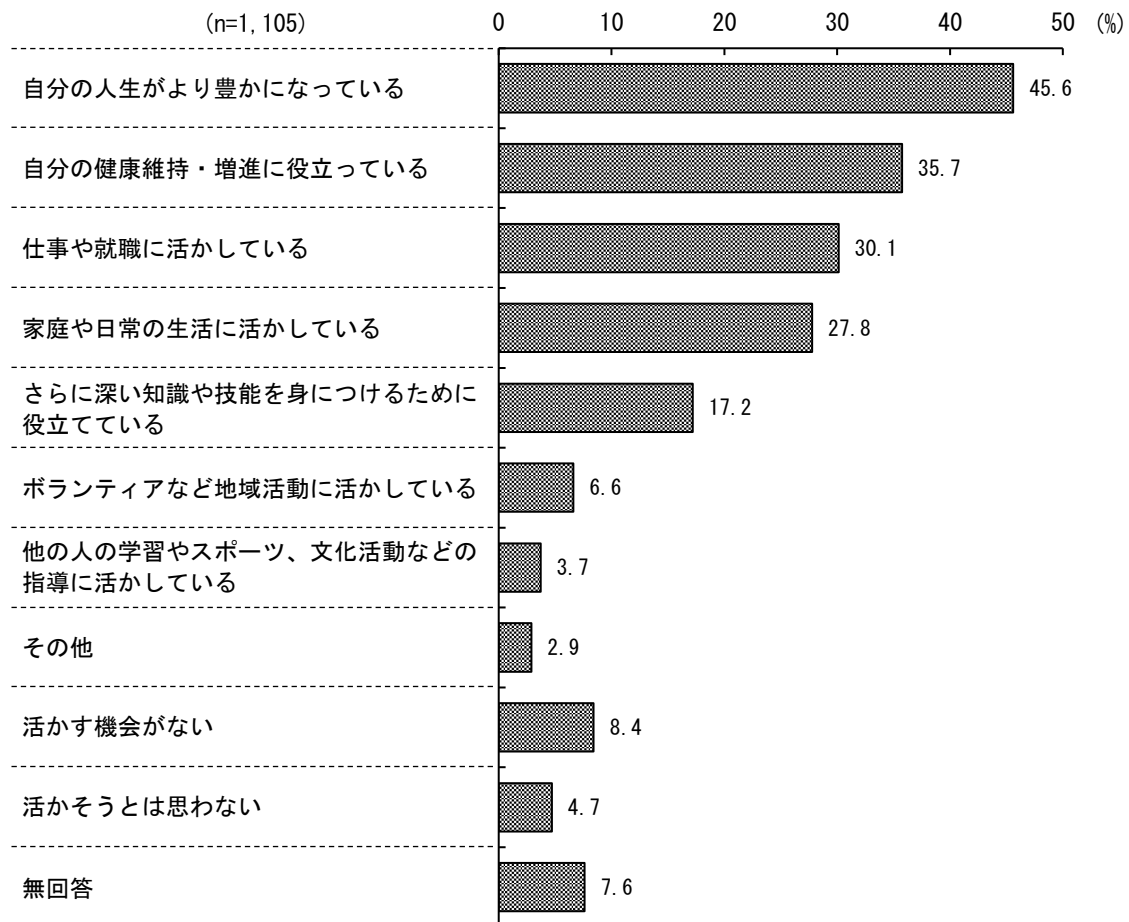


生涯学習を行う上での支障を聞いた問2で「きっかけがつかめない」と回答した人が生涯学習に関して求める情報は、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室の情報」(53.4%)が最も多くなっている。また、「カルチャーセンター、スポーツクラブなど民間施設の講座・教室の情報」(27.4%)も約3割を占めている。



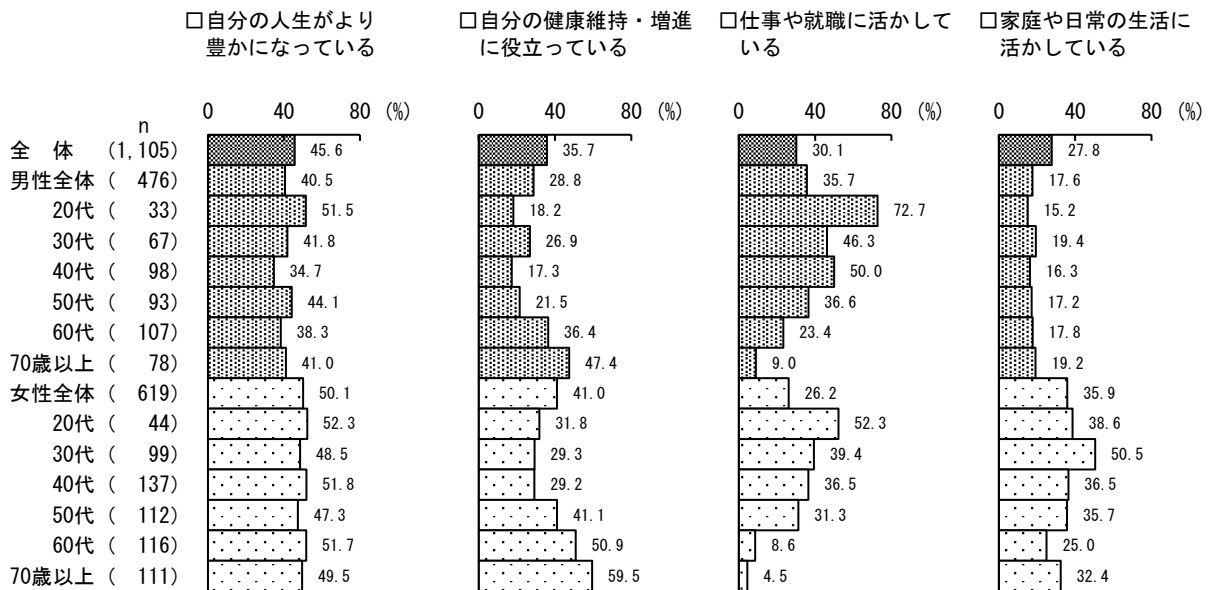
## (9) 生涯学習の成果

Q5 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識や技能を、どのように活かしていますか。  
(〇はあてはまるものすべて)



生涯学習で得た知識や技能の活かし方は、「自分の人生がより豊かになっている」が45.6%で最も多く、以下「自分の健康維持・増進に役立っている」(35.7%)、「仕事や就職に活かしている」(30.1%)、「家庭や日常の生活に活かしている」(27.8%)の順が続いている。

〈 性別、性・年代別／生涯学習の成果／上位4項目 〉

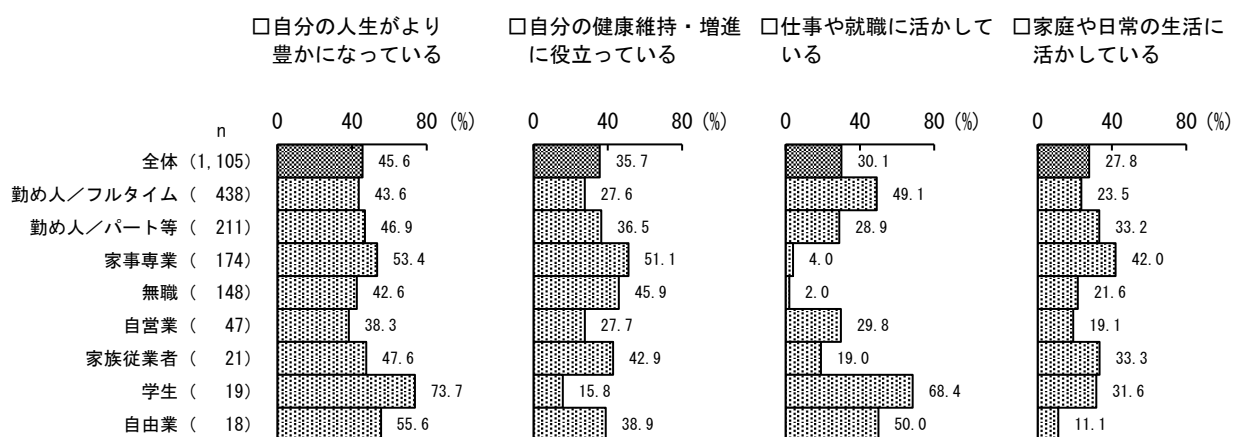


性別で見ると、女性では「家庭や日常生活に活かしている」「自分の健康維持・増進に役立っている」「自分の人生がより豊かになっている」が、いずれも男性より多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、20代から40代では「仕事や就職に活かしている」が4割を超え、特に20代(72.7%)が突出している。また、「自分の健康維持・増進に役立っている」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上(47.4%)では約半数を占めている。

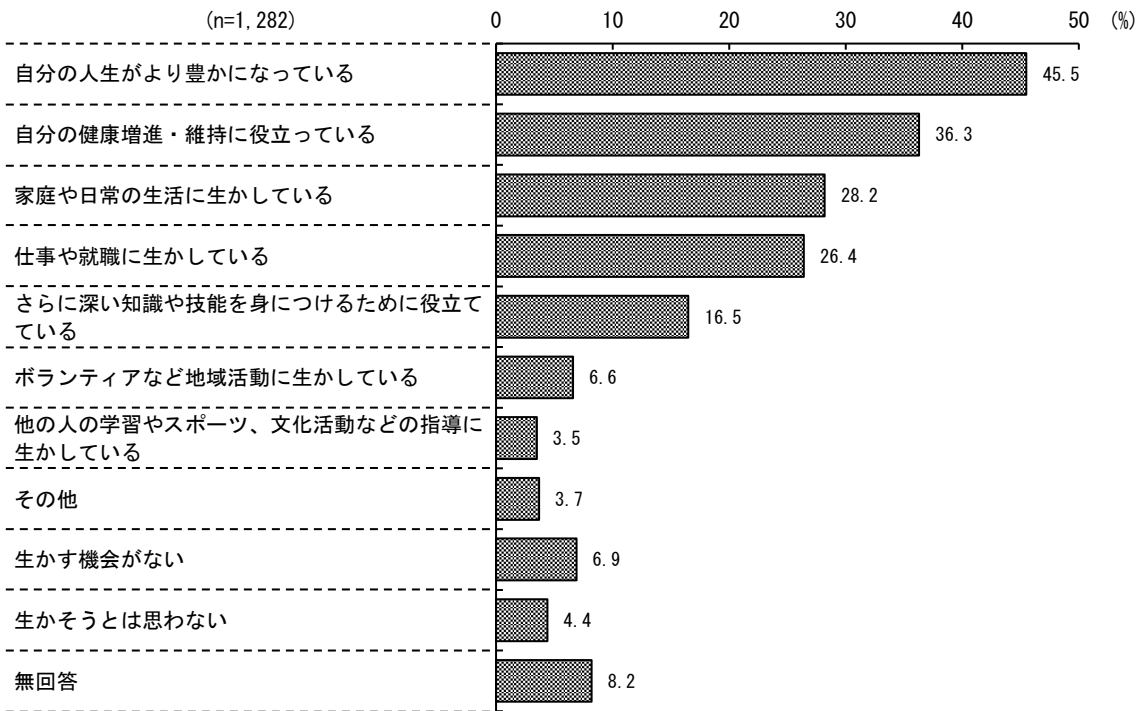
女性の場合、20代では「仕事や就職に活かしている」(52.3%)、30代では「家庭や日常生活に活かしている」(50.5%)、60歳以上では「自分の健康維持・増進に役立っている」がそれぞれ5割を超え、他の年代より多くなっている。

〈 職業別／生涯学習の成果／上位4項目 〉

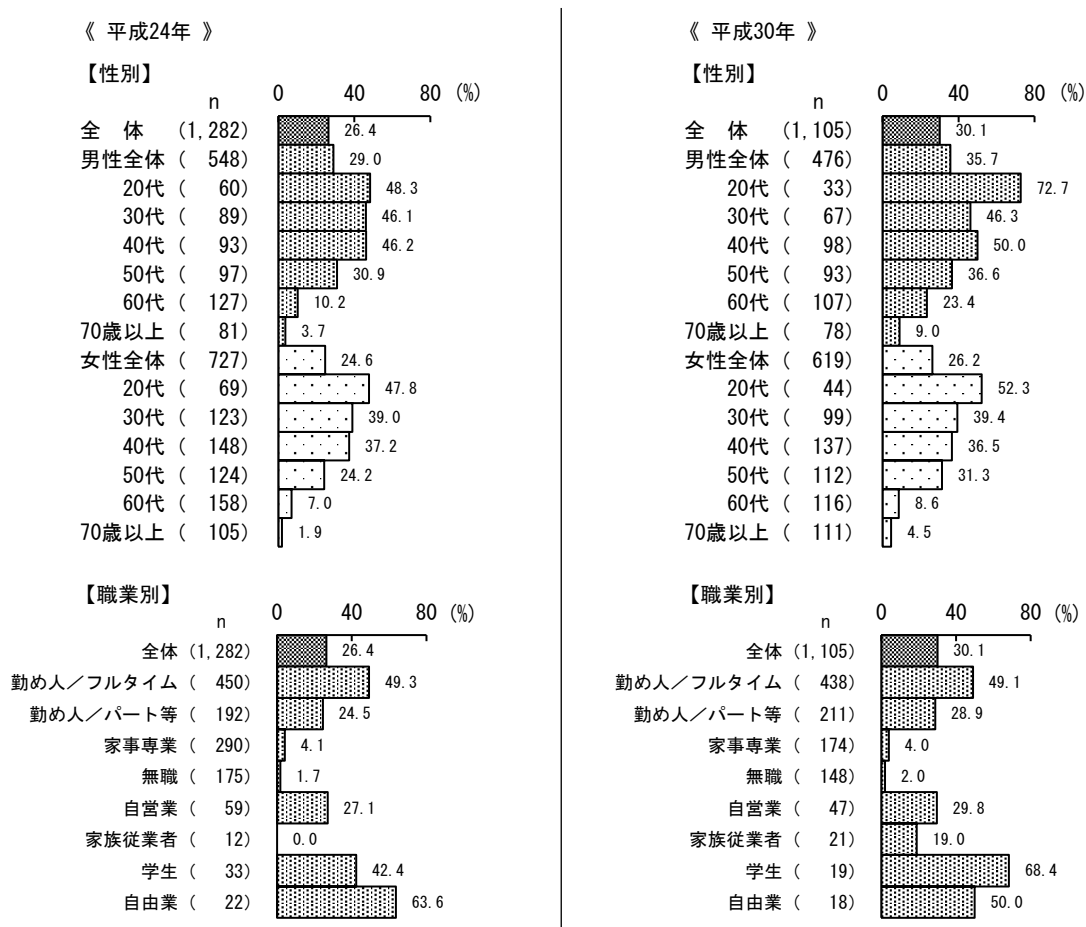


職業別で見ると、勤め人(フルタイム)では「仕事や就職に活かしている」(49.1%)、家事専業では「自分の人生がより豊かになっている」(53.4%)「自分の健康維持・増進に役立っている」(51.1%)、無職では「自分の健康維持・増進に役立っている」(45.9%)がそれぞれ5割前後を占め、他の層より多くなっている。

〈 参考①／前回調査結果（平成24年） 〉



・生涯学習の成果を「仕事や就職に活かしている」割合の属性比較（平成24年と平成30年）



生涯学習の成果を「仕事や就職に活かしている」は平成24年に比べ、全体では3.7ポイント増加している。

性別で見ると、女性が1.6ポイントの増加に対し、男性は6.7ポイントで増加の割合が高くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、すべての年代で増加しているが、特に20代が24.4ポイントと大幅に増加し、60代が13.2ポイント増で続く。

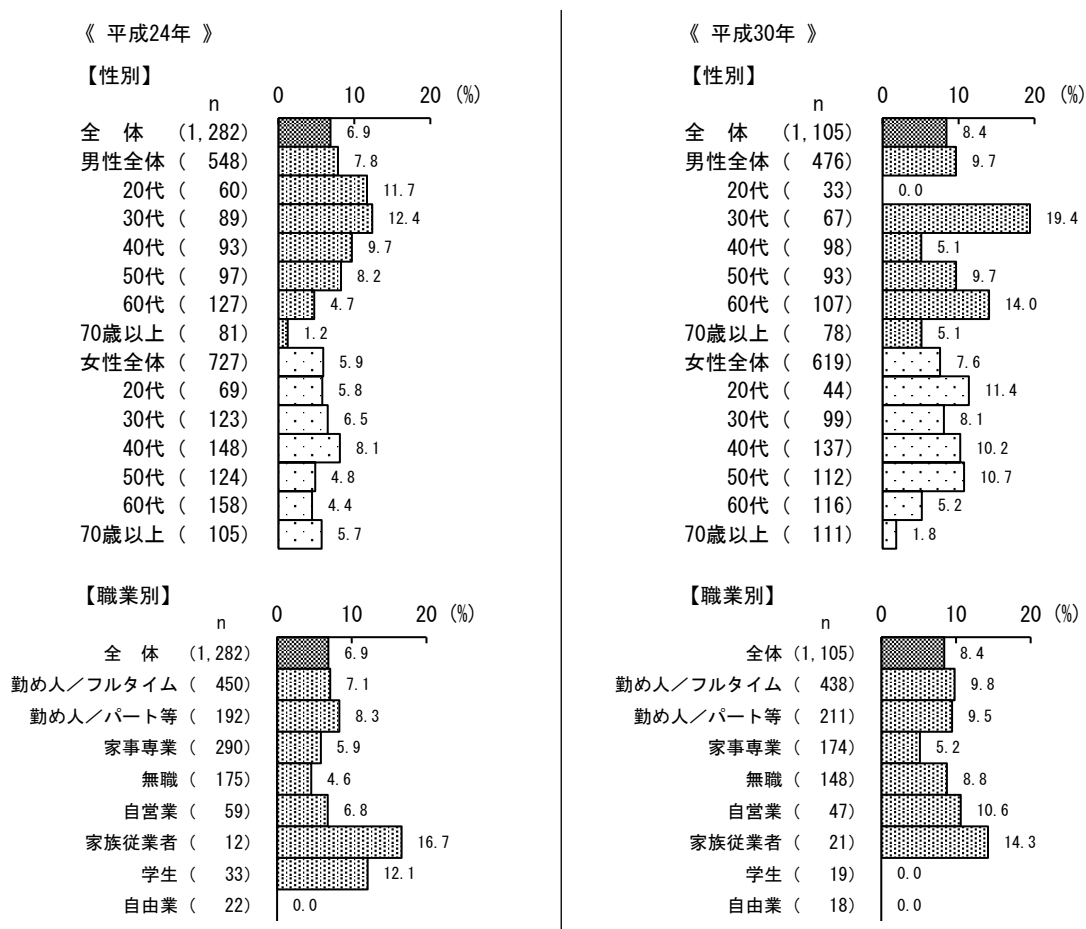
女性の場合、20代が4.5ポイント、50代が7.1ポイント増加する一方、40代では0.7ポイント減少している。

男女とも20代の若い年代を中心に、50～60代でも生涯学習の成果を仕事や就職に活かそうとする傾向が強くうかがえる。

職業別で見ると、勤め人／パート等が4.4ポイント、自営業が2.7ポイント増加している。一方、勤め人／フルタイム（0.2ポイント減）や家事専業（0.1ポイント減）はほぼ横ばいとなっている。



・生涯学習の成果を「活かす機会がない」割合の属性比較（平成24年と平成30年）



生涯学習の成果を「活かす機会がない」は平成24年に比べ、全体では1.5ポイント増加している。

性別で見ると、男性が平成24年に比べ1.9ポイント増加、女性は1.7ポイント増加で、男女差はほとんどみられない。

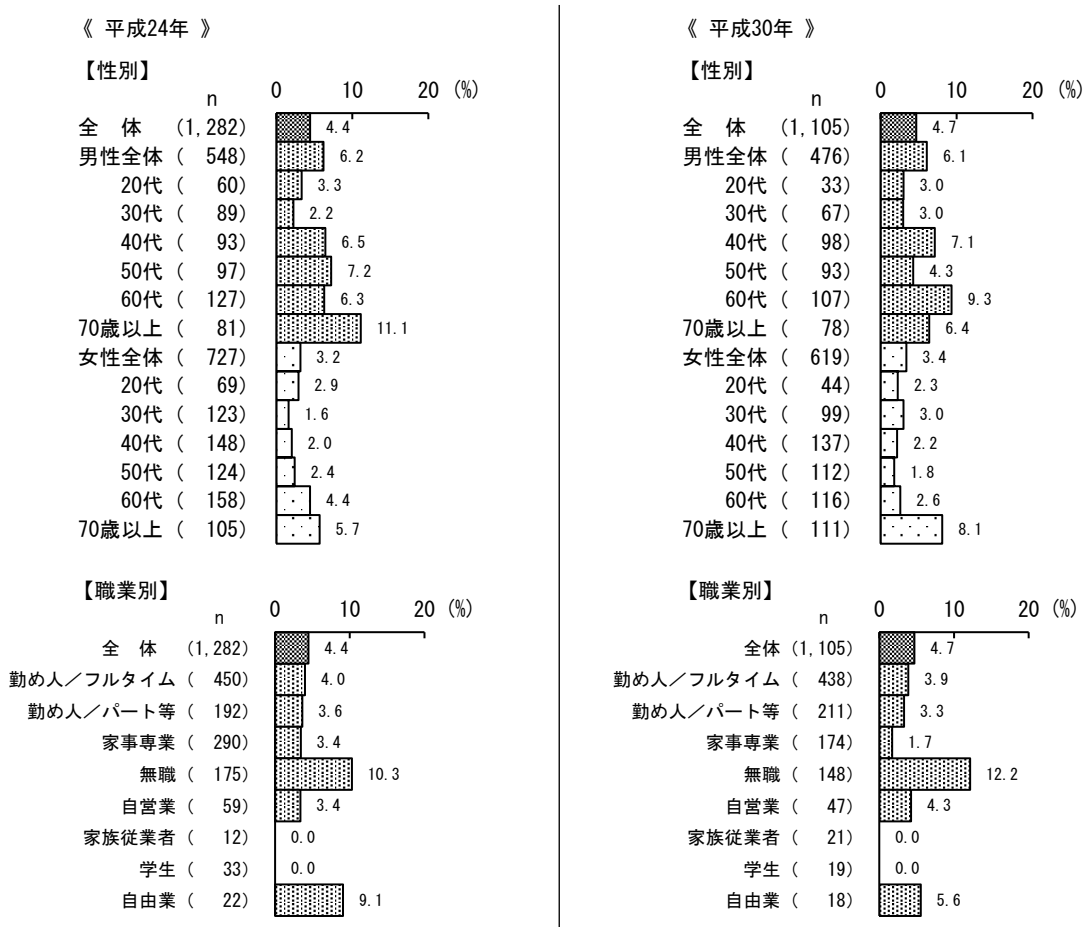
性・年代別で見ると、男性の場合、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは60代（9.3ポイント増）で、30代（7.0ポイント増）や70代（3.9ポイント増）が続く。それに対し、20代は11.7ポイントの大幅な減少で0.0%になり、40代も4.6ポイント減少している。

一方、女性の場合、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは50代（5.9ポイント増）で、20代（5.6ポイント増）もほぼ同率の伸びとなっている。それに対し、70歳以上（3.9ポイント減）は女性で唯一平成24年を下回っている。

その結果、男性は平成24年の30代をピークとする正規分布が崩れ、30代が突出、40～60代にかけて年代と共に増加する傾向へと変化している。女性は平成24年に比べ20代や50代がほぼ倍増するなど、20～50代の占める割合が高まっている。

職業別で見ると、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは無職（4.2ポイント増）で、自営業（3.8ポイント増）や勤め人/フルタイム（2.7ポイント増）が続く。一方、家事専業（0.7ポイント減）は、わずかながら平成24年を下回っている。

・生涯学習の成果を「活かそうとは思わない」割合の属性比較（平成24年と平成30年）



生涯学習の成果を「活かそうとは思わない」は平成24年に比べ、全体では0.3ポイント増加している。

性別で見ると、男性が平成24年に比べ0.1ポイント減少、女性は0.2ポイント増加で、男女ともほぼ横ばいとなっている。

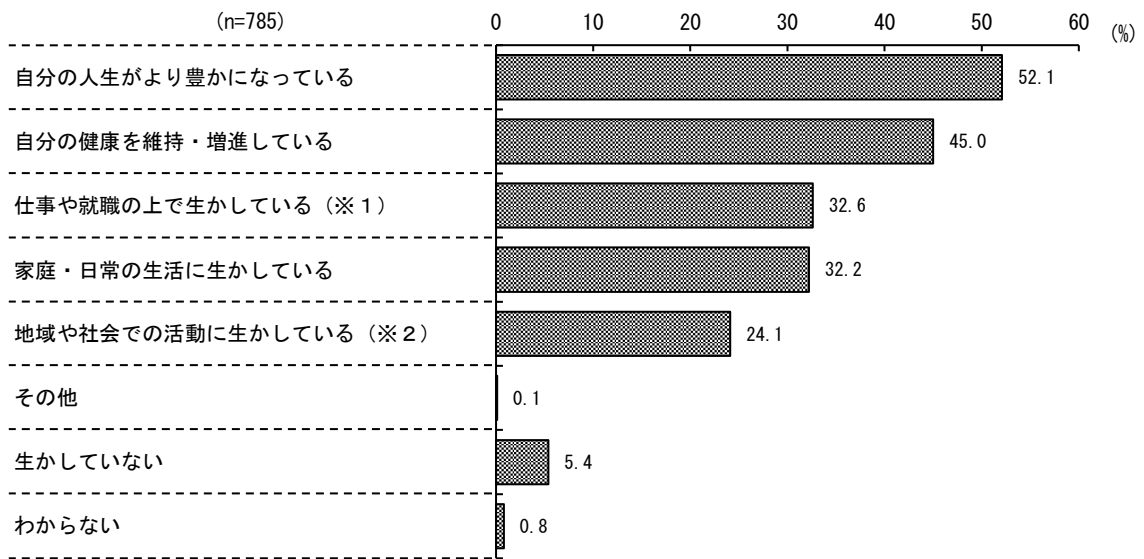
性・年代別で見ると、男性の場合、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは60代（3.0ポイント増）で、30代（0.8ポイント増）や40代（0.6ポイント増）は微増となっている。それに対し、70代は4.7ポイントの減少で、50代（2.9ポイント減）や20代（0.3ポイント減）も平成24年を下回っている。

一方、女性の場合、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは70歳以上（2.4ポイント増）で、30代（1.4ポイント増）が続く。それに対し、60代（1.8ポイント減）や20代・50代（0.6ポイント減）は平成24年を下回っている。

その結果、男性は平成24年に比べ70歳代以上の占める割合が大幅に減少し、60代、40代の割合が高まっている。一方、女性は逆に70歳以上が突出する傾向が強まっている。

職業別で見ると、平成24年と比べ最も増加の割合が高いのは無職（1.9ポイント増）で、自営業（0.9ポイント増）は増加の割合が低くなっている。一方、家事専業（1.7ポイント減）は平成24年を下回っている。

〈 参考②／内閣府調査結果（平成27年） 〉



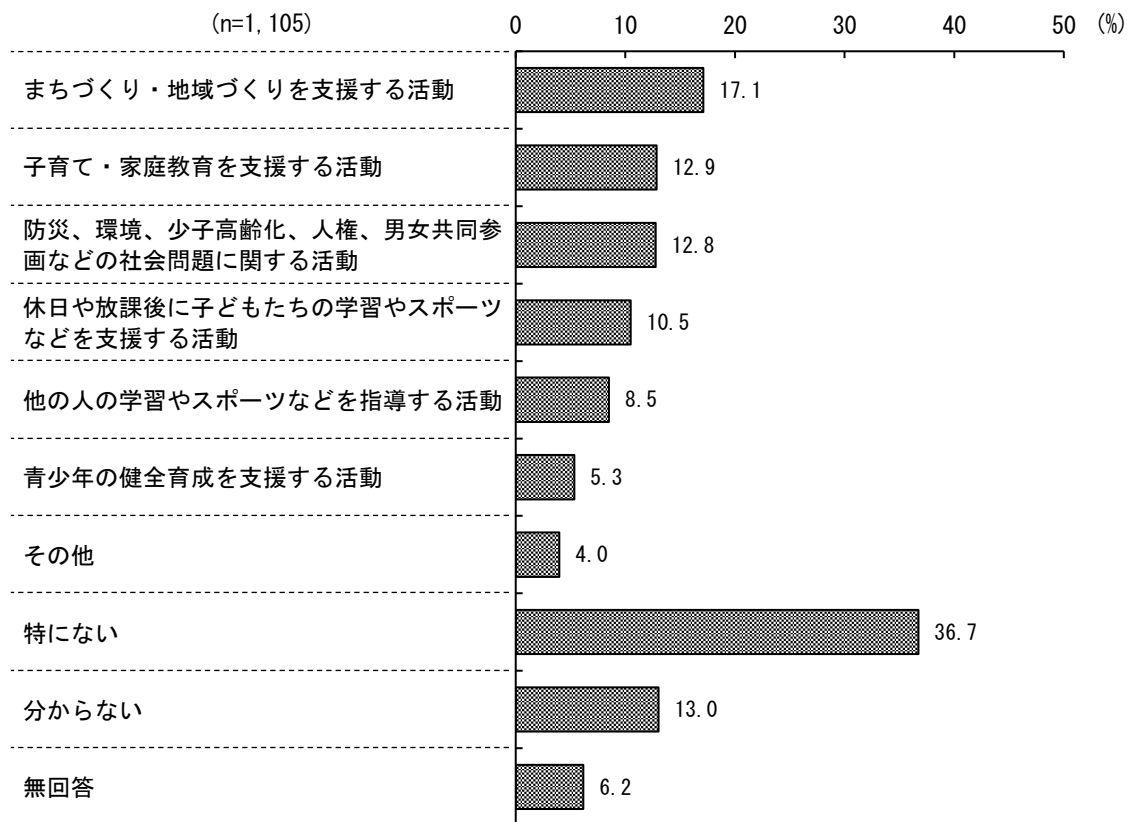
※ 内閣府調査では、この1年間に生涯学習をしたことがあるものを対象に質問している

※1 仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど

※2 学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など

(10) 生涯学習の成果の活用先

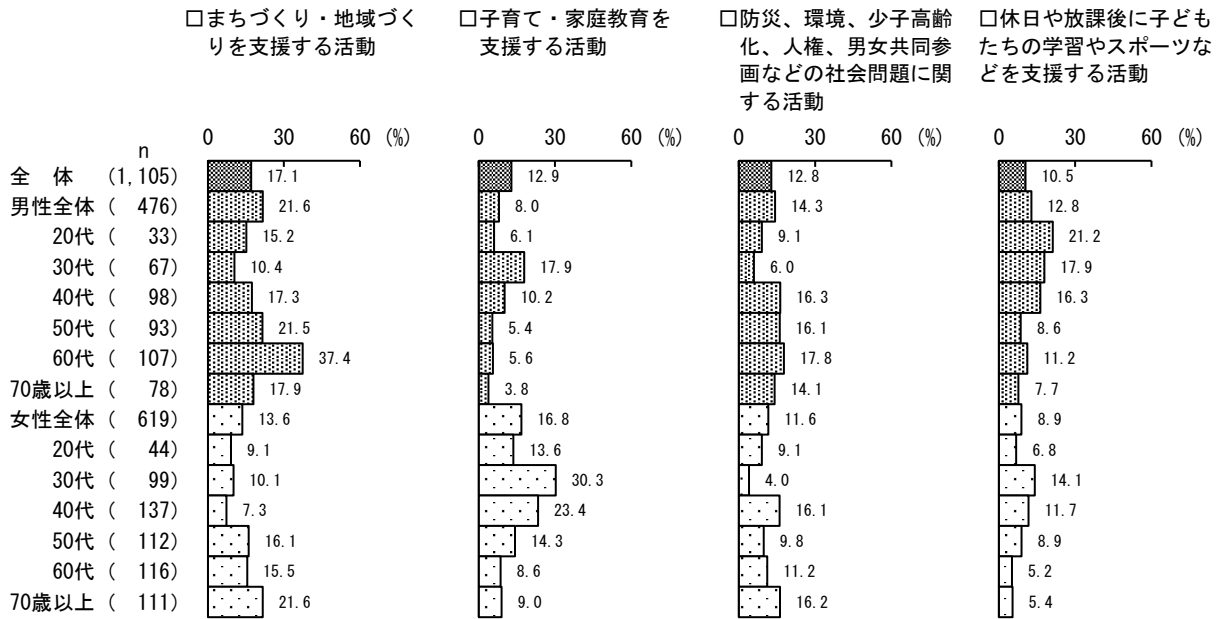
Q6 あなたは、生涯学習で身につけた知識や技能を活かすために、どのような活動に参加してみたいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)



生涯学習で得た知識や技能を活かすために参加してみたい活動は、「まちづくり・地域づくりを支援する活動」が17.1%で最も多く、以下「子育て・家庭教育を支援する活動」(12.9%)、「防災、環境、少子高齢化、人権、男女共同参画などの社会問題に関する活動」(12.8%)、「休日や放課後に子どもたちの学習やスポーツなどを支援する活動」(10.5%)の順で続いている。

一方、「特にない」は36.7%、「分からない」は13.0%となっている。

〈 性別、性・年代別／生涯学習の成果の活用先／上位4項目 〉

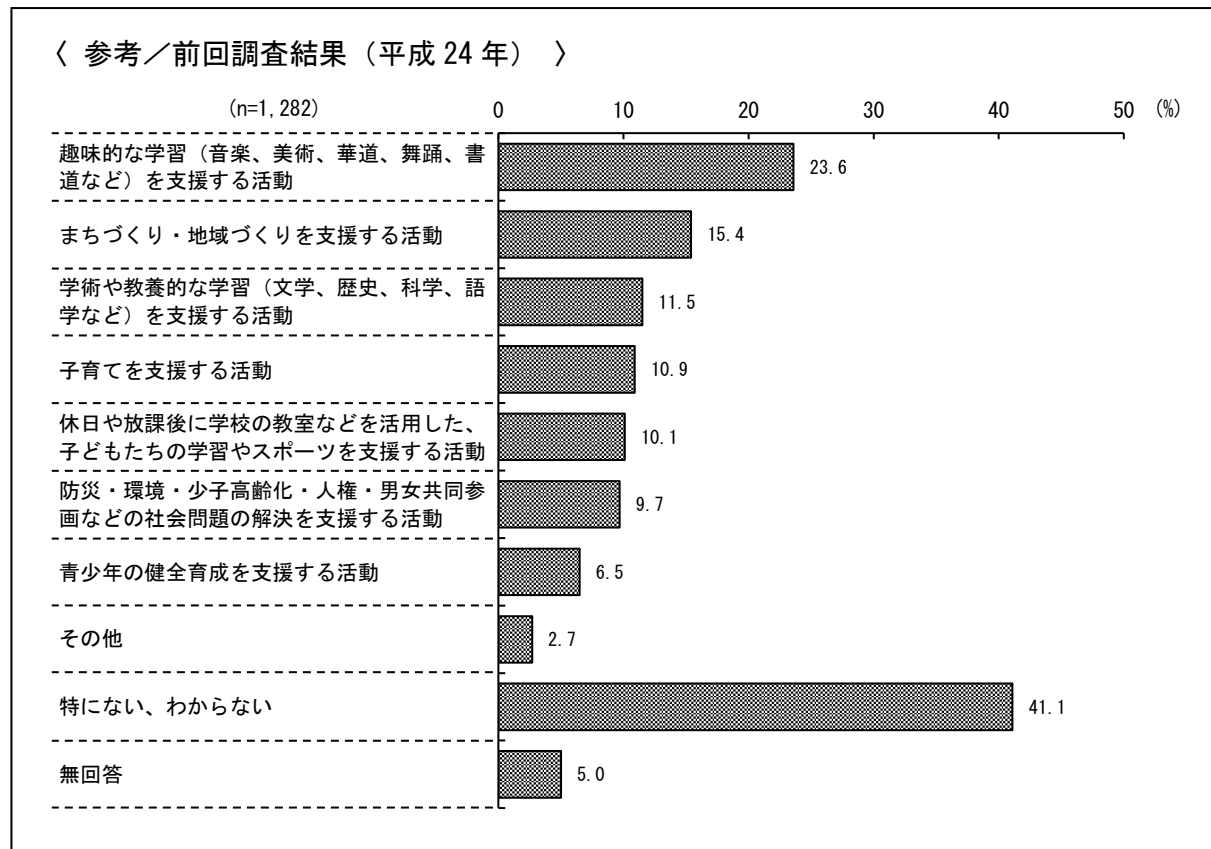


性別で見ると、男性では「まちづくり・地域づくりを支援する活動」(21.6%)が女性(13.6%)より多くなっている。

一方、女性では「子育て・家庭教育を支援する活動」(16.8%)が男性(8.0%)より多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、60代では「まちづくり・地域づくりを支援する活動」(37.4%)、30代では「子育て・家庭教育を支援する活動」(17.9%)が他の年代より多くなっている。

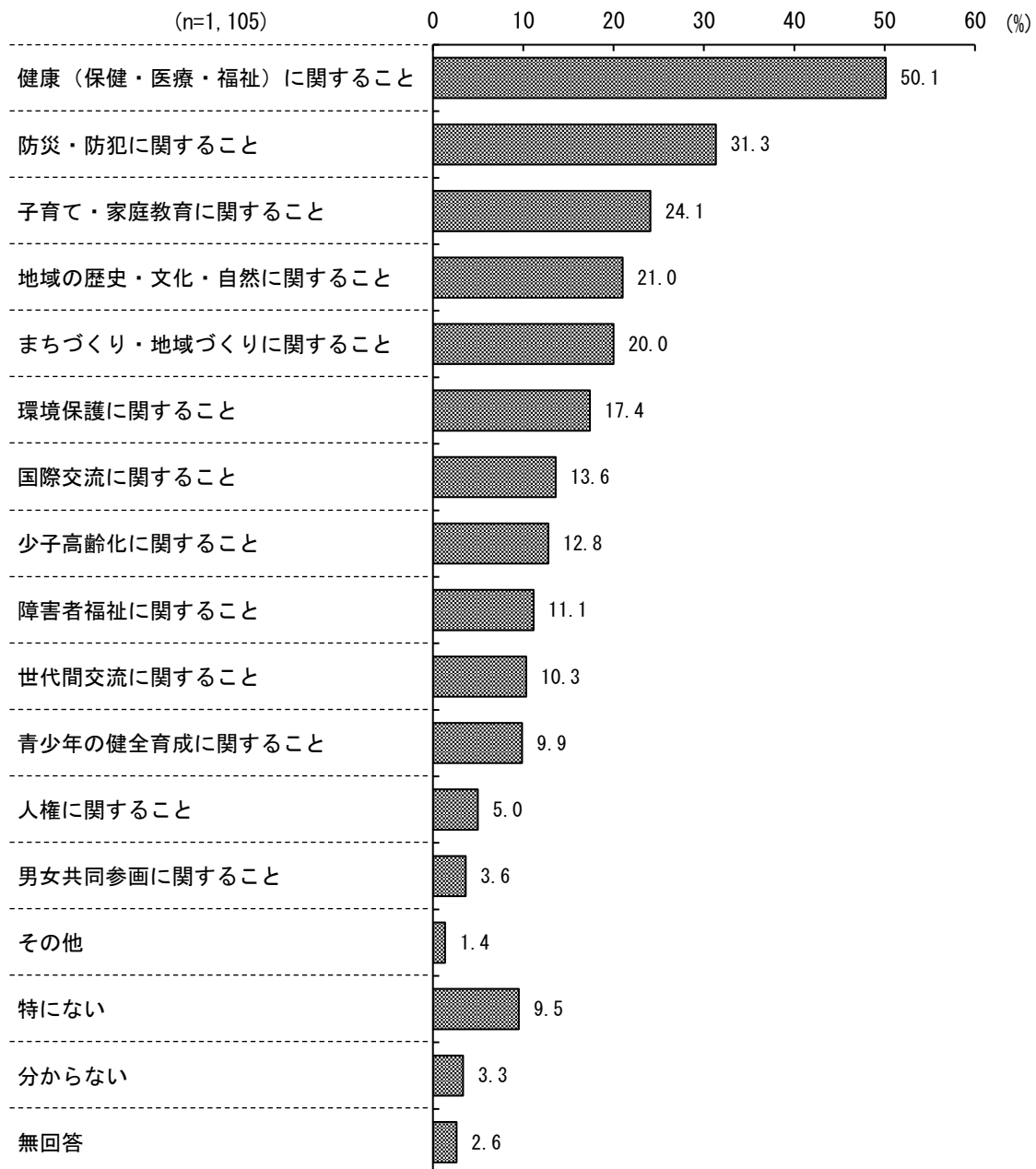
女性の場合、「子育て・家庭教育を支援する活動」が30代(30.3%)、40代(23.4%)で多くなっている。



## (11) 関心のある学習テーマ

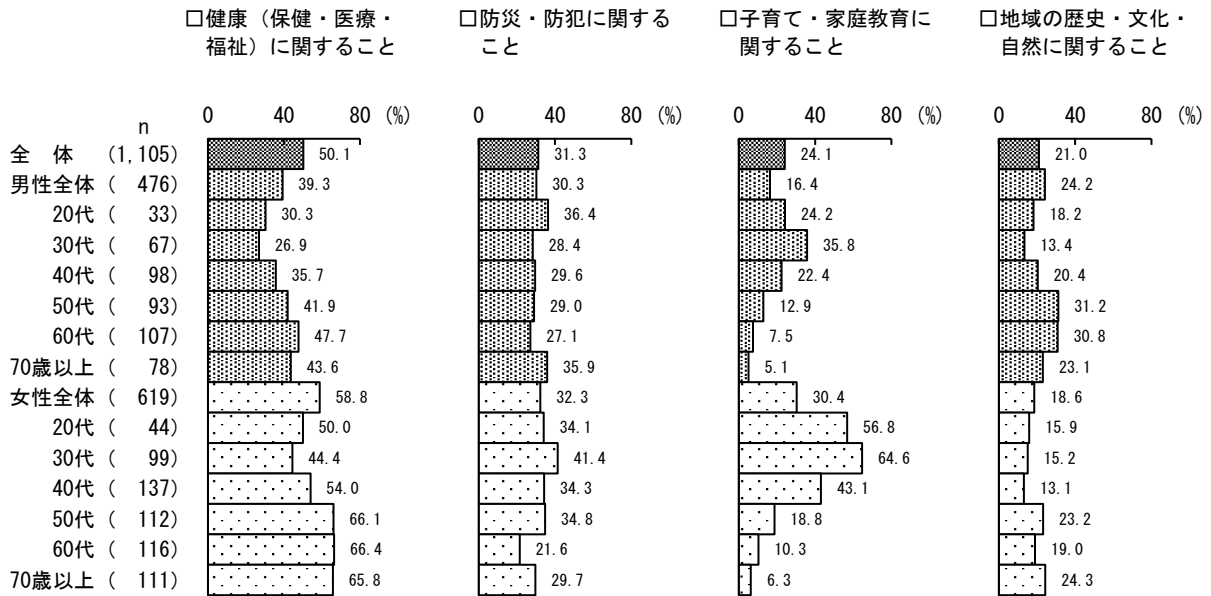
Q7 社会や地域の課題の中で、あなたが関心のある学習テーマは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)



社会や地域の課題の中で関心がある学習テーマは、「健康（保健・医療・福祉）に関すること」が50.1%で最も多く、以下「防災・防犯に関すること」（31.3%）、「子育て・家庭教育に関すること」（24.1%）、「地域の歴史・文化・自然に関すること」（21.0%）、「まちづくり・地域づくりに関すること」（20.0%）の順が続いている。

〈 性別、性・年代別／関心のある学習テーマ／上位4項目 〉

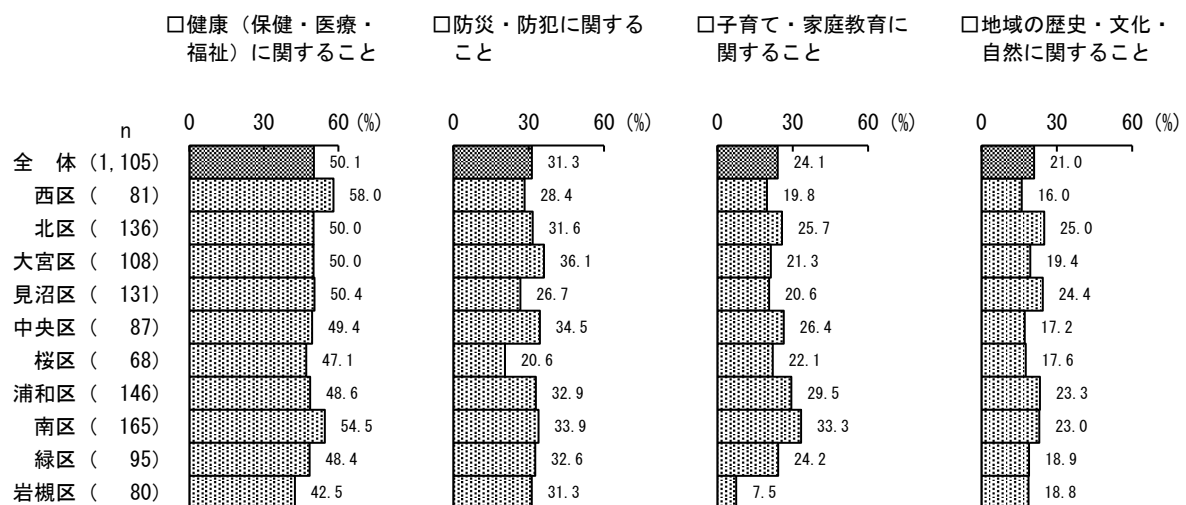


性別で見ると、女性では「健康 (保健・医療・福祉) に関すること」(58.8%) が半数を超え、「子育て・家庭教育に関すること」(30.4%) も男性より1割以上多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、「健康 (保健・医療・福祉) に関すること」「地域の歴史・文化・自然に関すること」は概ね年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、前者は50代以上で4割、後者は50～60代で3割を超えている。また、「子育て・家庭教育に関すること」は30代(35.8%) が男性全体(16.4%) を2割近く上回っている。

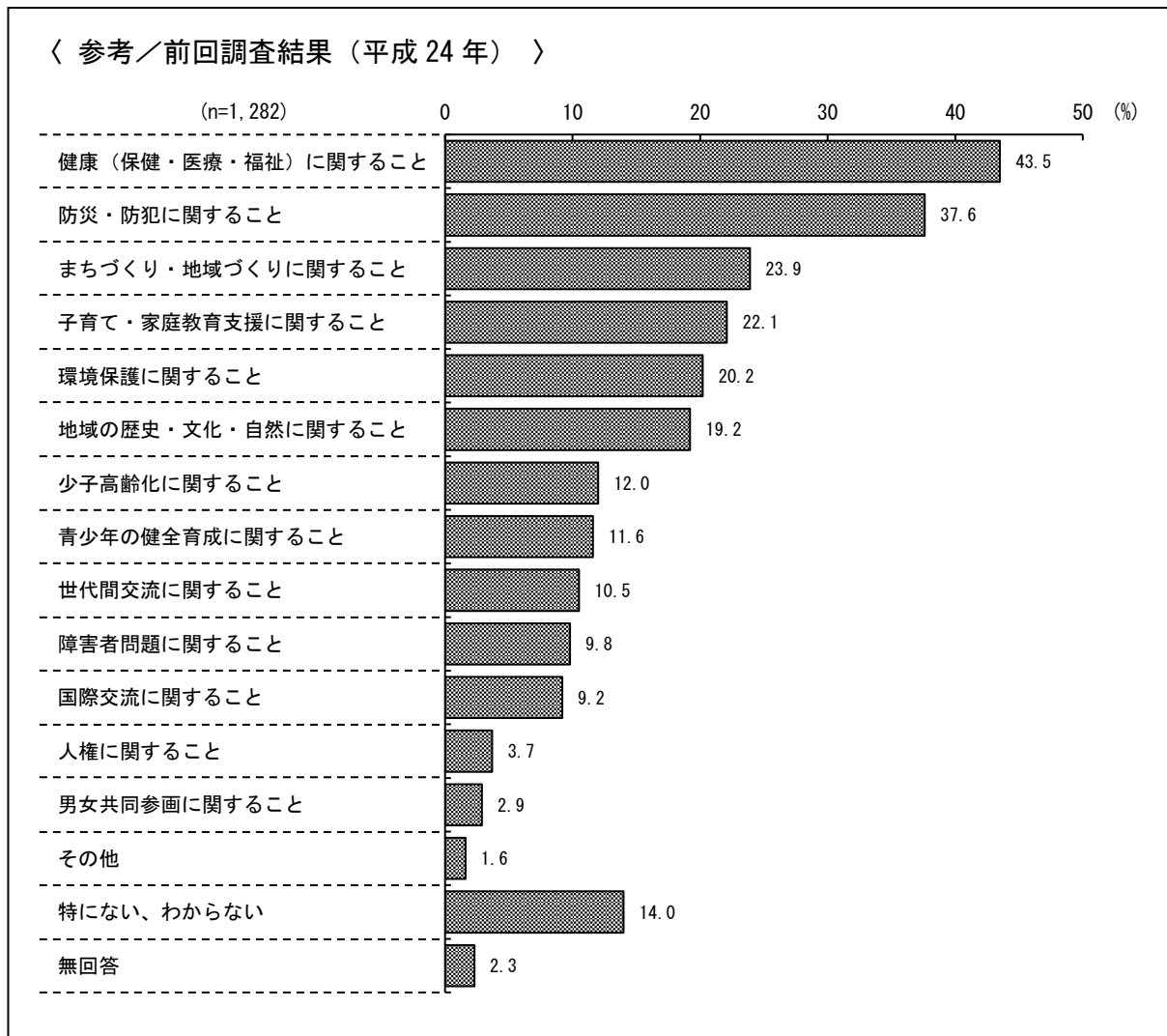
女性の場合、20～30代では「子育て・家庭教育に関すること」が6割前後を占め、「健康 (保健・医療・福祉) に関すること」を上回っている。一方、50代以上では「健康 (保健・医療・福祉) に関すること」が6割を超え、多くなっている。

〈 区別／関心のある学習テーマ／上位4項目 〉



区別で見ると、西区では「健康 (保健・医療・福祉) に関すること」が58.0%、南区では「子育て・家庭教育に関すること」が33.3%と、他の区より多くなっている。

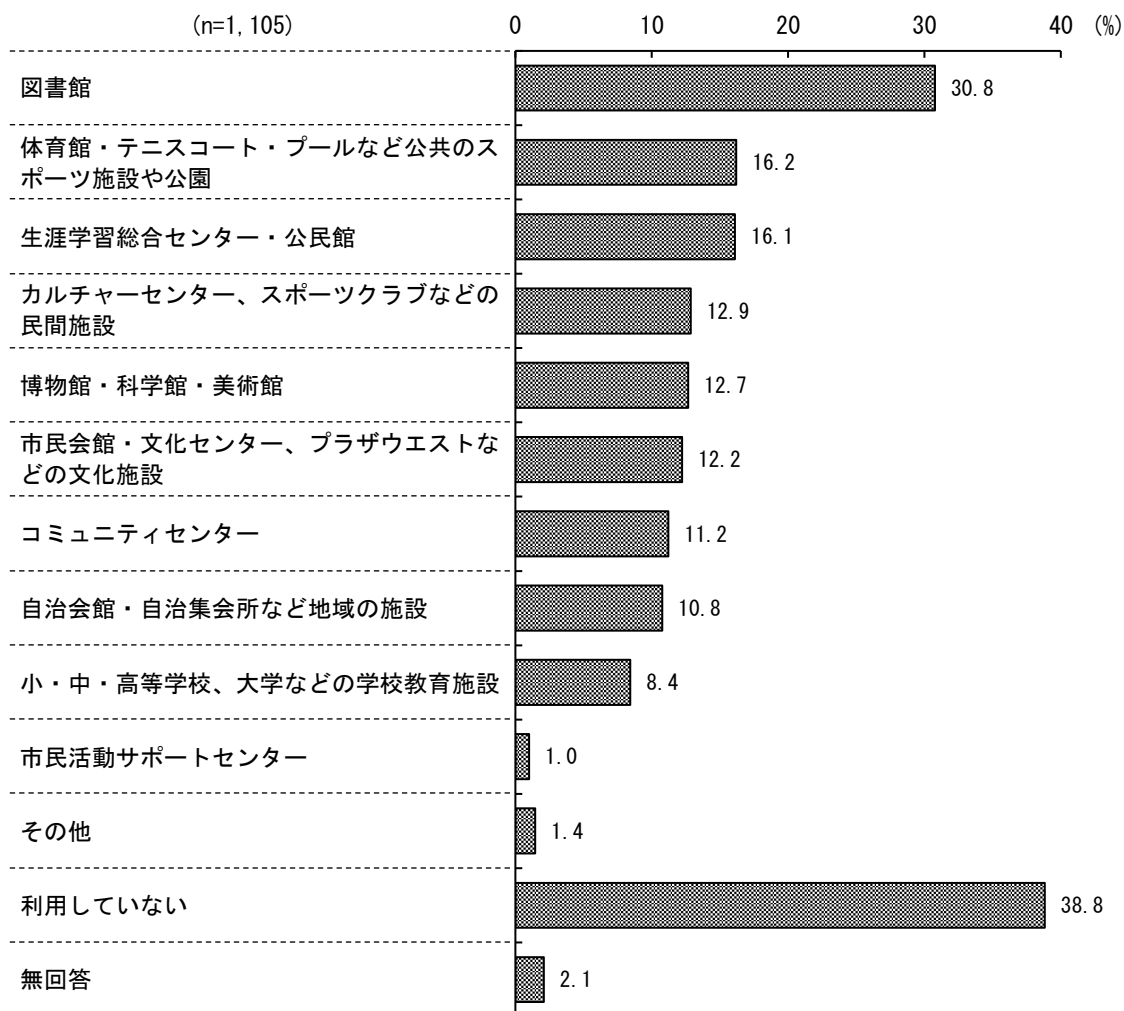




## 2. 生涯学習に関連する施設

### (1) この1年間の市内生涯学習関連施設の利用状況

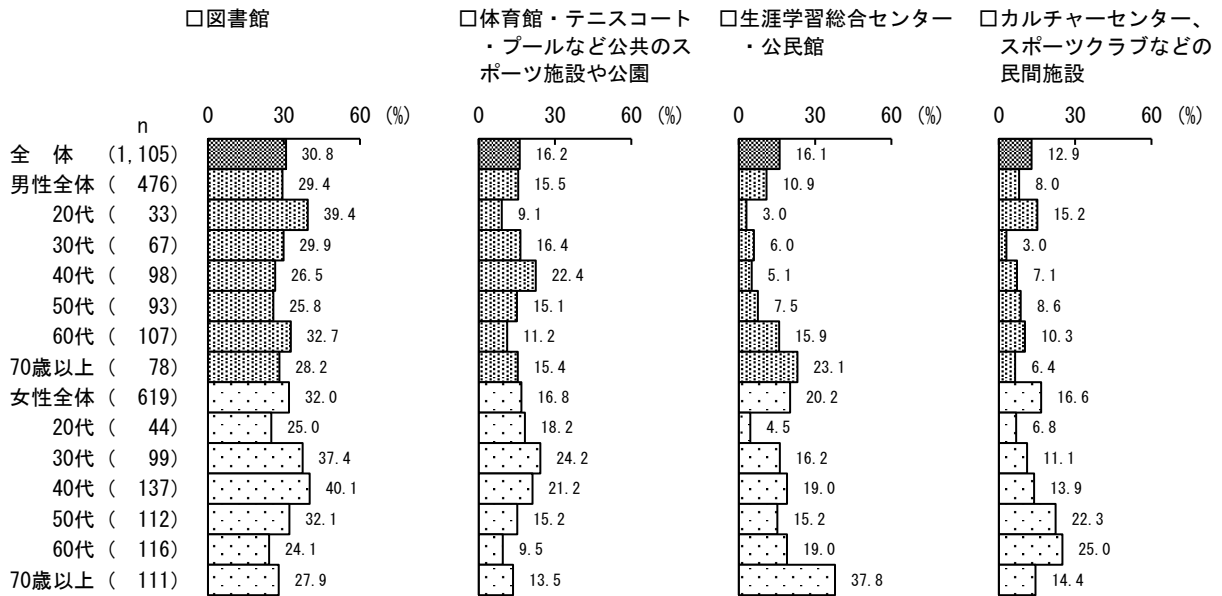
Q8 あなたは、この1年間に、市内のどの生涯学習関連施設を利用しましたか。  
 (〇はあてはまるものすべて)



この1年間に利用した市内の生涯学習関連施設は、「図書館」が30.8%で最も多く、以下「体育館・テニスコート・プールなど公共のスポーツ施設や公園」(16.2%)、「生涯学習総合センター・公民館」(16.1%)、「カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設」(12.9%)、「博物館・科学館・美術館」(12.7%)の順で続いている。

一方、「利用していない」は38.8%となっている。

〈 性別、性・年代別／この1年間の市内生涯学習関連施設の利用状況／上位4項目 〉

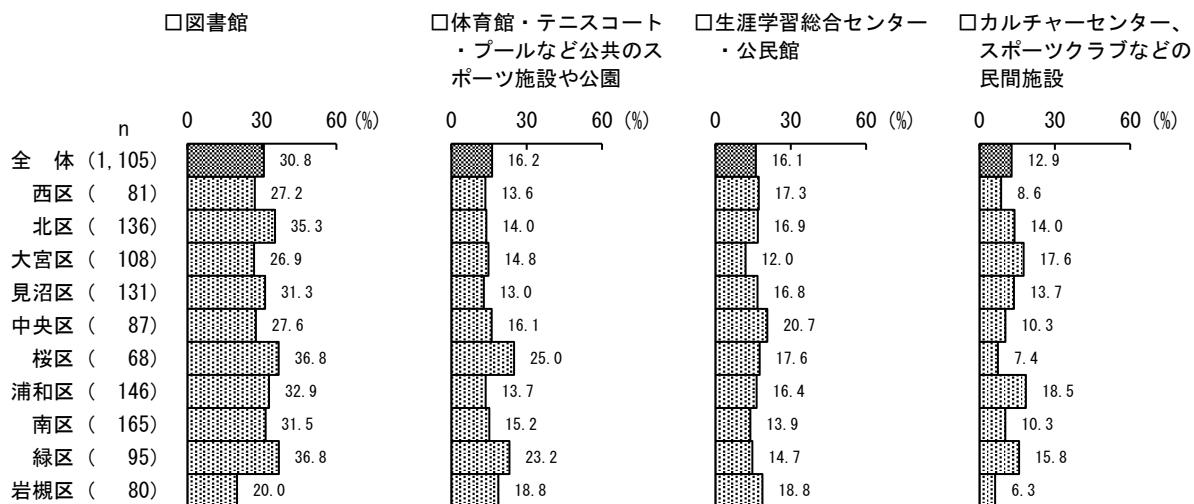


性別で見ると、女性は上位4項目とも男性を上回っている。特に「生涯学習総合センター・公民館」(20.2%)、「カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設」(16.6%)はそれぞれ男性の約2倍となっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、20代では「図書館」(39.4%)と「カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設」(15.2%)が他の年代より多くなっている。また、「生涯学習総合センター・公民館」は年代が上がるにつれ増加する傾向にある。

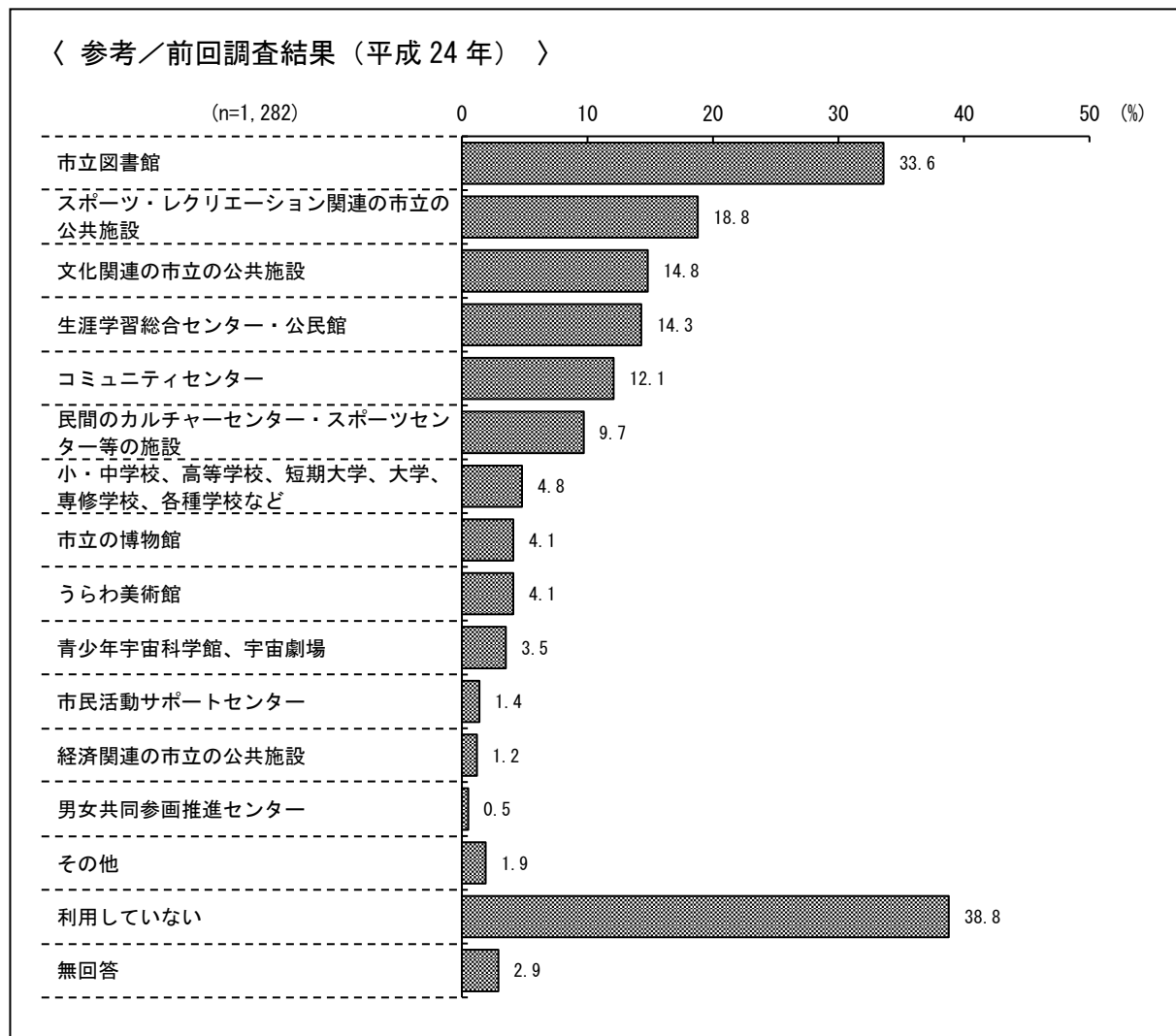
女性の場合、「図書館」「体育館・テニスコート・プールなどの公共のスポーツ施設や公園」は30～40代で多くなっている。また、70歳以上では「生涯学習総合センター・公民館」(37.8%)、50～60代では「カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設」が他の年代より多くなっている。

〈 区別／この1年間の市内生涯学習関連施設の利用状況／上位4項目 〉



区別で見ると、桜区、緑区では「体育館・テニスコート・プールなど公共のスポーツ施設や公園」が2割を超え、他の区より多くなっている。

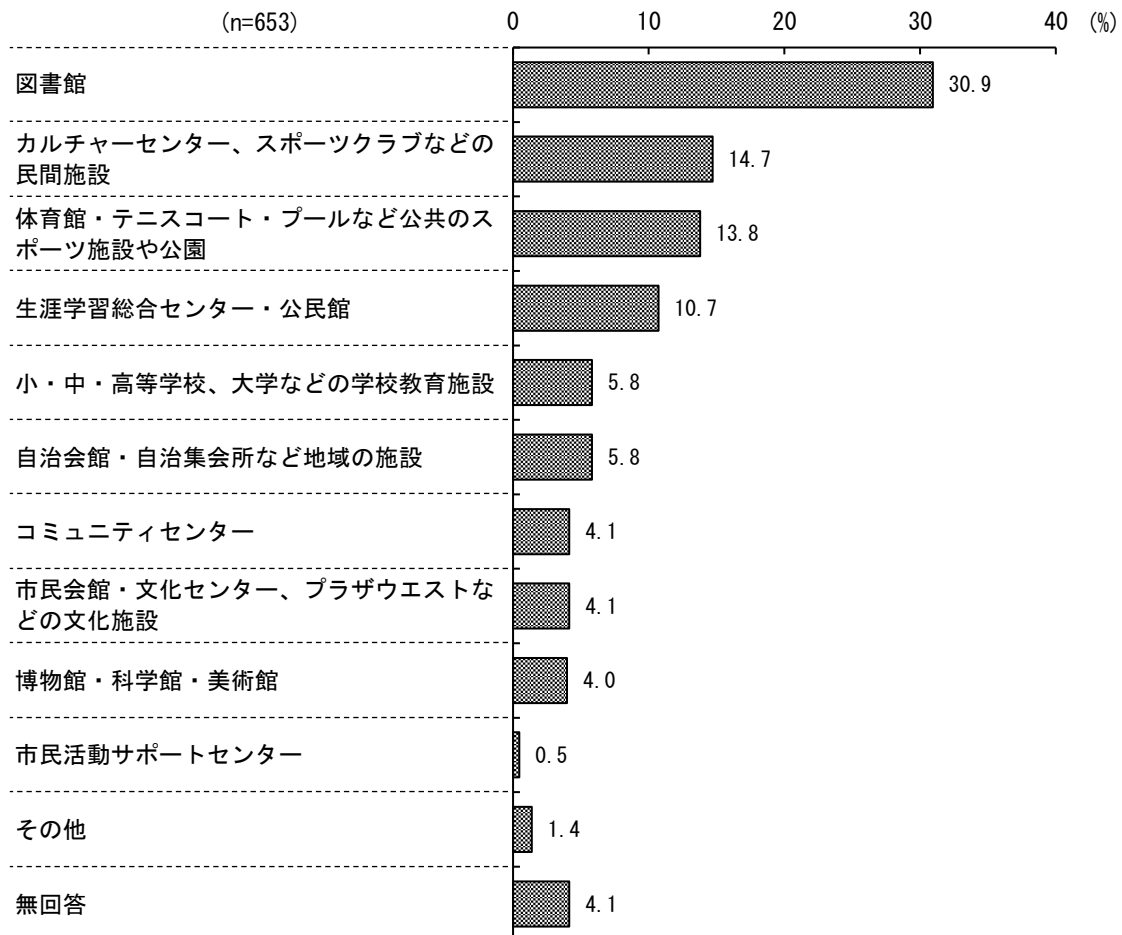
〈 参考／前回調査結果（平成24年） 〉



## (2) この1年間で最も頻繁に利用した施設

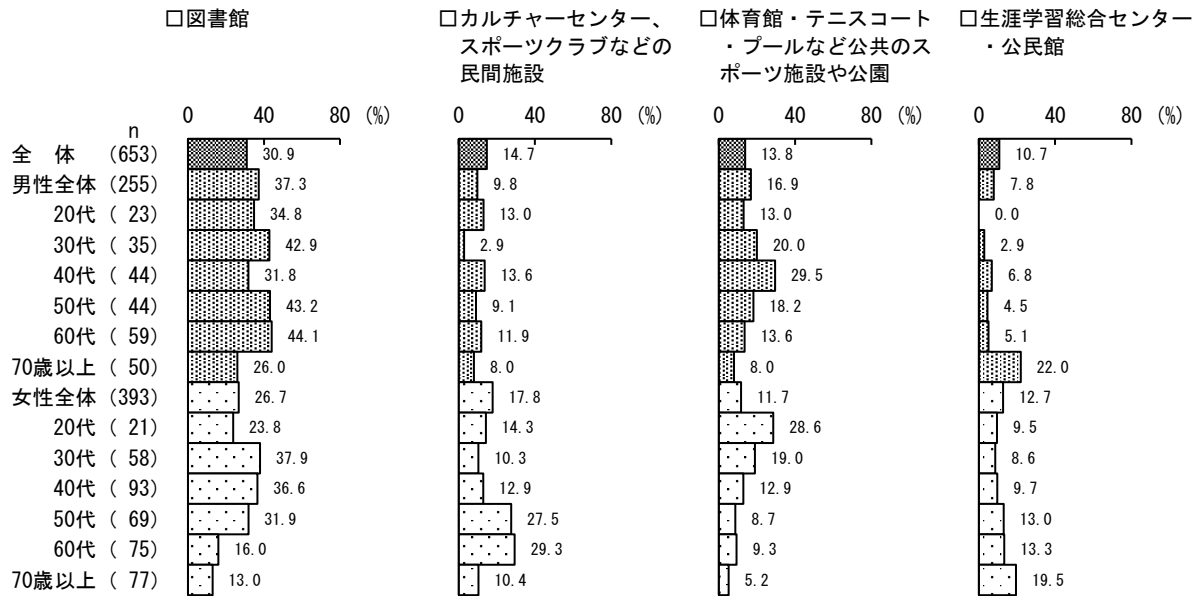
(Q8で「1~11」に1つでも○を付けた方)

Q8-1 Q8の施設の中で、あなたが最も頻繁に利用した施設の番号をご記入ください。  
(番号は1つだけ)



この1年間で最も頻繁に利用した施設は、「図書館」が30.9%で最も多く、以下「カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設」(14.7%)、「体育館・テニスコート・プールなど公共のスポーツ施設や公園」(13.8%)、「生涯学習総合センター・公民館」(10.7%)の順で続いている。

〈性別、性・年代別／この1年間で最も頻繁に利用した施設／上位4項目〉

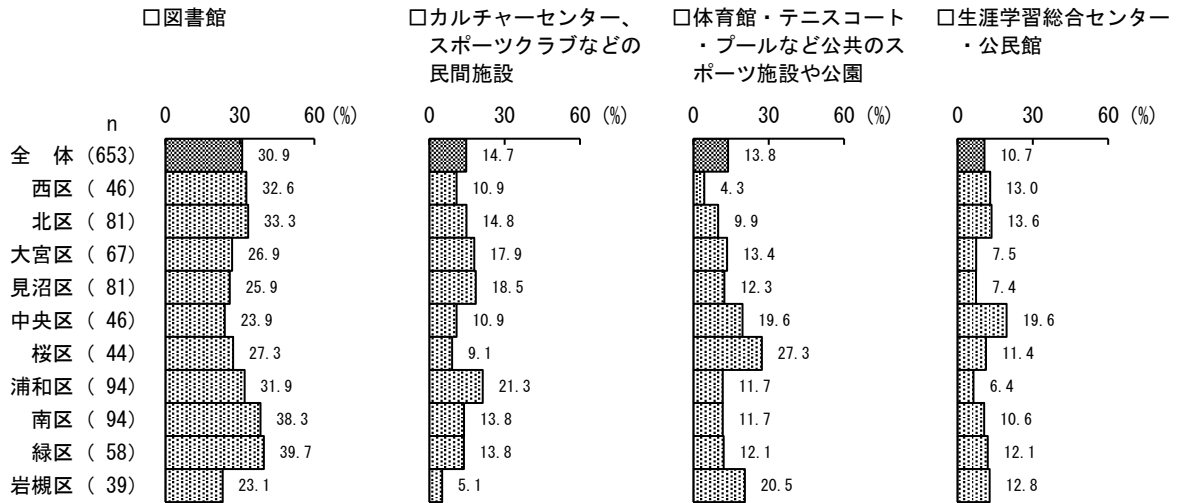


性別で見ると、男性では「図書館」(37.3%)が、女性(26.7%)より1割ほど多くなっている。一方、女性では「カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設」(17.8%)が、男性(9.8%)より多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、40代では「体育館・テニスコート・プールなど公共のスポーツ施設や公園」(29.5%)、70歳以上では「生涯学習総合センター・公民館」(22.0%)が、他の年代より多くなっている。

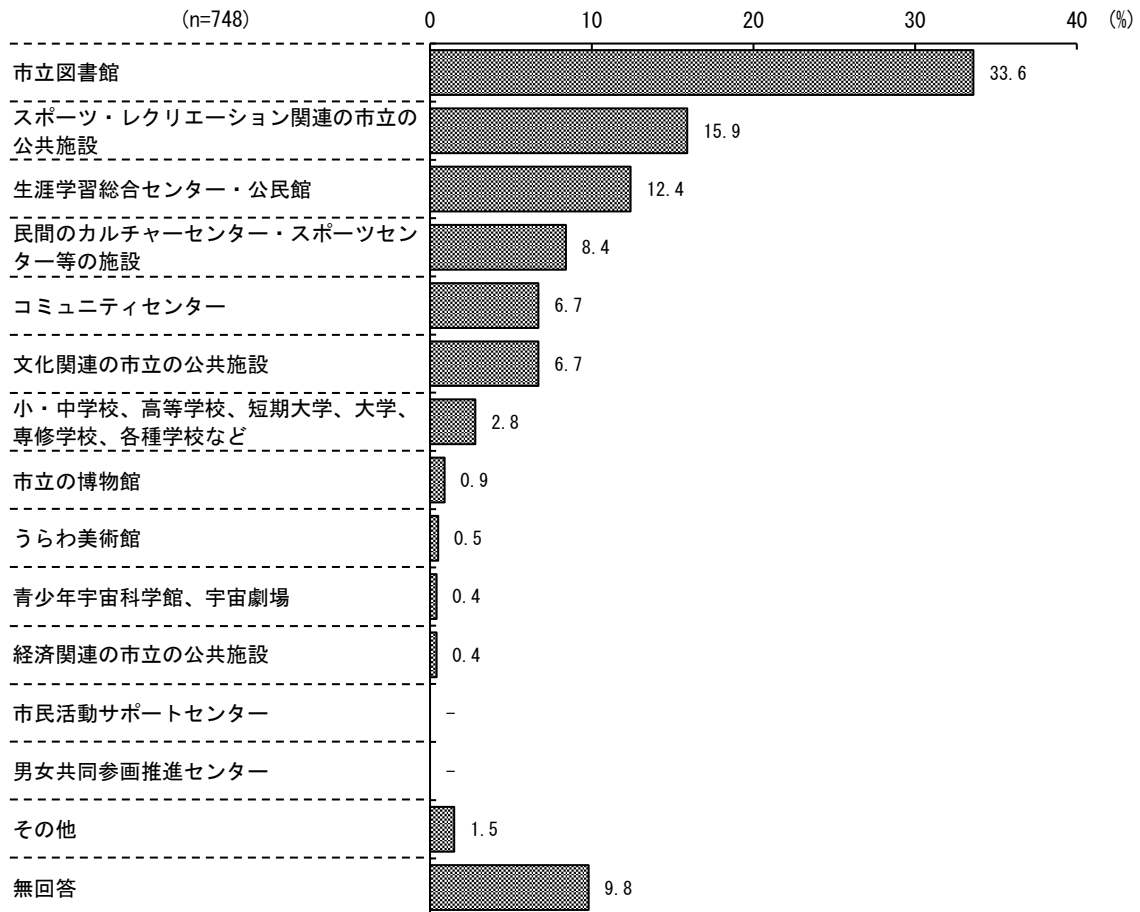
女性の場合、30～50代で「図書館」が3割を超えている。また、20代では「体育館・テニスコート・プールなど公共のスポーツ施設や公園」(28.6%)、50～60代では「カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設」がそれぞれ約3割を占め、他の年代より多くなっている。

〈 区別／この1年間で最も頻繁に利用した施設／上位4項目 〉



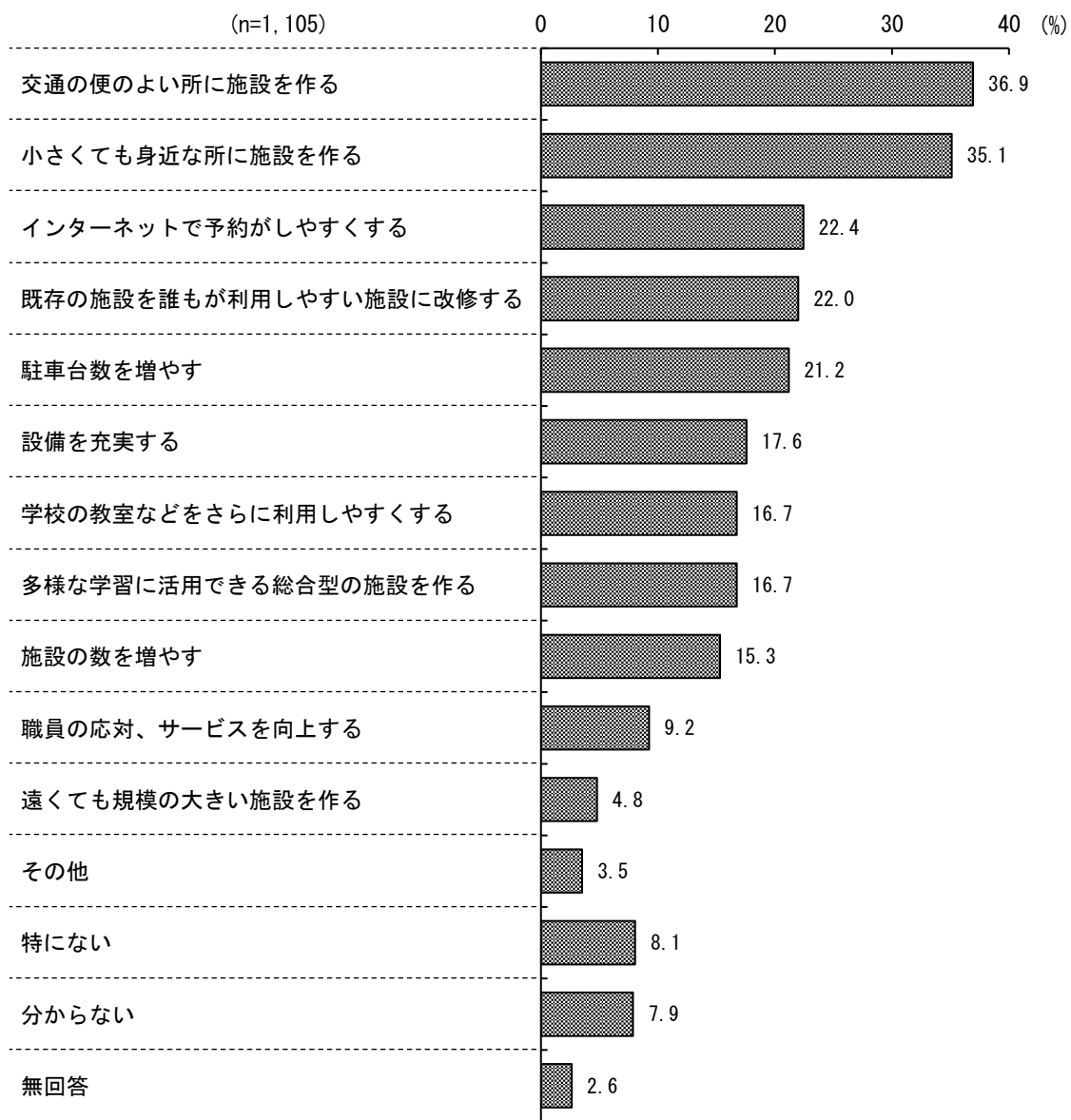
区別で見ると、緑区、南区では「図書館」が約4割（前者39.7%、後者38.3%）を占めている。また、桜区では「体育館・テニスコート・プールなど公共のスポーツ施設や公園」（27.3%）、中央区では「生涯学習総合センター・公民館」（19.6%）が他の区より多くなっている。

〈 参考／前回調査結果（平成24年） 〉



(3) 市の生涯学習関連施設への要望

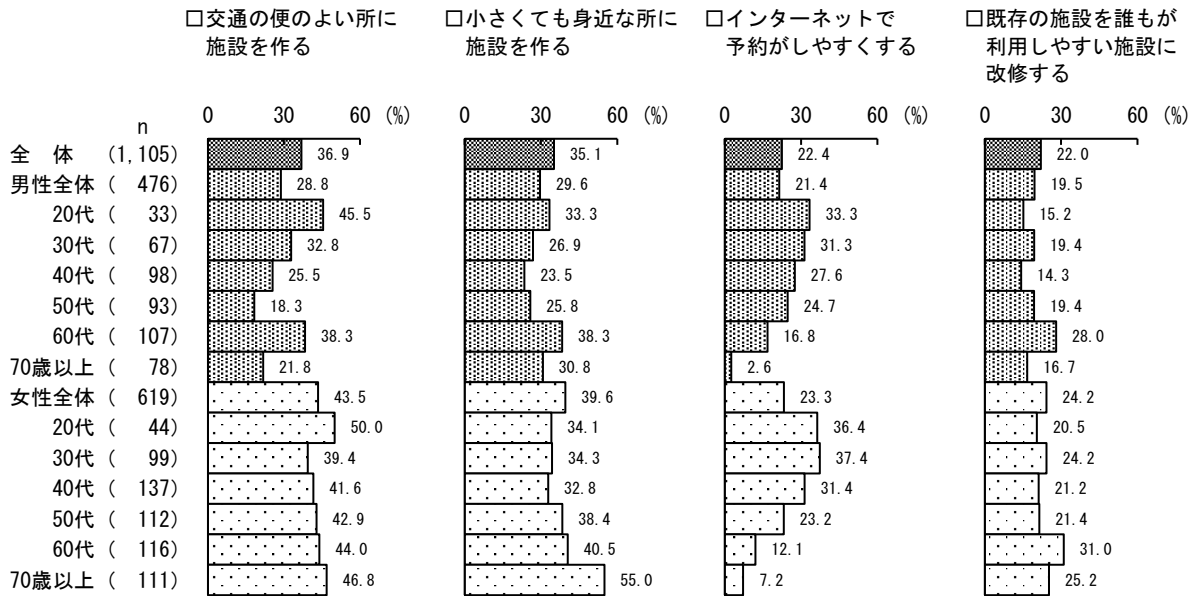
Q9 あなたは、市の生涯学習関連施設について、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)



市の生涯学習関連施設への要望は、「交通の便のよい所に施設を作る」が36.9%で最も多く、以下「小さくても身近な所に施設を作る」(35.1%)、「インターネットで予約がしやすくする」(22.4%)、「既存の施設を誰もが利用しやすい施設に改修する」(22.0%)、「駐車台数を増やす」(21.2%)の順で続いている。



〈 性別、性・年代別／市の生涯学習関連施設への要望／上位4項目 〉



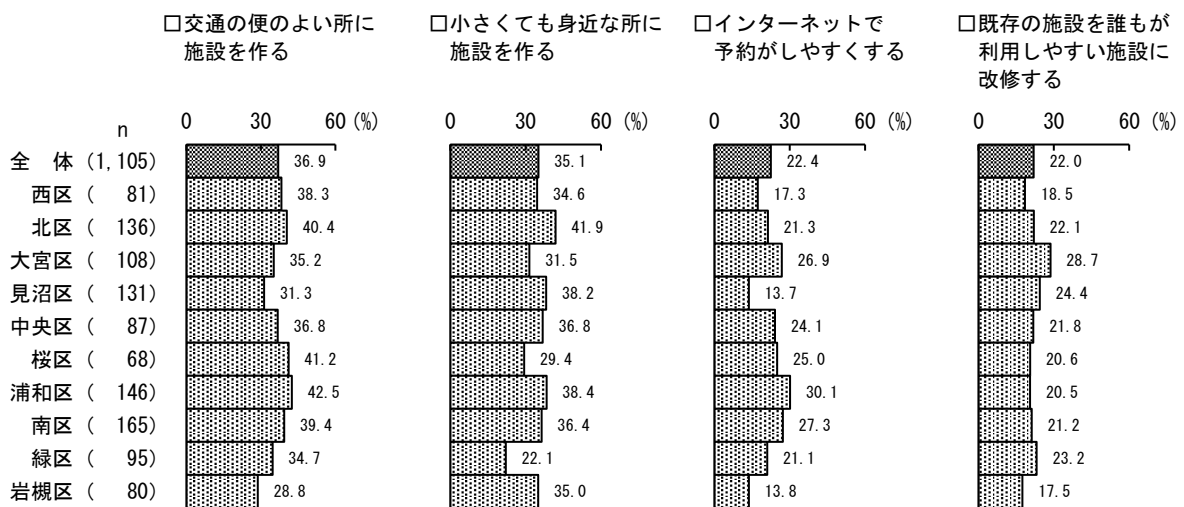
性別で見ると、女性は上位4項目とも男性を上回っている。特に「交通の便のよい所に施設を作る」(43.5%)、「小さくても身近な所に施設を作る」(39.6%)はそれぞれ男性を1割以上上回っている。

性・年代別で見ると、男性の場合、「交通の便のよい所に施設を作る」は20代(45.5%)と60代(38.3%)で他の年代より多くなっている。また、「インターネットで予約がしやすくする」は若い年代ほど多くなる傾向にあり、20~30代で3割を超えている。

女性の場合、「交通の便のよい所に施設を作る」が20代(50.0%)を中心に概ね4割以上を占めている。また、「インターネットで予約がしやすくする」は男性同様20~30代で多くなっている。

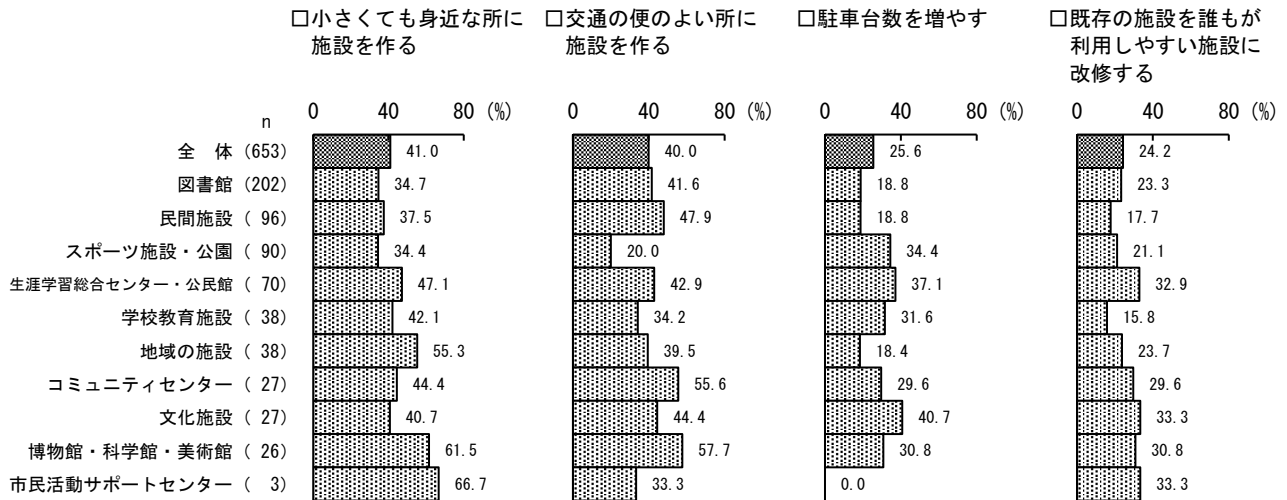
一方、「小さくても身近な所に施設を作る」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上(55.0%)では過半数を占めている。

〈 区別／市の生涯学習関連施設への要望／上位4項目 〉



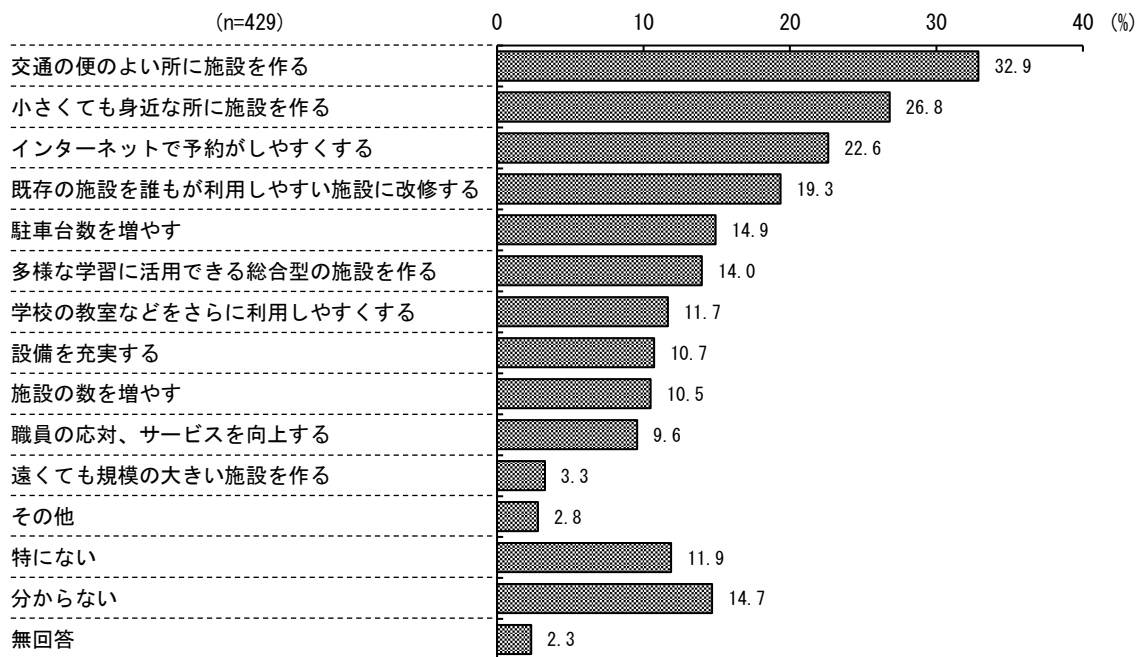
区別で見ると、浦和区、桜区、北区では「交通の便のよい所に施設を作る」が4割を超え多くなっている。

〈 この1年間で最も頻繁に利用した施設別／市の生涯学習関連施設への要望／上位4項目 〉



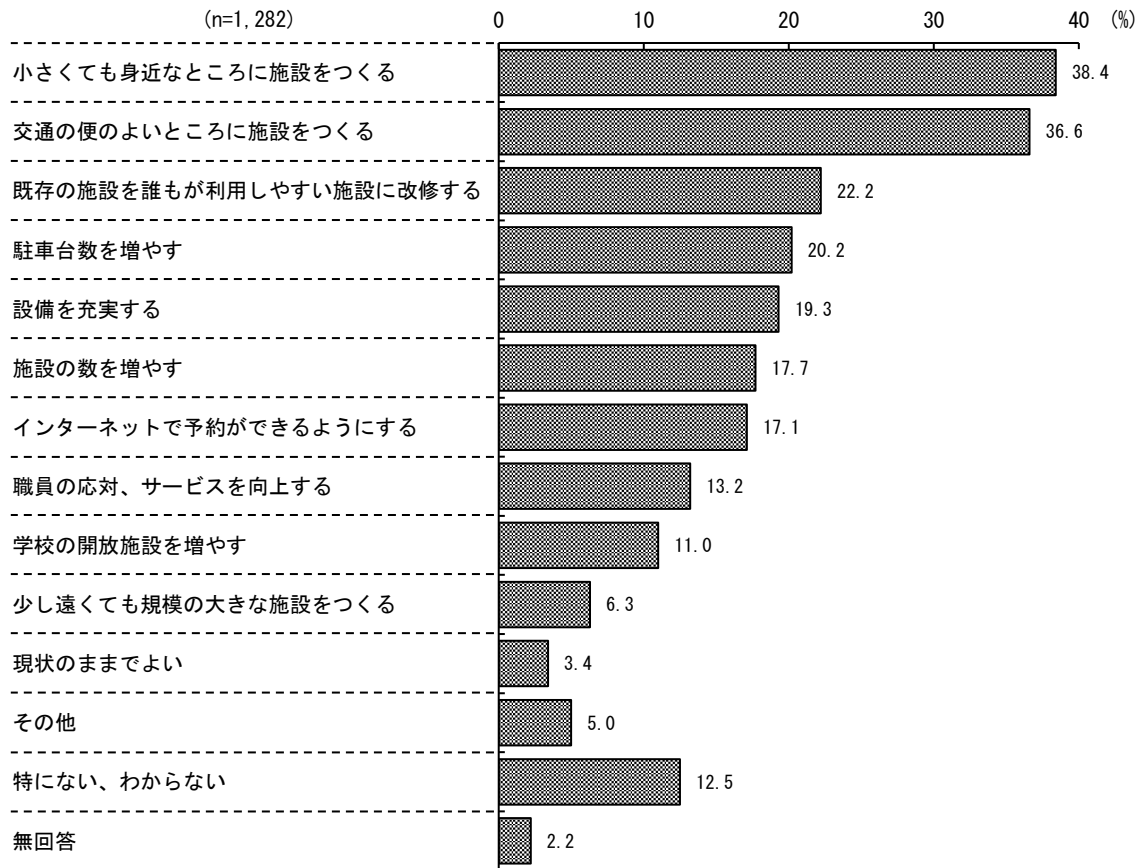
この1年間で最も頻繁に利用した施設別で見ると、博物館・科学館・美術館では「小さくても身近な所に施設を作る」「交通の便のよい所に施設を作る」が、それぞれ61.5%、57.7%と多くなっている。また、コミュニティセンターでは「交通の便のよい所に施設を作る」、自治会館・自治集会所など地域の施設では「小さくても身近な所に施設を作る」が5割を超えている。

〈 この1年間に市内の生涯学習関連施設を利用していない人の、市の生涯学習関連施設への要望 〉



この1年間に利用した市内の生涯学習関連施設を聞いた問8で「利用していない」と回答した人の市の施設への要望は、「交通の便のよい所に施設を作る」(32.9%)、「小さくても身近な所に施設を作る」(26.8%)が多くなっている。

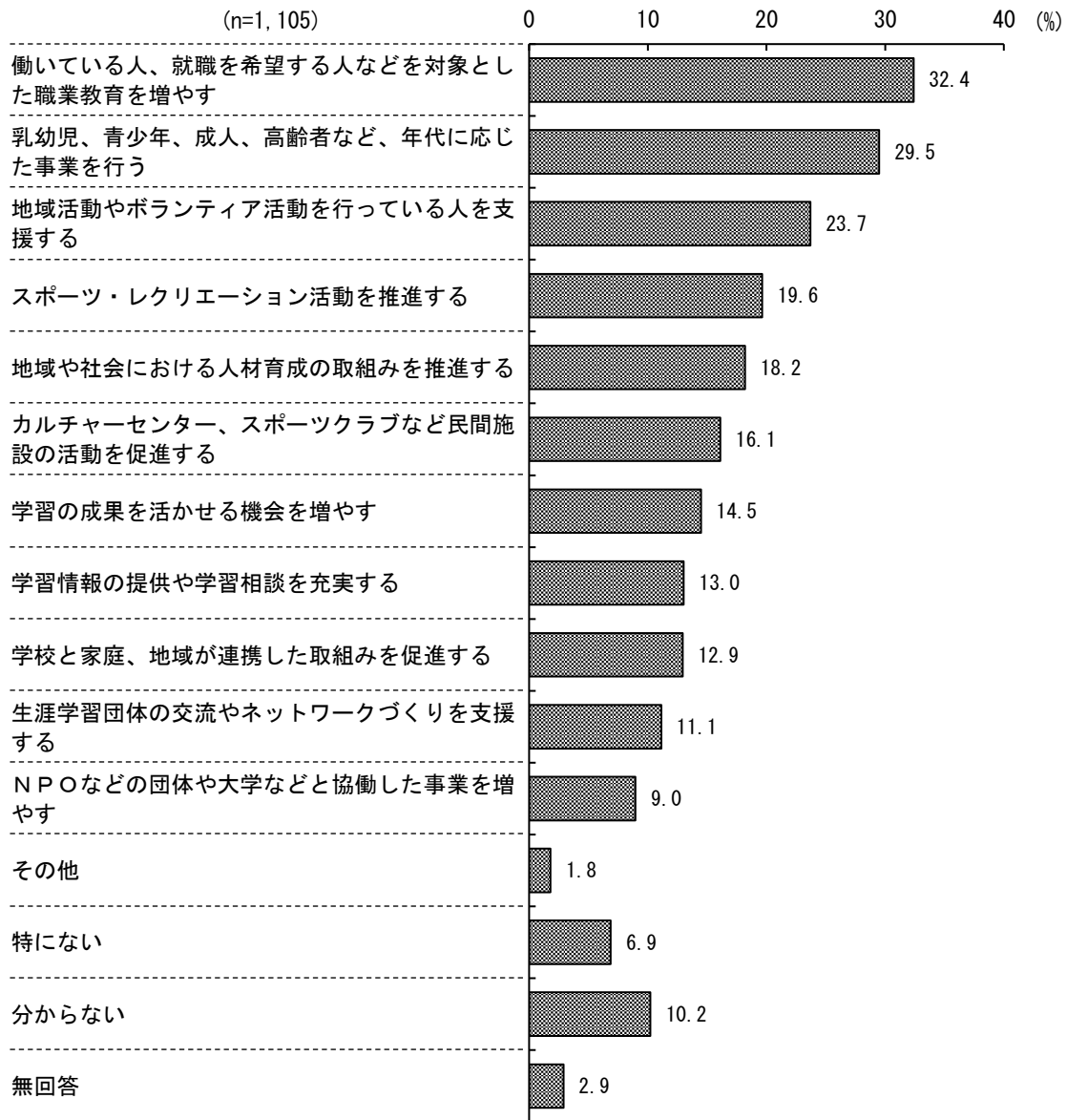
〈 参考／前回調査結果（平成24年） 〉



### 3. 生涯学習に関する施策

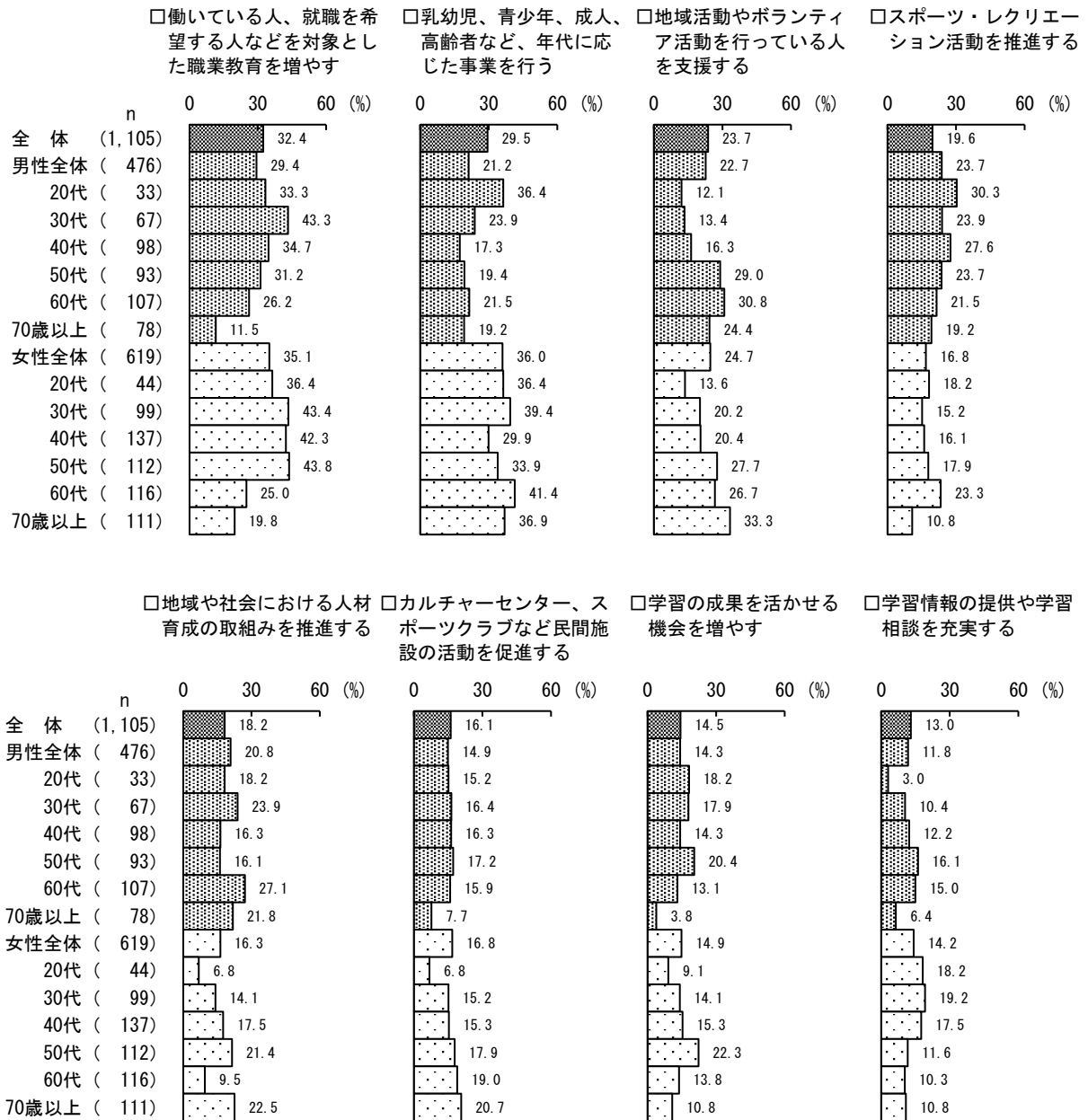
#### (1) 生涯学習に関する重点施策

Q10 あなたは、生涯学習について、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。  
(〇はあてはまるものすべて)



生涯学習について力を入れることは、「働いている人、就職を希望する人などを対象とした職業教育を増やす」が32.4%で最も多く、以下「乳幼児、青少年、成人、高齢者など、年代に応じた事業を行う」(29.5%)、「地域活動やボランティア活動を行っている人を支援する」(23.7%)、「スポーツ・レクリエーション活動を推進する」(19.6%)、「地域や社会における人材育成の取組みを推進する」(18.2%)の順で続いている。

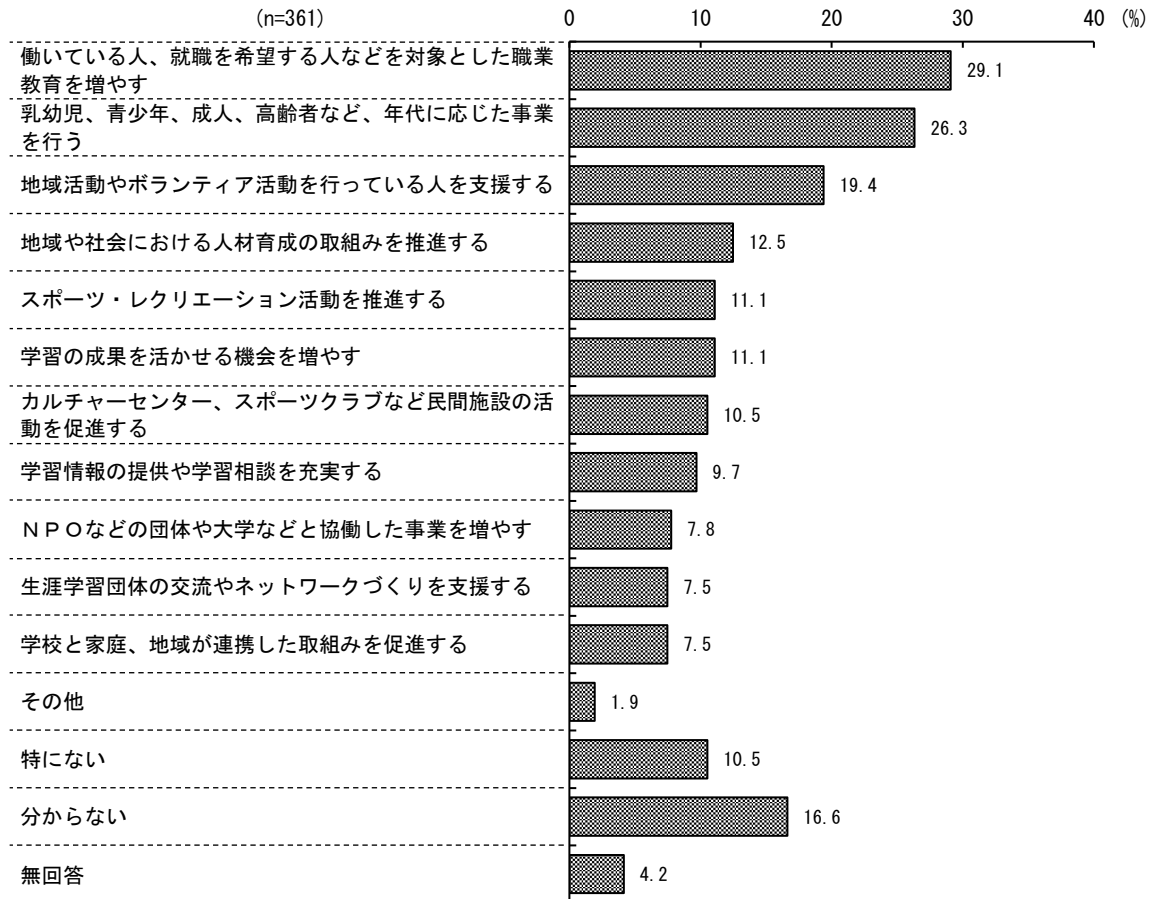
〈 性別、性・年代別／生涯学習に関する重点施策／上位8項目 〉



性別でみると、男性では「スポーツ・レクリエーション活動を推進する」(23.7%)が、女性(16.8%)より多くなっている。一方、女性では「働いている人、就職を希望する人などを対象とした職業教育を増やす」(35.1%)「乳幼児、青少年、成人、高齢者など、年代に応じた事業を行う」(36.0%)が3割を超え、後者は男性(21.2%)より1割以上多くなっている。

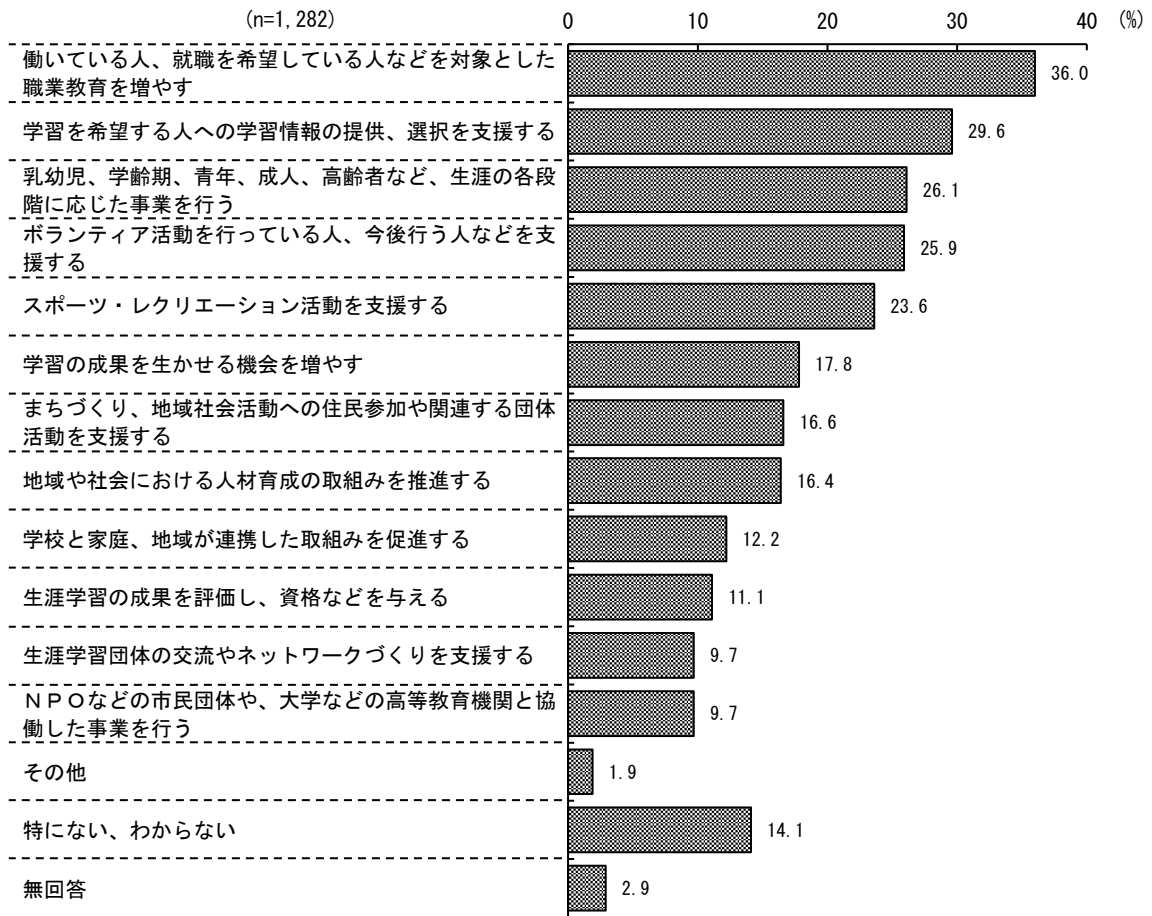
性・年代別でみると、男性の場合、20代では「乳幼児、青少年、成人、高齢者など、年代に応じた事業を行う」(36.4%)、30代では「働いている人、就職を希望する人などを対象とした職業教育を増やす」(43.3%)が他の年代より多くなっている。また、「地域活動やボランティア活動を行っている人を支援する」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、60代(30.8%)では約3割を占めている。女性の場合、30～50代で「働いている人、就職を希望する人などを対象とした職業教育を増やす」が4割を超えている。また、「乳幼児、青少年、成人、高齢者など、年代に応じた事業を行う」も40代以外で3割を超え、それぞれ男性より幅広い年代で多くなっている。

〈 この1年間に生涯学習を特に行っていない人の、生涯学習に関する重点施策 〉



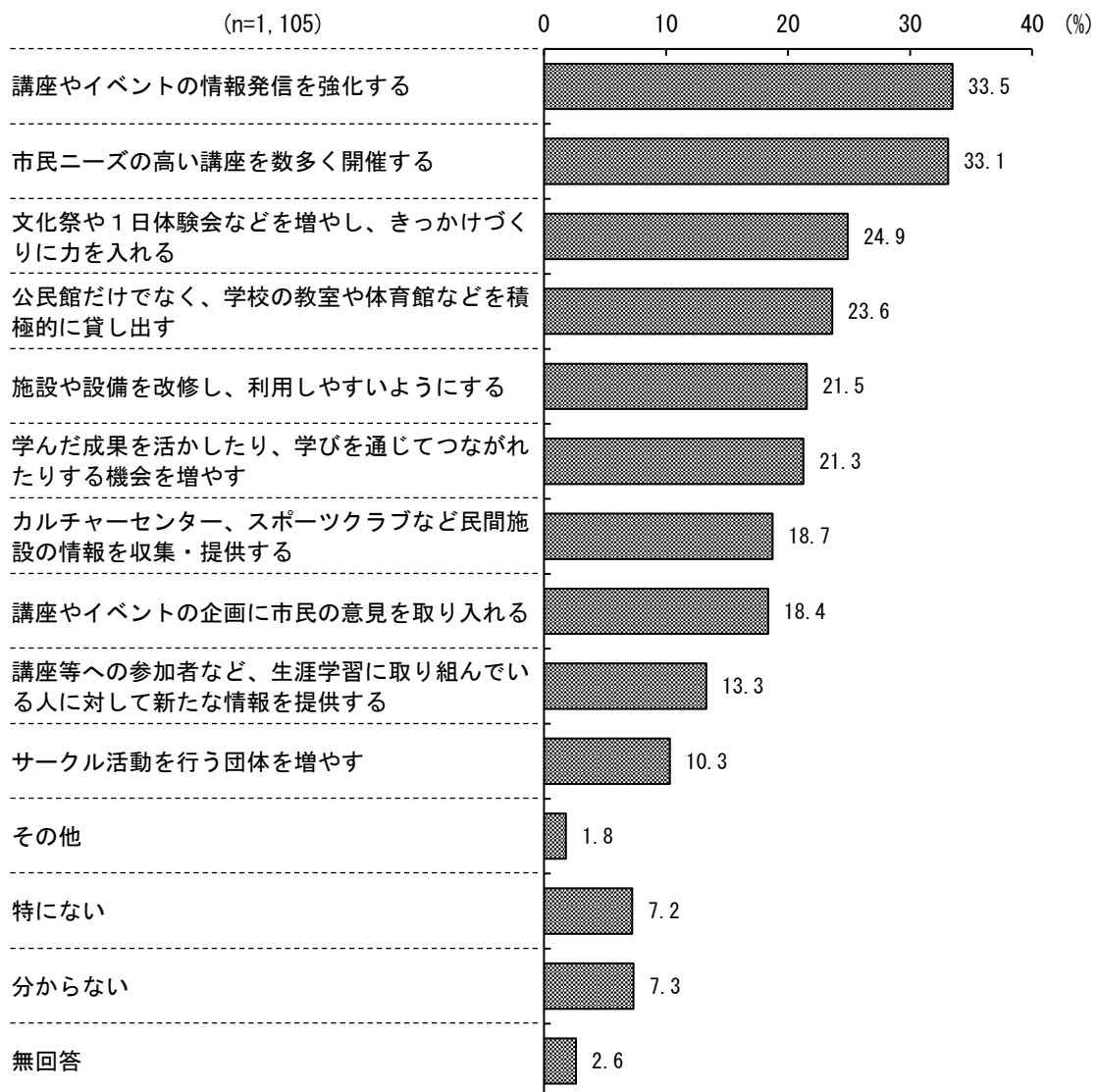
この1年間に行った生涯学習を聞いた問1で、「特に行っていない」と回答した人が生涯学習について重視することは、「働いている人、就職を希望する人などを対象とした職業教育を増やす」が29.1%で最も多く、以下「乳幼児、青少年、成人、高齢者など、年代に応じた事業を行う」(26.3%)、「地域活動やボランティア活動を行っている人を支援する」(19.4%)の順で続いている。

〈 参考／前回調査結果（平成24年） 〉



(2) 生涯学習を広めるための重点施策

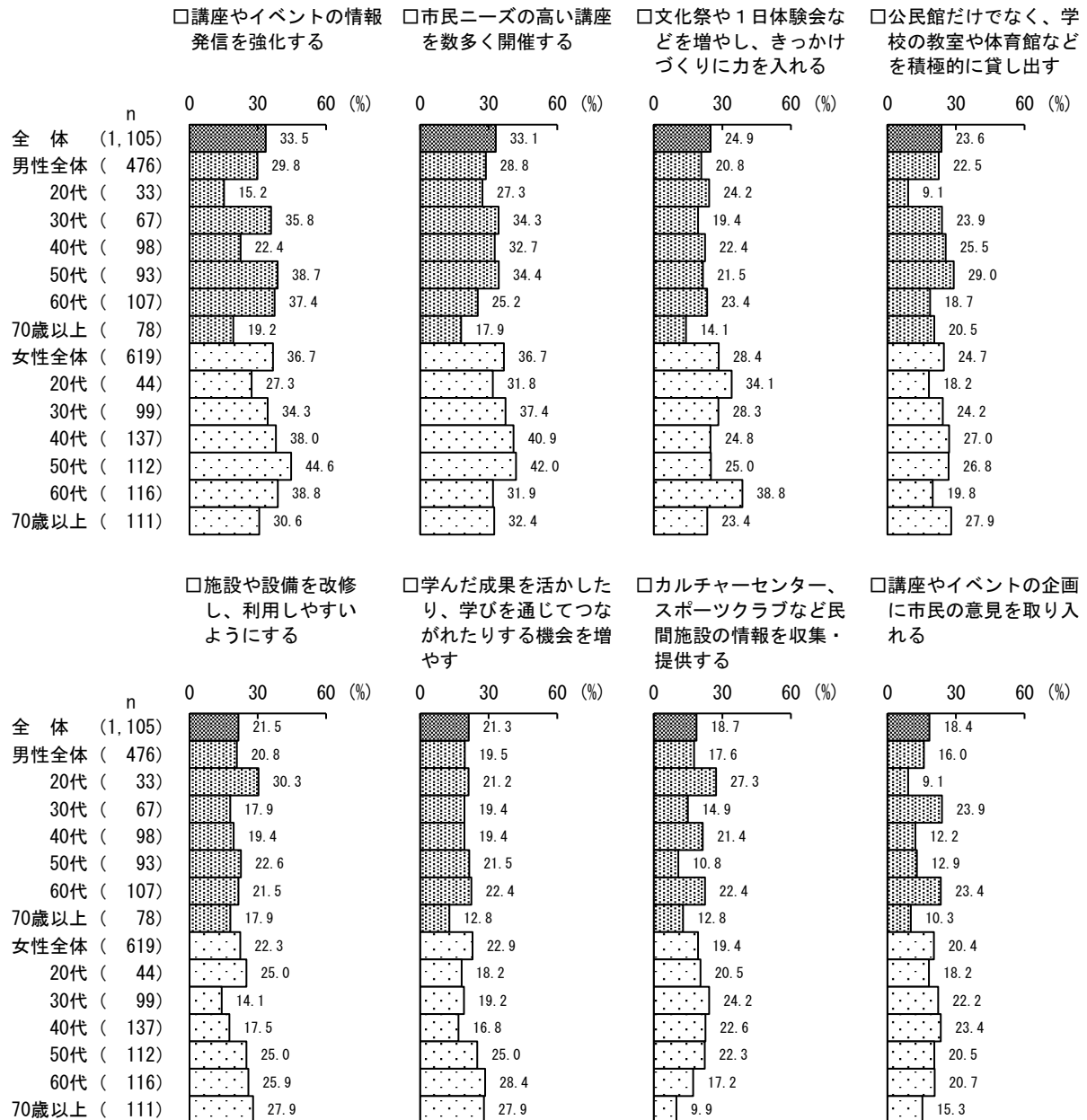
Q11 あなたは、生涯学習を広めるために、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)



生涯学習を広めるために力を入れることは、「講座やイベントの情報発信を強化する」(33.5%)、「市民ニーズの高い講座を数多く開催する」(33.1%)の2項目が、いずれも3割を超えて多くなっており、以下「文化祭や1日体験会などを増やし、きっかけづくりに力を入れる」(24.9%)、「公民館だけでなく、学校の教室や体育館などを積極的に貸し出す」(23.6%)、「施設や設備を改修し、利用しやすいようにする」(21.5%)の順で続いている。



〈 性別、性・年代別／生涯学習を広めるための重点施策／上位8項目 〉



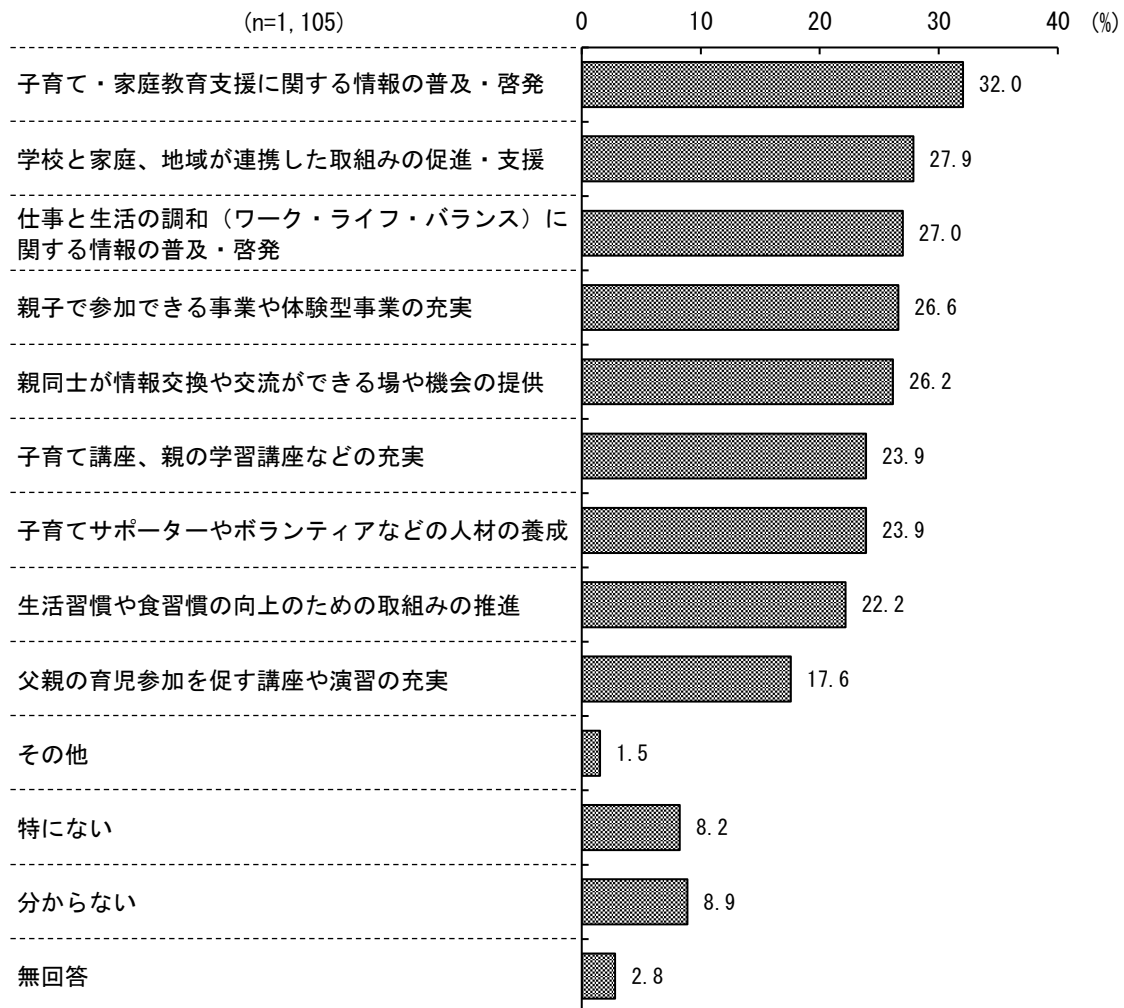
性別で見ると、女性では「講座やイベントの情報発信を強化する」(36.7%)「市民ニーズの高い講座を数多く開催する」(36.7%)が3割を超え、「文化祭や1日体験会などを増やし、きっかけづくりに力を入れる」(28.4%)等も男性より多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、「講座やイベントの情報発信を強化する」は30代(35.8%)、50代(38.7%)、60代(37.4%)で3割を超えるのに対し、他は2割前後と年代による差が大きい。また、20代では「施設や設備を改修し、利用しやすいようにする」(30.3%)、30～50代では「市民ニーズの高い講座を数多く開催する」がそれぞれ3割を超え、他の年代より多くなっている。

女性の場合、「市民ニーズの高い講座を数多く開催する」はすべての年代で3割を超え40～50代では4割強を占めている。また、50代では「講座やイベントの情報発信を強化する」(44.6%)、60代では「文化祭や1日体験会などを増やし、きっかけづくりに力を入れる」(38.8%)も他の年代より多くなっている。

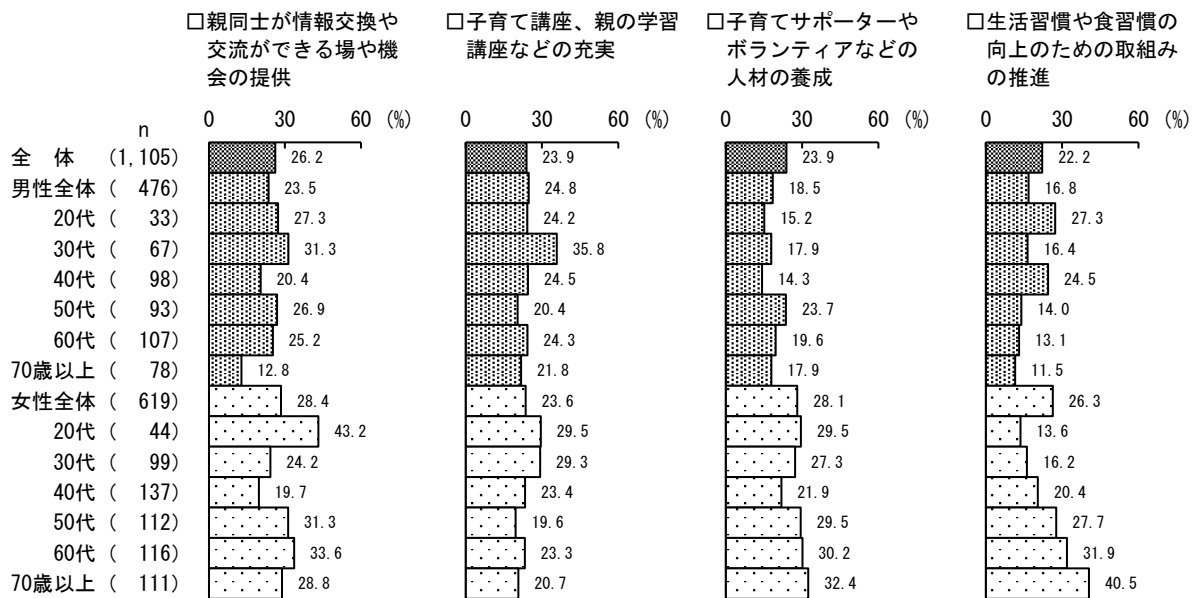
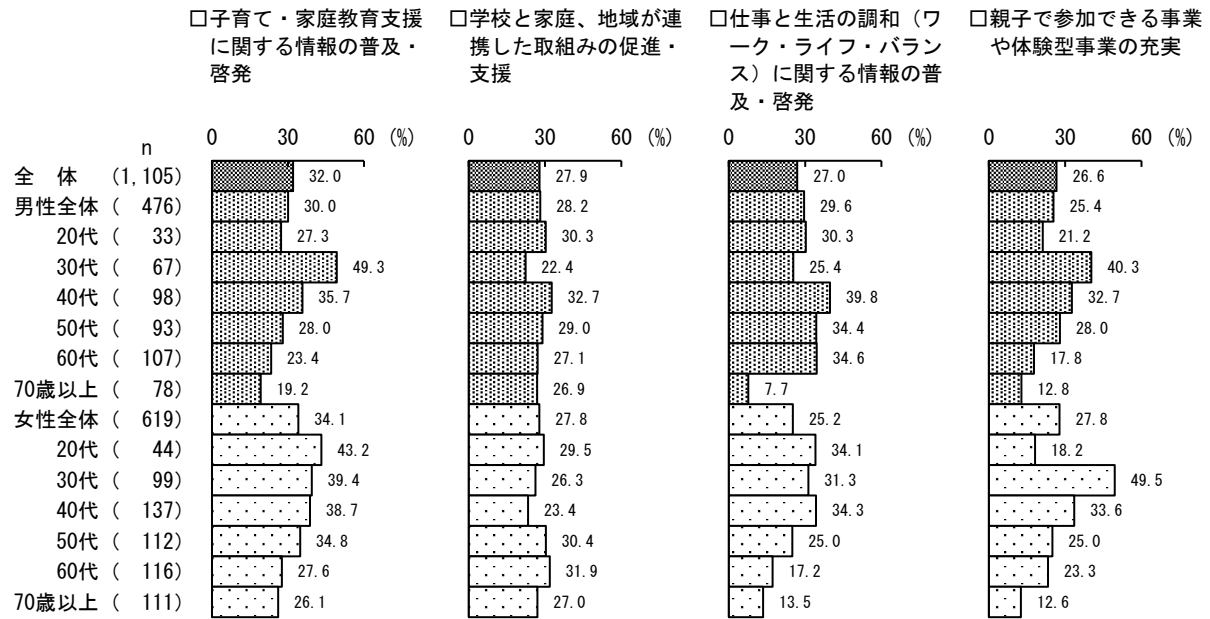
(3) 家庭教育に関する施策

Q12 あなたは、家庭教育に関する施策について、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)



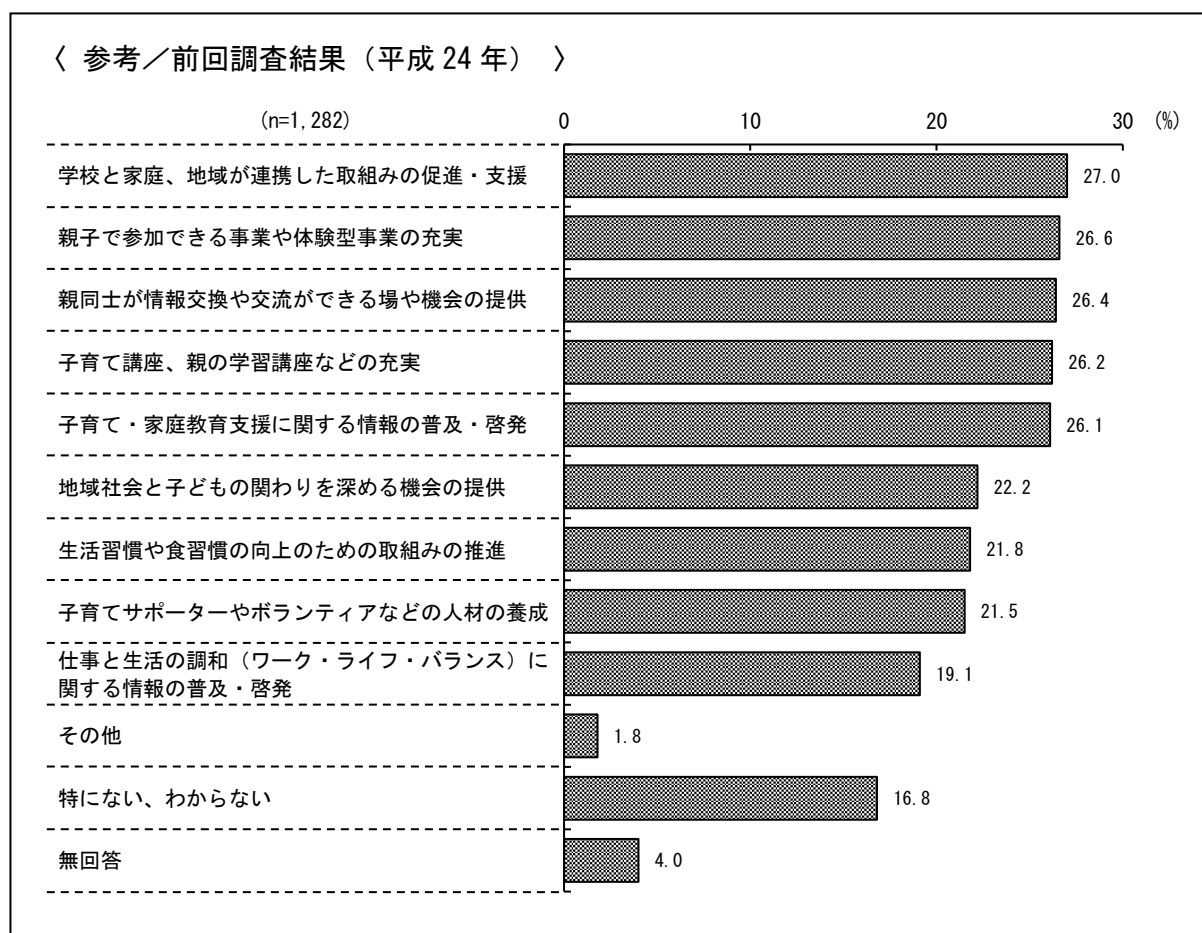
家庭教育に関する施策について力を入れることは、「子育て・家庭教育支援に関する情報の普及・啓発」が 32.0%で最も多く、以下「学校と家庭、地域が連携した取組みの促進・支援」(27.9%)、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する情報の普及・啓発」(27.0%)、「親子で参加できる事業や体験型事業の充実」(26.6%)、「親同士が情報交換や交流ができる場や機会の提供」(26.2%) の順で続いている。

〈 性別、性・年代別／家庭教育に関する施策／上位8項目 〉



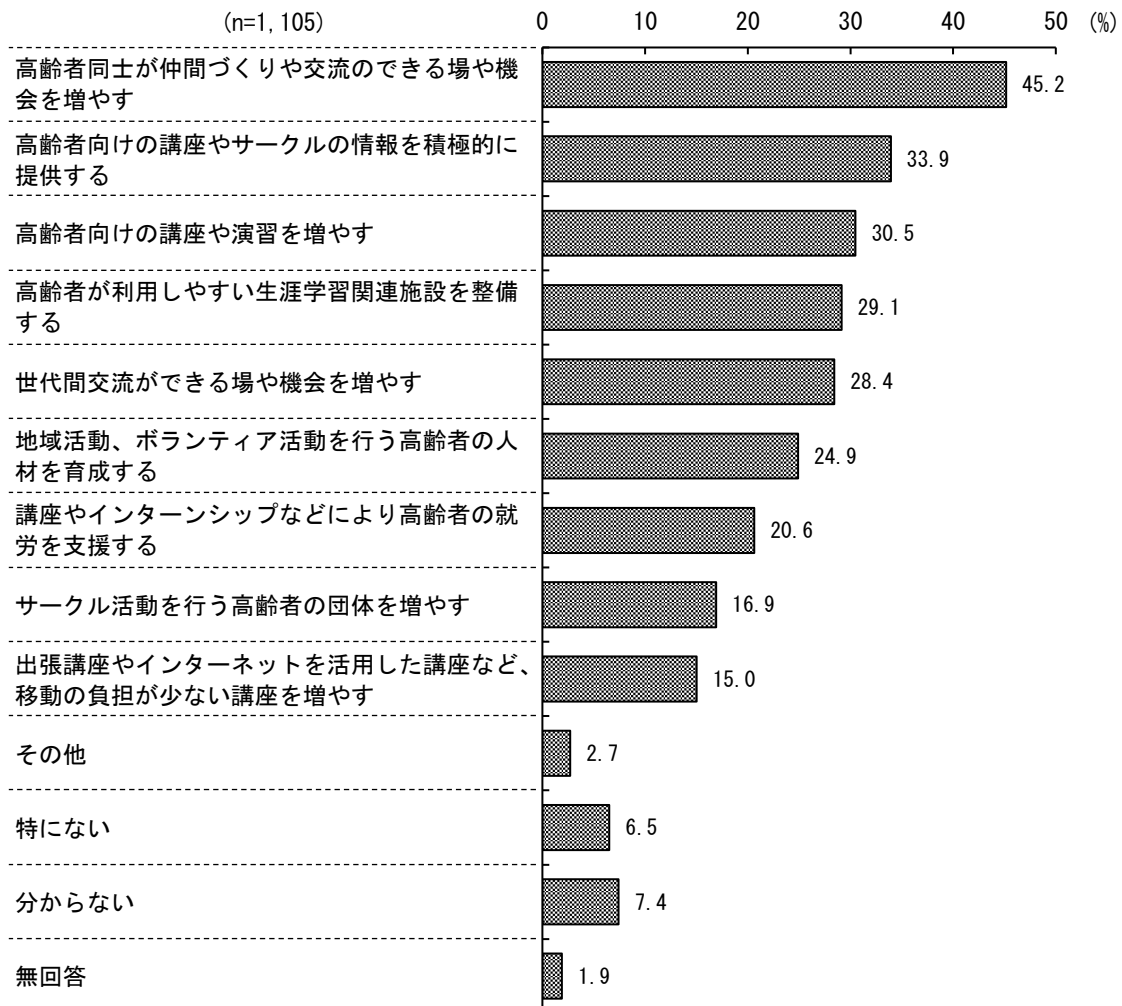
性別でみると、女性では「子育てサポーターやボランティアなどの人材の養成」(28.1%)「生活習慣や食習慣の向上のための取組みの推進」(26.3%)が、それぞれ男性より1割ほど多くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、30代では「子育て・家庭教育支援に関する情報の普及・啓発」(49.3%)「親子で参加できる事業や体験型事業の充実」(40.3%)が4割を超え、「子育て講座、親の学習講座などの充実」(35.8%)も他の年代より多くなっている。また、40代では「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する情報の普及・啓発」(39.8%)が約4割を占めている。女性の場合、20～40代では「子育て・家庭教育支援に関する情報の普及・啓発」が4割前後、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する情報の普及・啓発」が3割強を占めている。また、20代では「親同士が情報交換や交流ができる場や機会の提供」(43.2%)、30代では「親子で参加できる事業や体験型事業の充実」(49.5%)、70歳以上では「生活習慣や食習慣の向上のための取組みの推進」(40.5%)がそれぞれ4割を超え、他の年代より多くなっている。



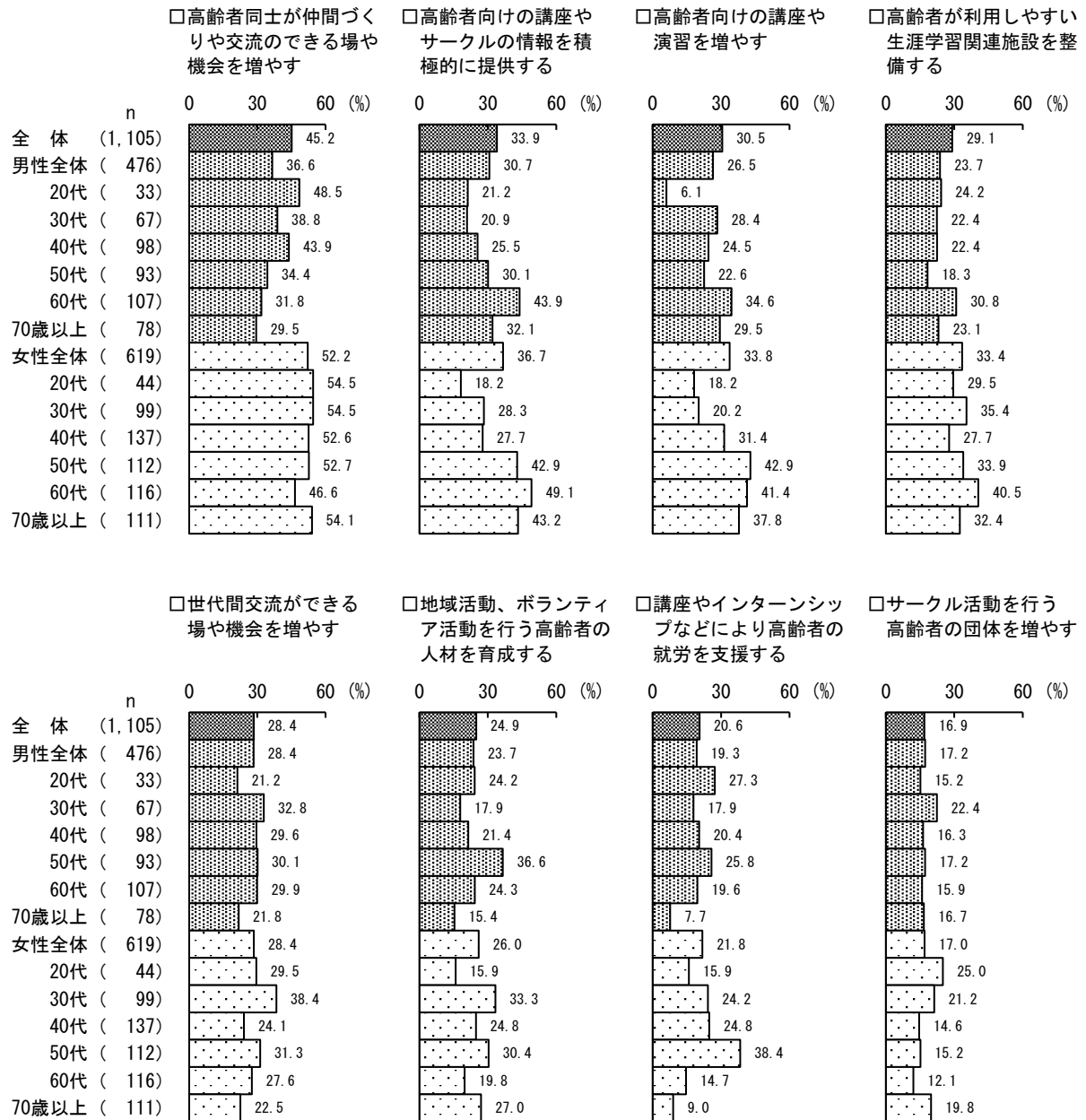
## (4) 高齢者に対する施策

Q13 あなたは、高齢者に対する施策として、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)



高齢者に対する施策について力を入れることは、「高齢者同士が仲間づくりや交流のできる場や機会を増やす」が45.2%で最も多く、以下「高齢者向けの講座やサークルの情報を積極的に提供する」(33.9%)、「高齢者向けの講座や演習を増やす」(30.5%)、「高齢者が利用しやすい生涯学習関連施設を整備する」(29.1%)、「世代間交流ができる場や機会を増やす」(28.4%)の順で続いている。

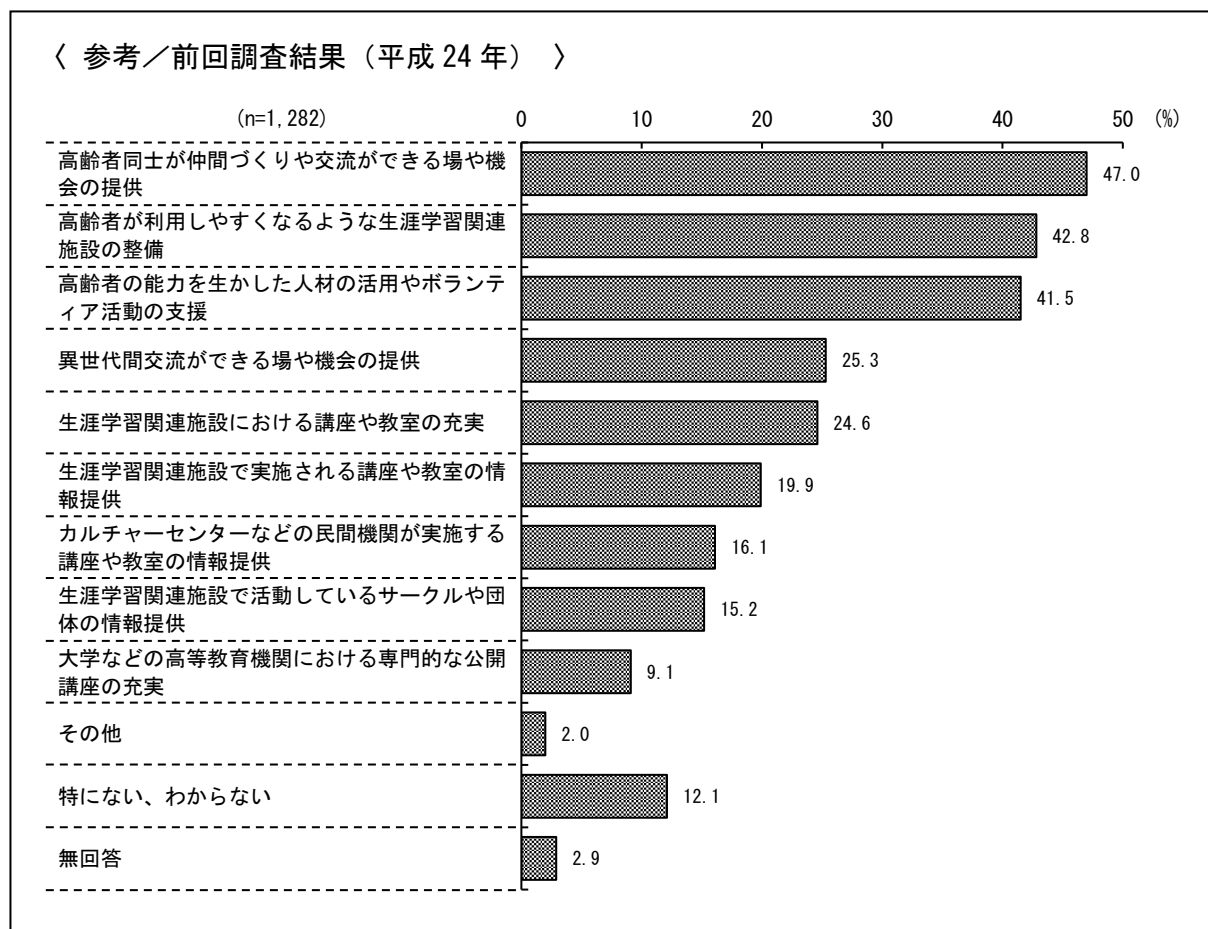
〈 性別、性・年代別／高齢者に対する施策／上位8項目 〉



性別でみると、女性では「高齢者同士が仲間づくりや交流のできる場や機会を増やす」(52.2%)が半数を超え、「高齢者向けの講座やサークルの情報を積極的に提供する」(36.7%)、「高齢者向けの講座や演習を増やす」(33.8%)、「高齢者が利用しやすい生涯学習関連施設を整備する」(33.4%)等も男性より多くなっている。

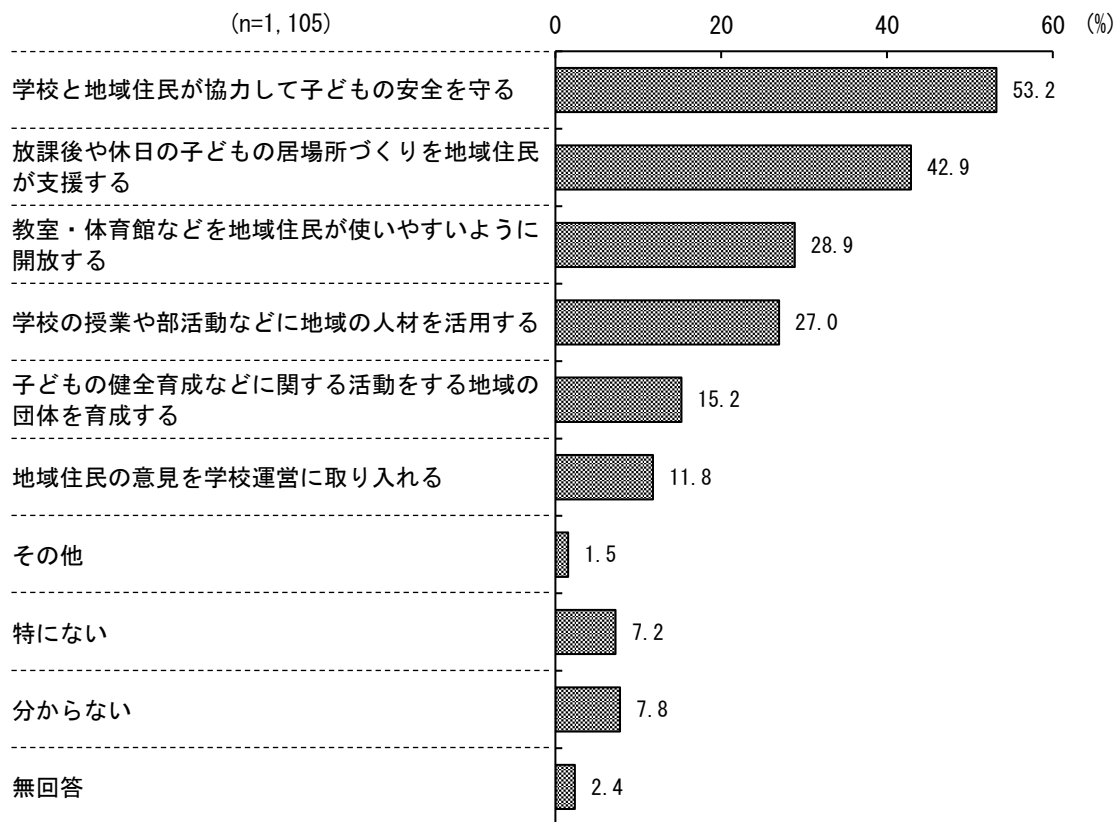
性・年代別でみると、男性の場合、「高齢者同士が仲間づくりや交流のできる場や機会を増やす」は20代(48.5%)と40代(43.9%)、「高齢者向けの講座やサークルの情報を積極的に提供する」は60代(43.9%)で4割を超えている。また、50代は「地域活動、ボランティア活動を行う高齢者の人材を育成する」(36.6%)、60代は「高齢者向けの講座や演習を増やす」(34.6%)「高齢者が利用しやすい生涯学習関連施設を整備する」(30.8%)が他の年代より多くなっている。

女性の場合、「高齢者向けの講座やサークルの情報を積極的に提供する」「高齢者向けの講座や演習を増やす」が50代以上で4割前後を占めている。また、30代では「世代間交流ができる場や機会を増やす」(38.4%)、50代では「講座やインターンシップなどにより高齢者の就労を支援する」(38.4%)、60代では「高齢者が利用しやすい生涯学習関連施設を整備する」(40.5%)が他の年代より多くなっている。



(5) 学校と家庭及び地域住民の連携推進策

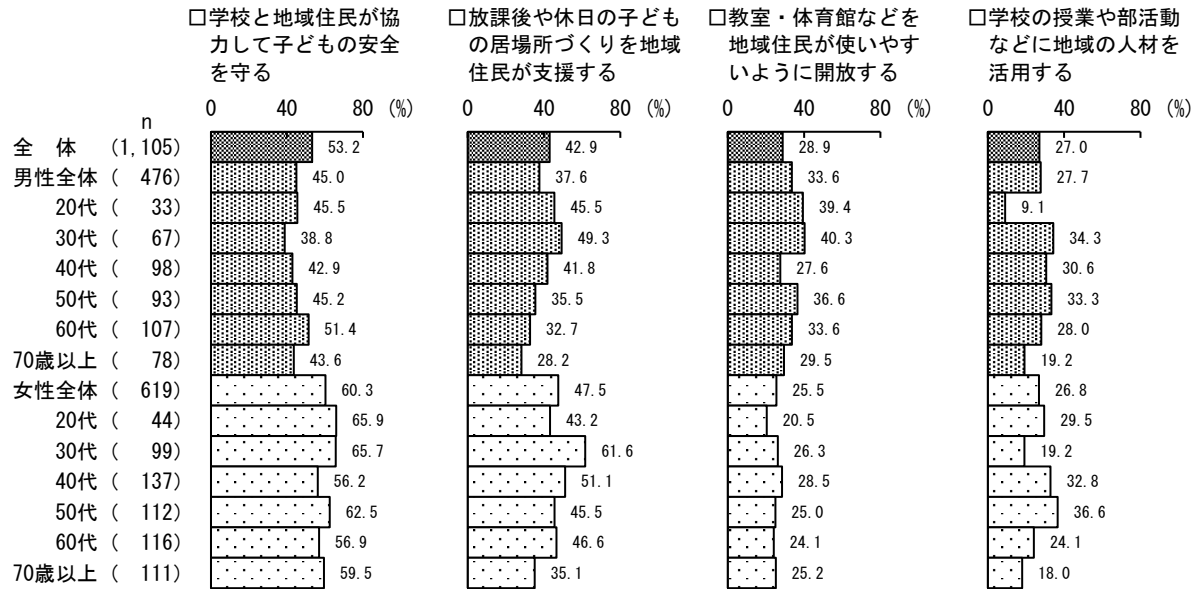
Q14 あなたは、学校と家庭及び地域住民の連携を推進することについて、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)



学校と家庭及び地域住民の連携推進に力を入れることは、「学校と地域住民が協力して子どもの安全を守る」が53.2%で最も多く、以下「放課後や休日の子どもの居場所づくりを地域住民が支援する」(42.9%)、「教室・体育館などを地域住民が使いやすいように開放する」(28.9%)、「学校の授業や部活動などに地域の人材を活用する」(27.0%)の順で続いている。



〈 性別、性・年代別／学校と家庭及び地域住民の連携推進策／上位4項目 〉



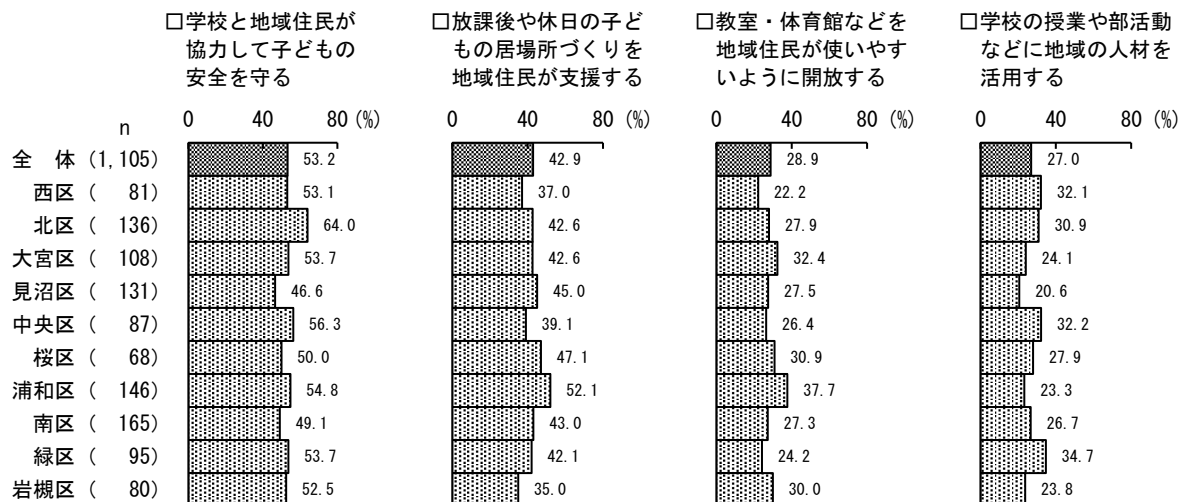
性別で見ると、男性では「教室・体育館などを地域住民が使いやすいように開放する」(33.6%)が、女性(25.5%)より多くなっている。

一方、女性では「学校と地域住民が協力して子どもの安全を守る」(60.3%)、「放課後や休日の子どもの居場所づくりを地域住民が支援する」(47.5%)が、それぞれ男性より1割前後多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、60代では「学校と地域住民が協力して子どもの安全を守る」(51.4%)が過半数を占めるのに対し、20～30代では「放課後や休日の子どもの居場所づくりを地域住民が支援する」「教室・体育館などを地域住民が使いやすいように開放する」が多くなっている。

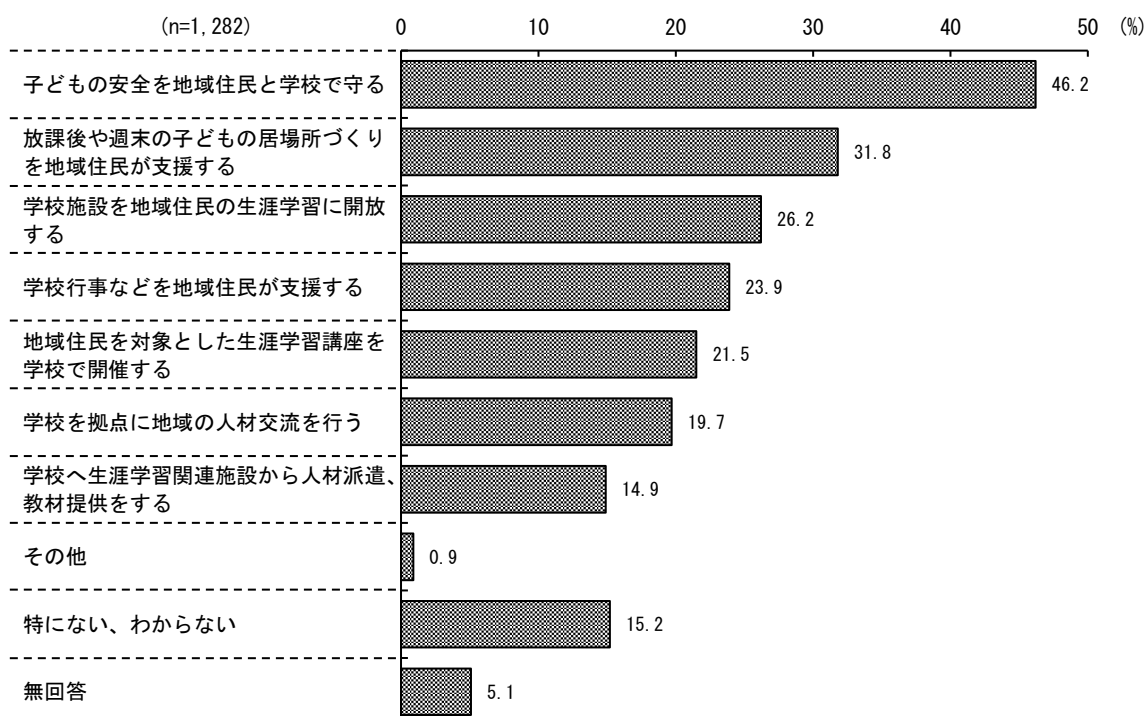
女性の場合、30代では「放課後や休日の子どもの居場所づくりを地域住民が支援する」(61.6%)が他の年代より多くなっている。また、40～50代では「学校の授業や部活動などに地域の人材を活用する」が3割を超えている。

〈 区別／学校と家庭及び地域住民の連携推進策／上位4項目 〉



区別で見ると、北区では「学校と地域住民が協力して子どもの安全を守る」が64.0%、浦和区では「放課後や休日の子どもの居場所づくりを地域住民が支援する」が52.1%と、それぞれ他の区より多くなっている。

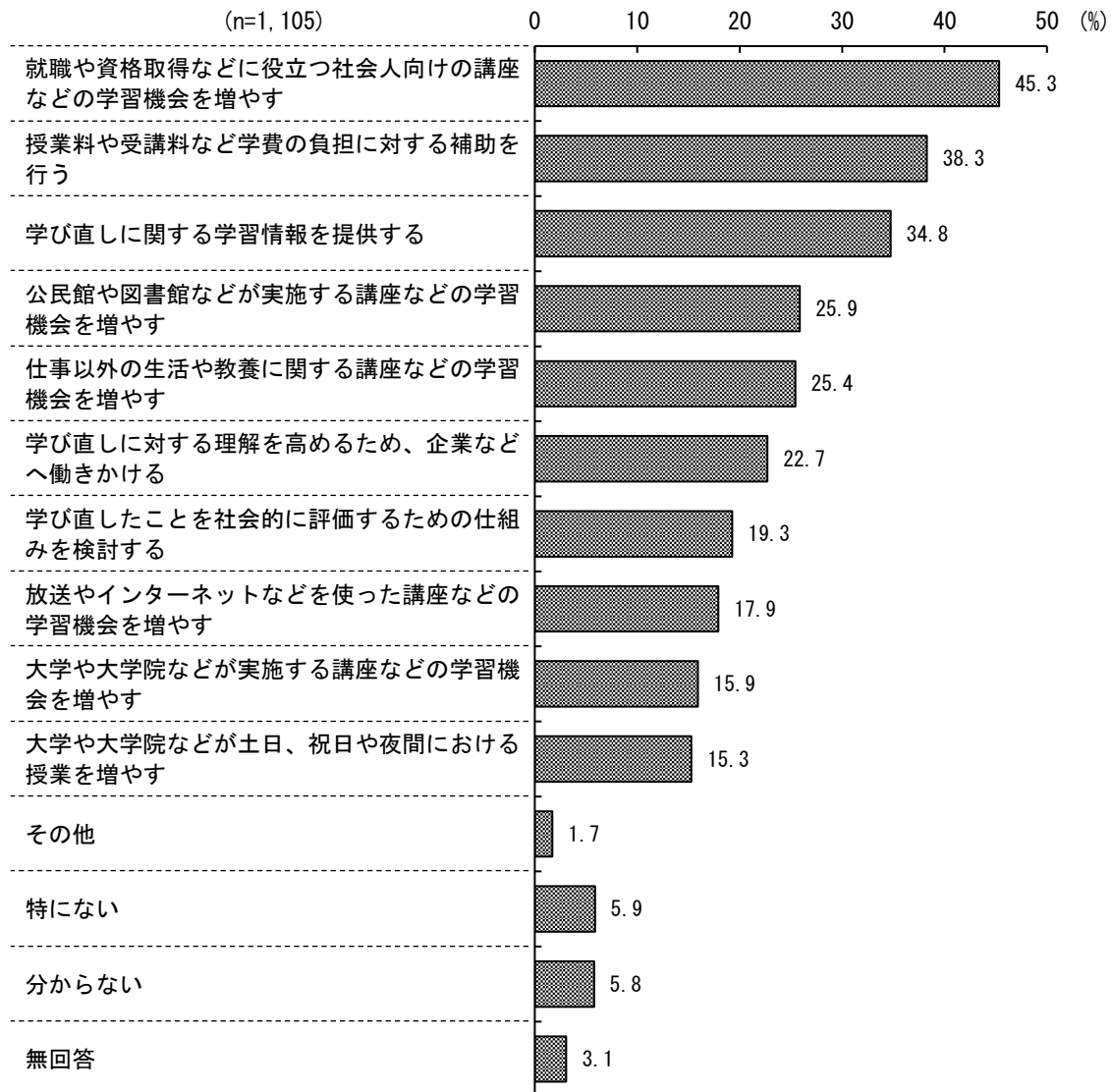
〈 参考／前回調査結果（平成24年） 〉



## (6) スキルアップや再チャレンジの支援策

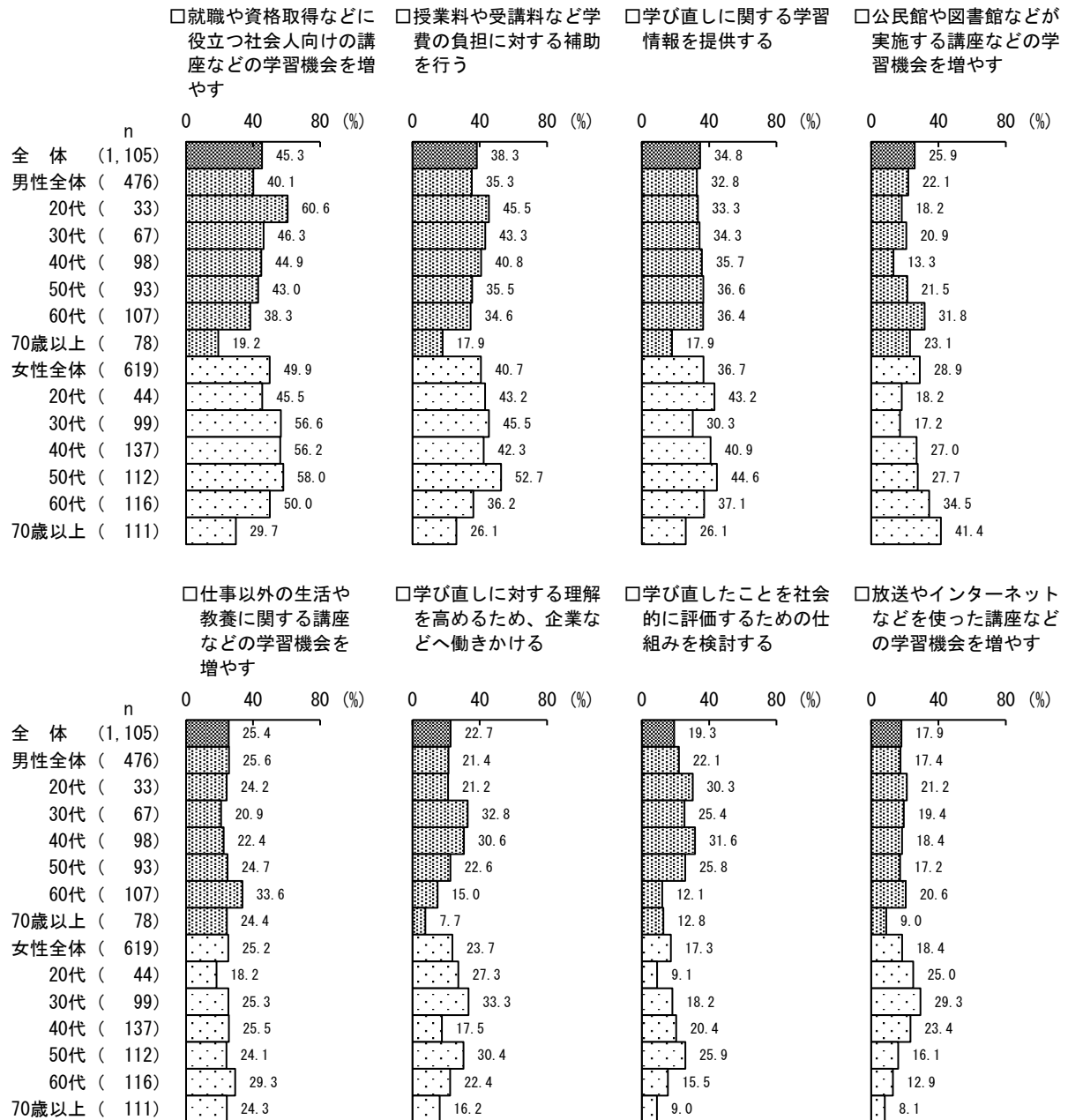
Q15 あなたは、社会人や就労希望者が、スキルアップや再チャレンジのための学び直しをしやすいするには、どのようなことに力を入れる必要がありますか。

(〇はあてはまるものすべて)



社会人や就労希望者のスキルアップや再チャレンジのために力を入れることは、「就職や資格取得などに役立つ社会人向けの講座などの学習機会を増やす」が45.3%で最も多く、以下「授業料や受講料など学費の負担に対する補助を行う」(38.3%)、「学び直しに関する学習情報を提供する」(34.8%)、「公民館や図書館などが実施する講座などの学習機会を増やす」(25.9%)、「仕事以外の生活や教養に関する講座などの学習機会を増やす」(25.4%)の順で続いている。

〈 性別、性・年代別／スキルアップや再チャレンジの支援策／上位8項目 〉



性別で見ると、女性では「就職や資格取得などに役立つ社会人向けの講座などの学習機会を増やす」(49.9%)が約半数を占め、「授業料や受講料など学費の負担に対する補助を行う」(40.7%)、「公民館や図書館などが実施する講座などの学習機会を増やす」(28.9%)等も男性より多くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、20代では「就職や資格取得などに役立つ社会人向けの講座などの学習機会を増やす」(60.6%)が6割を超え、30～50代でも4割を超えている。また、20～40代では「授業料や受講料など学費の負担に対する補助を行う」、30～40代では「学び直しに対する理解を高めるため、企業などへ働きかける」、60代では「公民館や図書館などが実施する講座などの学習機会を増やす」「仕事以外の生活や教養に関する講座などの学習機会を増やす」が他の年代より多くなっている。

女性の場合、30～60代で「就職や資格取得などに役立つ社会人向けの講座などの学習機会を増やす」、50代で「授業料や受講料など学費の負担に対する補助を行う」がそれぞれ半数を超えている。また、20代、40代、50代で「学び直しに関する学習情報を提供する」が4割以上、30代、50代で「学び直しに対する理解を高めるため、企業などへ働きかける」が3割以上と他の年代より多くなっている。一方、「公民館や図書館などが実施する講座などの学習機会を増やす」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上(41.4%)では4割を超えている。



## 第 3 章 自由回答





Q16 あなたが、日ごろ学習活動について感じていることを、自由にお書きください。

回答者に、日ごろ学習活動について感じていることを自由記述形式で聞いたところ、268 人から 378 件の回答が寄せられた。その内容をまとめた結果は以下のとおりである。

#### 【自由意見の項目】

大項目では、「生涯学習の実施状況」（204 件）が最も多く、次いで「生涯学習に関する施策」（130 件）となっている。

中項目では、「生涯学習を行う上での支障」（106 件）が最も多く、次いで「講座・イベント等の実施形態について」（47 件）、「講座・イベント等の内容について」（43 件）、「個人の生涯学習活動について」（35 件）などの順となっている。

大項目	中項目	件数
1. 生涯学習の実施状況 (204 件)	(1) 個人の生涯学習活動について	35
	(2) 生涯学習を行う上での支障	106
	(3) 生涯学習の情報提供について	26
	(4) 生涯学習全般について	24
	(5) その他（社会全般、市政、感想等）	13
2. 生涯学習に関連する施設 (37 件)	(1) 生涯学習関連施設について	37
3. 生涯学習に関する施策 (130 件)	(1) 講座・イベント等の実施形態について	47
	(2) 講座・イベント等の内容について	43
	(3) 交流の場について	10
	(4) 生涯学習の施策について	30
4. 生涯学習調査関連 (7 件)	(1) 調査について（調査方法、結果PR他）	7
合 計		378

【自由意見の具体的記述】

<b>1. 生涯学習の実施状況</b> .....	<b>204 件</b>
(1) 個人の生涯学習活動について.....	<b>35 件</b>
・関心を深めていきたい、積極的に取り組みたい.....	14 件
・活動している.....	13 件
・余裕ができたなら考えたい.....	5 件
・活動していない.....	2 件
・個人に合った学習環境の整備（短時間学習の反復、すぐに質問できる体制）.....	1 件
(2) 生涯学習を行う上での支障.....	<b>106 件</b>
・時間不足（育児、仕事が忙しい等）.....	35 件
・経済的負担が大きい（教材費、施設利用料等が高額等）.....	20 件
・都合（日時）が合わない.....	9 件
・きっかけがない.....	8 件
・場所が遠い.....	7 件
・体力面での限界.....	6 件
・情報不足、内容が分かりにくい.....	4 件
・精神的負担が大きい.....	2 件
・個人学習では成果が上がりにくい.....	2 件
・仕事に就けなければ学習成果を生かせない.....	2 件
・「生涯学習」という言葉がとっつきにくい、言葉自体に壁を感じる.....	2 件
・既存の集団が閉鎖的で入りにくい.....	2 件
・人数制限があり、参加しにくい.....	2 件
・高齢者が新しい活動を始めることへの不安.....	1 件
・障がい者や健康不安を抱えた人に対するいじめ、嫌がらせ.....	1 件
・一人で参加するのは不安.....	1 件
・高齢者と同居中は行動が制限される.....	1 件
・中小企業では理解を得にくい.....	1 件
(3) 生涯学習の情報提供について.....	<b>26 件</b>
・情報提供の充実（情報を得る手段が少ない、啓発活動の強化等）.....	17 件
・インターネット、SNSなど時代に合わせた情報提供手段の確保.....	2 件
・インターネットができない人への対応.....	1 件
・市報さいたまを活用している.....	1 件
・県のHPが便利.....	1 件
・さいたま市子育て情報局のHPの改善.....	1 件
・広範囲に企画や募集要項を通知できる仕組みが必要.....	1 件
・情報提供は十分.....	1 件
・さいたま市生涯学習推進計画について何も知らない.....	1 件

(4) 生涯学習全般について	24 件
・自ら進んで行うことが基本、税金を使うべきではない	9 件
・生涯学習は必要	2 件
・イメージがわからない、よく分からない	2 件
・学習効果をイメージしながらの取組が成長につながる	1 件
・高齢者も積極的に参加すべき	1 件
・直接体感したほうが良い	1 件
・成果が経済的豊かさに結びつくことで意欲が生まれる	1 件
・社会情勢に関心を持ってほしい	1 件
・興味あることを楽しむことが必要	1 件
・高齢者の生涯学習はやりやすい	1 件
・勉強以外も学習になる	1 件
・学校教育における指導が必要	1 件
・障害について学ぶ機会、障がい者の参加機会の確保	1 件
・健康第一であることが、学習活動の基本	1 件
(5) その他（社会全般、市政、感想等）	13 件
・子どもが安心できる環境づくり	2 件
・日本語はめんどろ	1 件
・政治家、教育者の資質向上	1 件
・ボランティアから郷土愛を感じた	1 件
・地下鉄を整備してほしい	1 件
・受動喫煙対策	1 件
・放課後の学校教室を利用した「学童預かりの場」を設置（高齢者による見守り等）	1 件
・住民参加機会の増加で、生き生きとしたまちづくり	1 件
・すべてにおいてマナーが低下している	1 件
・対話を有効にする手立てを探るべき	1 件
・インターネットの活用を充実してほしい	1 件
・与野急患センターの夜間対応改善	1 件
2. 生涯学習に関連する施設	37 件
(1) 生涯学習関連施設について	37 件
・施設を増やしてほしい（運動場、ヨガ、図書館、公民館、生きがい大学等）	14 件
・図書館の改善（勉強スペース拡大、空調設定、インターネット環境等）	5 件
・予約、申し込み手続き等の改善（オンライン化の推進、抽選方式の見直し等）	4 件
・施設設備の改善（自習スペース増加、老朽化対策等）	4 件
・駐車場の充実	2 件
・学校、大学の活用	2 件
・活動場所の確保が大変	1 件
・一人で集中して勉強できる場所がほしい	1 件
・学校のシステム改善（Web 化）	1 件
・不登校児童が学習できる場所の確保	1 件

- ・社会人の受け入れ体制を整えた施設整備…………… 1件
- ・インターネットでの申し込みは便利…………… 1件

**3. 生涯学習に関する施策…………… 130件**

**(1) 講座・イベント等の実施形態について…………… 47件**

- ・社会人などにも参加しやすい日程調整（土日開催、夜間講座等）…………… 13件
- ・応募方法の見直し（先着順や同一人の複数回当選は不公平等）…………… 5件
- ・近場での開催希望…………… 5件
- ・講師・職員の改善（待遇の改善、資質向上等）…………… 5件
- ・託児所付き、子どもと一緒にの活動希望…………… 5件
- ・講座数、開催日数の増加…………… 5件
- ・高校、大学を利用した公開講座…………… 2件
- ・お金のかかる大型イベントは中止すべき…………… 1件
- ・経済的負担の軽い学習の場づくり…………… 1件
- ・定員過剰（充実した学習を受けられない）…………… 1件
- ・飲食可能にしてほしい…………… 1件
- ・オンライン講座の充実…………… 1件
- ・参加者が開催時間と場所を決められる仕組みづくり…………… 1件
- ・私立大学等の社会人への開校…………… 1件

**(2) 講座・イベント等の内容について…………… 43件**

- ・希望する講座がない、魅力的な講座がない…………… 5件
- ・趣味の講座（囲碁、将棋、音楽、カルチャースクール、ボーリング等）…………… 5件
- ・気軽に参加できるもの…………… 5件
- ・ニーズに合った講座の設定…………… 4件
- ・高齢者向けの講座を充実…………… 3件
- ・講座内容の充実（初歩から専門まで、細分化・高度化、バリエーションの充実）…………… 3件
- ・インターネット、スマホ関連講座…………… 2件
- ・語学講座（英会話等）…………… 2件
- ・学び直せる場、再学習の環境づくり…………… 2件
- ・参加のきっかけとなる一日体験会…………… 1件
- ・50代向けの講座…………… 1件
- ・高齢富裕層をターゲットにした講座…………… 1件
- ・世界の常識が分かる講座…………… 1件
- ・社会人向け一般教養の講座…………… 1件
- ・専門的知識を持った人の力を借りた学校教育、部活動の指導…………… 1件
- ・女性向けの講座（マナー、ヨガ）…………… 1件
- ・学習成果を発表する場がほしい…………… 1件
- ・ファミリーサポート向け説明会の開催…………… 1件
- ・親向けの育児指導…………… 1件
- ・中高生向けのサークル活動…………… 1件

・講師・講座内容に関する説明が不足	1件
<b>(3) 交流の場について</b>	<b>10件</b>
・世代間コミュニケーションが取れる場がほしい	4件
・情報交換の場を設置	3件
・地域の人とつながりが持てる場がほしい	2件
・同じ職業、資格取得を目指す人同士の交流の場を設置	1件
<b>(4) 生涯学習の施策について</b>	<b>30件</b>
・経済的支援の拡充（給付金の増額、民間学習講座への補助等）	5件
・生涯学習の成果を活かせる環境づくり（就職、資格取得に対する評価制度等）	4件
・生涯学習以外に優先すべき行政課題がある	2件
・民間企業への働きかけや協力を引き出すための施策	2件
・社会復帰に向けた支援活動	2件
・中高年が働きやすい環境づくり	1件
・健康長寿のための仕組みづくり	1件
・子育て世代を重視すべき	1件
・若者の育成	1件
・箱物行政に重点を置きすぎる	1件
・水彩画を生かした障がい者支援	1件
・人手不足の解消によるワークライフバランスの向上	1件
・市民の自主的な活動の把握・支援	1件
・中高年に対し費用を使うべきではない	1件
・生涯学習を広めるというのは押し付けに感じる	1件
・取組が貧弱すぎる	1件
・官民の連携	1件
・高齢者をボランティア活動に活用	1件
・「生涯学習」という枠が広すぎる、施策が漠然としすぎる	1件
・教員の異動を減らし、学校と地域との連携を強化	1件
<b>4. 生涯学習調査関連</b>	<b>7件</b>
<b>(1) 調査について（調査方法、結果PR他）</b>	<b>7件</b>
・調査は不要	2件
・アンケート調査はオンラインにすべき	1件
・アンケート結果の公表方法の周知	1件
・すべての回答に当てはまるものがなかった	1件
・アンケート方式より、生の声を聞くべき	1件
・高齢者の定義の明確化	1件



## 第4章 まとめ





本調査において、さいたま市民の6割以上は何らかの生涯学習に取り組んでいると回答している。これは前回調査（平成24年）とほぼ同水準であり、内閣府調査（平成27年）を大きく上回っている。回答者の8割強が生涯学習に関する情報入手に努めていることから、生涯学習に対する積極性が示唆される。

実施している生涯学習の内容としては、スポーツやレクリエーションに関することが最多となっており、趣味やけいこ事に関することも2割を超える。また、高齢者を中心に趣味を豊かにしたり、健康の維持・増進を図ろうとする割合も高い。本調査より「つながり」に対する設問を追加したところであるが、「つながりができた」との回答は、男女とも年代が上がるにつれて多くなる傾向にある。生涯学習総合センター・公民館や地域の施設、文化施設などでの活動では、7割前後の参加者が人や地域とのつながりを形成することに成功している。

職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に取り組む割合の高さは本調査の特徴となっており、20代では男女とも過半数を占めている。生涯学習の目的として、仕事や就職に活かしたり、資格を取ったりすることを挙げる割合が20代男性で8割に達するなど、若年層を中心に趣味や健康維持を大きく上回っている。学習形態としても、公的な機関における講座や教室が約4割を占める内閣府調査に比べ、書籍やパソコン、インターネットなどを活用した個人学習の割合が高くなっている。その結果、全体の約4割は生涯学習関連施設を利用しておらず、利用者の多い図書館においても、人や地域とのつながりがやや生まれにくい状況となっている。

多くの人が生涯学習に取り組む一方、生涯学習を行っていない層も約3割を占める。生涯学習を阻む要因として、4割強は仕事の多忙を挙げている。実際、自由な時間を活用しようと生涯学習を始めたのは約3割に過ぎず、年代も概ね60代以上に限られる。全体の3分の2は自発的に生涯学習を開始しているが、必ずしも余裕ある状況ではないことがうかがえる。

生涯学習における障害として、2番目に多いのは費用の問題である。講座の受講料や教材費などを負担に感じる割合は特に女性若年層で多くなっている。このことは、30～40代における家事負担と合わせ、女性が生涯学習に取り組む上で大きな課題となっている。

一方、生涯学習を行っていない層に限った場合、費用負担よりきっかけがつかめない事を問題視する割合が多くなっている。興味があってもいきなりの参加は難しいという意見は少なくなく、講座やイベントに関する情報発信に加え、1日体験会などきっかけづくりに力を入れてほしいという意見も多くなっている。

内容は様々であるが、生涯学習に取り組んだ結果、4割以上の人が人生がより豊かになったと感じている。健康維持・増進や仕事・就職への応用など、実益を享受している人も3割を超え、生涯学習が生活の向上に寄与していることが示唆される。一方、生涯学習の成果をまちづくり支援などへ活かすことについては、いずれの活動も積極的な意見は2割未満にとどまっている。地域との連携の一環として、子どもの見守り活動を行ったり、子どもの居場所づくりを支援したりする活動については、半数前後が必要性を認めている。しかし、自らが活動に加わることについては、時間が限られ余裕がないこと、個人学習の目的が自己の向上にとどまり、地域への関心につながりにくいこと、生涯学習という言葉が漠然としており、具体的な活動にどう結びつくのかイメージがわきにくいことなどを理由に、（参加したい活動が）特になく、分からないという否定的な意見に結びついていると考えられる。

さいたま市における生涯学習を一層充実させていくため、市にも施設整備と施策の両面で複数の要望がなされている。施設整備については、利用者の多い図書館などの設備改善を求める意見もある中、最も多いのはアクセスしやすい施設整備となっている。高齢者を中心に規模より身近

な施設を求める意見も多く、いかに足を運びやすいかを重視する割合が高くなっている。

施策としては、職業教育の充実が最多となっている。また、子育て・家庭教育や高齢者同士の交流の場の創設など、年代に応じた施策を求める意見も多い。回答者の半数が関心を寄せる健康関連のテーマや、20～40代女性でニーズの高い子育て・家庭教育に関する講座など、人気の講座については開催日数、定員を増やしてほしいという要望も寄せられている。市民のニーズを把握した講座の開催と情報発信は、多くの層に重視されている。

一方、市民が情報を受け取る手段として、最も活用されているのはインターネットやSNSとなっている。インターネット利用者は平成24年調査と比べ1割近く増加しているが、男性60代、女性50代を境に急減し、年代による差が依然大きくなっている。また、高齢者を中心に市報さいたまなどの紙媒体や、新聞やテレビなどの既存メディアの利用者も多くなっている。求められる情報を確実に届けるためには、それぞれの層に適した複数の伝達手段を適宜組み合わせることが必要だと考えられる。

以上がさいたま市における生涯学習の現状である。一口に生涯学習と言っても、世代や性別、職種などによって取り組みも目的も様々である。生涯学習を行う人が多い事は確かであるが、必ずしも地域とのつながりや地域活動への参加意欲につながらなかったり、現状の施設整備や講座の定員、開催日時などが利用者のニーズを満たしていないなどの課題もある。また、多くの人々が時間的、金銭的、あるいは精神的ゆとりの少ない状況に取り組みを阻害されており、参加のきっかけを模索する層も多い。それに加え、女性の家事・育児の負担や育休・再就職の問題など、生涯学習の範疇を超え、社会制度や人生設計そのものにまで及ぶ課題もある。市民の生涯学習に対する積極性を活かすためにも、さらなる取り組みが求められる。

## 付録 調査票



# さいたま市生涯学習市民意識調査

## ●調査へのご協力のお願い●

市民の皆様には、日ごろから市政に対してご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さいたま市では、生涯学習を総合的・計画的に推進するため、「第2次さいたま市生涯学習推進計画」を策定し、だれもが「学べる・活かせる・つながる」新たな生涯学習環境の構築を目指して様々な施策に取り組んでおります。このたび、市民の皆様の生涯学習状況を把握し、次期計画（平成33年3月策定予定）に反映させるため、アンケート調査を実施することといたしました。

本調査は、市内在住の20歳以上の男女2,500人の方を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

調査は無記名で行い、その結果を統計的に処理いたしますので、他の目的に使うことや、個人情報情報を外部に漏らすことは一切ありません。

ご多用のところとは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査内容などについてご不明の点がありましたら、下記までお問い合わせください。

平成30年7月

さいたま市長 清水 勇人

## ●お問い合わせ先●

さいたま市教育委員会 生涯学習部 生涯学習振興課 企画振興係  
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6-4-4  
電話：048-829-1704 FAX：048-829-1990  
E-mail：shogai-gakushu-shinko@city.saitama.lg.jp

●調査票をご記入いただく上での留意事項●

- 必ず調査対象者（あて名の方）ご本人がご記入ください。
- 平成30年7月1日を基準日としてご記入ください。
- ご回答は、選択肢の番号を選んで、調査票に直接○印を付けてください。○の数は、「○はあてはまるものすべて」「○は 1 つだけ」などの指定に合わせてください。
- ご回答が「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが（ ）内にその内容をなるべく具体的にご記入ください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、7月17日（火）までにご投函ください。

〈 生涯学習とは 〉

「生涯学習」とは、人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことです。学校教育や、公民館における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習や、スポーツ、文化活動、ボランティア活動、趣味などの様々な学習活動のことをいいます。

例：けいこ、習い事、芸術、文芸、各種講座、サークル活動、個人で行う学習など

**まず、生涯学習の実施状況についてお聞きします。(Q1～Q7)**

Q1

あなたは、この1年間に、どのような生涯学習を行いましたか。  
(○はあてはまるものすべて)

- 1 職業上の知識・技術・技能の習得、資格の取得に関すること  
(例：医療・介護事務、簿記など)
- 2 家庭生活、日常生活、健康などに関すること  
(例：料理、洋裁、消費生活、コミュニケーション、病気予防、栄養など)
- 3 子育て、青少年の健全育成に関すること  
(例：育児、しつけ、非行・いじめ防止など)
- 4 社会問題、市民生活に関すること  
(例：環境保護、高齢社会、人権問題、国際交流、ボランティア活動、地域活動など)
- 5 学術や教養に関すること(例：文学、歴史、科学、語学など)
- 6 趣味やけいこ事に関すること(例：音楽、美術、華道、舞踊、書道など)
- 7 スポーツやレクリエーションに関すること  
(例：野球、サッカー、卓球、テニス、ダンス、登山、ハイキングなど)
- 8 パソコンやインターネットに関すること  
(例：WordやExcelの活用講座、ホームページの作り方など)
- 9 人生や生き方に関すること
- 10 その他 ( )
- 11 特に行っていない(→Q2へお進みください)

Q1-1

(Q1で「1～10」に1つでも○を付けた方)

あなたは、どのような場所や形態でその生涯学習を行いましたか。  
(○はあてはまるものすべて)

- 1 公民館、図書館、体育館などの公共施設が行う講座や教室等への参加
- 2 学校(小・中学校、高等学校、大学など)の公開講座や教室等への参加
- 3 大学、短期大学、専門学校、その他の学校への入学、または、再入学
- 4 カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室等への参加、  
通信教育の受講
- 5 同好者が自主的に行っているグループ・サークルへの参加
- 6 パソコンやインターネットなどを活用した個人学習
- 7 書籍などを使用した個人学習
- 8 自治会やNPO団体などが行う講座や教室等への参加
- 9 職場内研修、会社が指定する外部研修等への参加
- 10 その他 ( )

Q1-2

(Q1で「1~10」に1つでも○を付けた方)

あなたは、その生涯学習を通じて、人や地域とのつながりができましたか。(○は1つだけ)

- 1 つながりができた
- 2 つながりができなかった
- 3 元々つながりがあった
- 4 分からない

Q1-3

(Q1で「1~10」に1つでも○を付けた方)

あなたが、その生涯学習を行うようになったきっかけは何ですか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 自ら学習・活動したくなったから
- 2 職場、学校などから指示されたり、勧められたりしたから
- 3 家族、友人、知人などに誘われたから
- 4 自由な時間を活用したいから
- 5 その他 ( )
- 6 特にない
- 7 分からない

Q1-4

(Q1で「1~10」に1つでも○を付けた方)

あなたは、どのような目的でその生涯学習を行うようになりましたか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 仕事や就職に活かしたり、資格を取ったりするため
- 2 生活上の課題を解決したり、日常生活に役立てたりするため
- 3 教養を高めるため
- 4 趣味を豊かにするため
- 5 健康の維持・増進に役立てるため
- 6 地域活動・ボランティア活動に役立てるため
- 7 知人を増やしたり、交友関係を広げたりするため
- 8 自分の生き方を見直したり、新たな生き方を考えたりするため
- 9 その他 ( )
- 10 特にない
- 11 分からない



**ここからは、再びすべての方にお聞きします。**

Q2

あなたが、生涯学習活動を行おうとするとき、どのようなことが支障になりますか。（〇はあてはまるものすべて）

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 1 仕事が忙しくて時間がない    | 10 自分の希望する講座がない            |
| 2 家事が忙しくて時間がない    | 11 必要な情報がなかなか入手できない        |
| 3 学習活動には費用がかかる    | 12 生涯学習について相談する場所がない、人がいない |
| 4 育児のために時間がない     | 13 きっかけがつかめない              |
| 5 親などの介護のために時間がない | 14 生涯学習には関心がない             |
| 6 家族の理解が得られない     | 15 その他                     |
| 7 職場の理解が得られない     | 16 特にない                    |
| 8 一緒に学習活動する仲間がいない | 17 分からない                   |
| 9 身近なところに施設や場所がない |                            |

Q3

あなたは、生涯学習に関する情報をどのように得ていますか。（〇はあてはまるものすべて）

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 1 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ                  |   |
| 2 市報さいたま、生涯学習情報誌、公民館報、自治会掲示板・回覧板 |   |
| 3 インターネット、SNS                    |   |
| 4 市役所や公民館などの公共施設（ポスター・チラシなどを含む）  |   |
| 5 学校や職場（ポスター・チラシなどを含む）           |   |
| 6 駅や路上、商業施設など（ポスター、チラシなどを含む）     |   |
| 7 家族、友人、知人などから                   |   |
| 8 その他（                           | ） |
| 9 特に情報を得ていない                     |   |

Q4

あなたは、生涯学習に関して、どのような情報を知りたいですか。（〇はあてはまるものすべて）

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1 公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室の情報 |   |
| 2 大学などで開催される講座の情報                  |   |
| 3 カルチャーセンター、スポーツクラブなど民間施設の講座・教室の情報 |   |
| 4 生涯学習施設の設備や空き状況などの情報              |   |
| 5 サークルや同好会の活動の情報                   |   |
| 6 地域活動やボランティア活動に関する情報              |   |
| 7 指導してくれる講師に関する情報                  |   |
| 8 資格取得に関する情報                       |   |
| 9 その他（                             | ） |
| 10 特にない                            |   |
| 11 分からない                           |   |

Q5

あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識や技能を、どのように活かしていますか。（〇はあてはまるものすべて）

- 1 自分の人生がより豊かになっている
- 2 自分の健康維持・増進に役立っている
- 3 家庭や日常の生活に活かしている
- 4 仕事や就職に活かしている
- 5 さらに深い知識や技能を身につけるために役立っている
- 6 ボランティアなど地域活動に活かしている
- 7 他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に活かしている
- 8 その他（ ）
- 9 活かす機会がない
- 10 活かそうとは思わない

Q6

あなたは、生涯学習で身につけた知識や技能を活かすために、どのような活動に参加してみたいと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

- 1 休日や放課後に子どもたちの学習やスポーツなどを支援する活動
- 2 子育て・家庭教育を支援する活動
- 3 青少年の健全育成を支援する活動
- 4 まちづくり・地域づくりを支援する活動
- 5 防災、環境、少子高齢化、人権、男女共同参画などの社会問題に関する活動
- 6 他の人の学習やスポーツなどを指導する活動
- 7 その他（ ）
- 8 特にない
- 9 分からない

Q7

社会や地域の課題の中で、あなたが関心のある学習テーマは何ですか。（〇はあてはまるものすべて）

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 防災・防犯に関すること        | 9 地域の歴史・文化・自然に関すること  |
| 2 環境保護に関すること         | 10 まちづくり・地域づくりに関すること |
| 3 子育て・家庭教育に関すること     | 11 人権に関すること          |
| 4 青少年の健全育成に関すること     | 12 男女共同参画に関すること      |
| 5 世代間交流に関すること        | 13 国際交流に関すること        |
| 6 健康（保健・医療・福祉）に関すること | 14 その他（ ）            |
| 7 少子高齢化に関すること        | 15 特にない              |
| 8 障害者福祉に関すること        | 16 分からない             |

## 次に、生涯学習に関連する施設についてお聞きします。（Q8～Q9）

Q8

あなたは、この1年間に、市内のどの生涯学習関連施設を利用しましたか。（〇はあてはまるものすべて）

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 生涯学習総合センター・公民館               | 8 小・中・高等学校、大学などの学校教育施設      |
| 2 図書館                          | 9 カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設  |
| 3 博物館・科学館・美術館                  | 10 自治会館・自治集会所など地域の施設        |
| 4 市民活動サポートセンター                 | 11 その他（ ）                   |
| 5 コミュニティセンター                   | 12 利用していない<br>（→Q9へお進みください） |
| 6 体育館・テニスコート・プールなど公共のスポーツ施設や公園 |                             |
| 7 市民会館・文化センター、プラザウエストなどの文化施設   |                             |

Q8-1

（Q8で「1～11」に1つでも〇を付けた方）

Q8の施設の中で、あなたが最も頻繁に利用した施設の番号をご記入ください。（番号は1つだけ）

## ここからは、再びすべての方にお聞きします。

Q9

あなたは、市の生涯学習関連施設について、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 小さくても身近な所に施設を作る        | 8 学校の教室などをさらに利用しやすくする   |
| 2 遠くても規模の大きい施設を作る        | 9 職員の対応、サービスを向上する       |
| 3 交通の便のよい所に施設を作る         | 10 インターネットで予約がしやすくする    |
| 4 施設の数を増やす               | 11 多様な学習に活用できる総合型の施設を作る |
| 5 駐車台数を増やす               | 12 その他（ ）               |
| 6 既存の施設を誰もが利用しやすい施設に改修する | 13 特にない                 |
| 7 設備を充実する                | 14 分からない                |

次に、生涯学習に関する施策についてお聞きします。(Q10~15)

Q10

あなたは、生涯学習について、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

- 1 働いている人、就職を希望する人などを対象とした職業教育を増やす
- 2 地域活動やボランティア活動を行っている人を支援する
- 3 地域や社会における人材育成の取組みを推進する
- 4 生涯学習団体の交流やネットワークづくりを支援する
- 5 スポーツ・レクリエーション活動を推進する
- 6 乳幼児、青少年、成人、高齢者など、年代に応じた事業を行う
- 7 学習情報の提供や学習相談を充実する
- 8 学習の成果を活かせる機会を増やす
- 9 学校と家庭、地域が連携した取組みを促進する
- 10 NPO などの団体や大学などと協働した事業を増やす
- 11 カルチャーセンター、スポーツクラブなど民間施設の活動を促進する
- 12 その他 ( )
- 13 特にない
- 14 分からない

Q11

あなたは、生涯学習を広めるために、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

- 1 市民ニーズの高い講座を数多く開催する
- 2 文化祭や 1 日体験会などを増やし、きっかけづくりに力を入れる
- 3 講座やイベントの企画に市民の意見を取り入れる
- 4 サークル活動を行う団体を増やす
- 5 講座やイベントの情報発信を強化する
- 6 カルチャーセンター、スポーツクラブなど民間施設の情報を収集・提供する
- 7 施設や設備を改修し、利用しやすいようにする
- 8 公民館だけでなく、学校の教室や体育館などを積極的に貸し出す
- 9 講座等への参加者など、生涯学習に取り組んでいる人に対して新たな情報を提供する
- 10 学んだ成果を活かしたり、学びを通じてつながれたりする機会を増やす
- 11 その他 ( )
- 12 特にない
- 13 分からない

Q12

あなたは、家庭教育に関する施策について、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

- 1 子育て・家庭教育支援に関する情報の普及・啓発
- 2 子育て講座、親の学習講座などの充実
- 3 親同士が情報交換や交流ができる場や機会の提供
- 4 子育てサポーターやボランティアなどの人材の養成
- 5 学校と家庭、地域が連携した取組みの促進・支援
- 6 親子で参加できる事業や体験型事業の充実
- 7 生活習慣や食習慣の向上のための取組みの推進
- 8 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する情報の普及・啓発
- 9 父親の育児参加を促す講座や演習の充実
- 10 その他（ ）
- 11 特にない
- 12 分からない

Q13

あなたは、高齢者に対する施策として、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

- 1 高齢者向けの講座や演習を増やす
- 2 サークル活動を行う高齢者の団体を増やす
- 3 高齢者向けの講座やサークルの情報を積極的に提供する
- 4 講座やインターンシップなどにより高齢者の就労を支援する
- 5 地域活動、ボランティア活動を行う高齢者の人材を育成する
- 6 高齢者同士が仲間づくりや交流のできる場や機会を増やす
- 7 世代間交流ができる場や機会を増やす
- 8 高齢者が利用しやすい生涯学習関連施設を整備する
- 9 出張講座やインターネットを活用した講座など、移動の負担が少ない講座を増やす
- 10 その他（ ）
- 11 特にない
- 12 分からない

Q14

あなたは、学校と家庭及び地域住民の連携を推進することについて、どのような点に力を入れる必要があると思いますか。  
(○はあてはまるものすべて)

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 放課後や休日の子どもの居場所づくりを地域住民が支援する | 5 子どもの健全育成などに関する活動をする地域の団体を育成する |
| 2 学校と地域住民が協力して子どもの安全を守る       | 6 教室・体育館などを地域住民が使いやすいように開放する    |
| 3 学校の授業や部活動などに地域の人材を活用する      | 7 その他 ( )                       |
| 4 地域住民の意見を学校運営に取り入れる          | 8 特にない                          |
|                               | 9 分からない                         |

Q15

あなたは、社会人や就労希望者が、スキルアップや再チャレンジのための学び直しをしやすくするには、どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。(○はあてはまるものすべて)

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1 学び直しに関する学習情報を提供する                |
| 2 就職や資格取得などに役立つ社会人向けの講座などの学習機会を増やす |
| 3 仕事以外の生活や教養に関する講座などの学習機会を増やす      |
| 4 放送やインターネットなどを使った講座などの学習機会を増やす    |
| 5 大学や大学院などが実施する講座などの学習機会を増やす       |
| 6 公民館や図書館などが実施する講座などの学習機会を増やす      |
| 7 大学や大学院などが土日、祝日や夜間における授業を増やす      |
| 8 授業料や受講料など学費の負担に対する補助を行う          |
| 9 学び直しに対する理解を高めるため、企業などへ働きかける      |
| 10 学び直したことを社会的に評価するための仕組みを検討する     |
| 11 その他 ( )                         |
| 12 特にない                            |
| 13 分からない                           |

Q16

あなたが、日ごろ学習活動について感じていることを、自由にお書きください。











平成 30 年度  
さいたま市 生涯学習市民意識調査  
報告書

---

発行 さいたま市教育委員会  
生涯学習部 生涯学習振興課 企画振興係  
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6-4-4  
電話 048 (829) 1704 (直通)  
FAX 048 (829) 1990  
E-MAIL shogai-gakushu-shinko@city.saitama.lg.jp

調査実施 株式会社 物流科学研究所  
〒330-0052 さいたま市浦和区本太 2-2-36  
SUNCREST 302  
電話 048 (887) 3790

---

[このさいたま市生涯学習市民意識調査業務の委託に要する経費は、108 万円です。]